

くすり関連施設基本構想・基本計画

平成 31 年 3 月

富山市

目 次

はじめに

5

基本構想編

6

I 基本構想策定にあたって 7

- 1 富山を象徴する拠点施設の必要性
- 2 施設のテーマを「くすり」とする理由
- 3 整備予定地

II 基本構想策定にあたっての課題と現状 9

- 1 経過と課題
- 2 各種上位計画・関連計画の整理
- 3 富山売薬関連資料について
- 4 周辺環境と市内くすり関連施設の現状
- 5 関連法令の整理

III くすり関連施設の基本的な考え方 21

- 1 基本理念
- 2 基本方針
- 3 利用者のイメージ

IV くすり関連施設に必要な要素 23

- 1 機能
- 2 機能を実現するための方法
 - 2-1 展示・体験プログラム
 - 2-2 交流・サービスプログラム
 - 2-3 未来創造プログラム
- 3 施設の配慮事項
- 4 管理運営
- 5 整備スケジュール

基本計画編

32

I 基本計画策定にあたって 33

- 1 基本的考え方
- 2 薬都とやまと信用3本柱
- 3 基本計画の位置付けと構成

II 事業計画 35

- 1 基本的考え方
- 2 各事業

III 施設計画 45

- 1 基本的考え方
- 2 整備予定地の条件等
- 3 施設が有する機能
- 4 建築意匠の考え方

IV 展示計画 55

- 1 基本的考え方
- 2 展示構成
- 3 展示イメージと手法

V 管理運営計画 71

- 1 基本的考え方
- 2 管理運営の取り組み
- 3 管理運営手法

VI 今後の事業展開について 77

- 1 基本的考え方
- 2 開館に向けた取り組み
- 3 くすり関連施設の今後の検討課題

資料編

I くすり関連施設基本構想等策定委員会	83
1 策定経過	
2 設置要綱	
3 策定委員会名簿	
II くすり関連施設調査	87
1 市内のくすり関連施設の概要	
2 市外のくすり関連施設の概要	
III ヒアリング等調査	89
1 ワークショップ	
2 関係者インタビュー	
3 配置従事者意見交換会	
IV 周辺環境調査	95
1 城址公園整備計画	
2 市内施設調査	
3 周辺環境調査	
V 社会動向調査	105
1 観光概況調査	
2 ミュージアム等文化関係調査	
3 スマートシティ・ヘルスケアタウン調査	

用語編

111

はじめに

300年以上の歴史と伝統を持つ富山売薬は、富山から全国へ商圏を広げ、「くすりといえば富山、富山といえばくすり」といわれるほど有名になり、本市産業の発展の礎となりました。現在も、富山売薬を含む医薬品産業は、富山の代表的な地場産業であり、多種多様なメーカーが集い、高い技術力を有する日本の医薬品生産拠点「薬都とやま」として、発展を続けています。

くすり関連施設の整備については、市議会や商工会議所からまちなかにくすりをテーマとした施設の整備について要望を受けたことなどから、富山市くすり関連施設検討委員会を設置して、平成20年度に基本構想を策定しました。

その後、整備予定地隣接地での災害対策施設の整備が優先されたことなどから、策定から10年近くが経過いたしました。

そのため、本市では、平成29年度に、有識者等による検討会議を設置して、北陸新幹線の開業やガラス美術館の開館などの社会環境の変化を踏まえ、構想内容の確認や課題の整理を行いました。この検討会議で基本構想の見直しが必要と提言されたため、改めて外部の有識者などによるくすり関連施設基本構想等策定委員会を設置し、いただいたご助言等を踏まえながら「くすり関連施設基本構想・基本計画」を策定したものです。

私たちは、貴重な文化財や人々の足跡を適切に守り、未来へ継承する責務があります。これまでの富山のくすりの歴史を将来に引き継ぐ富山のくすりの拠点施設として、また、人々が集い、学び、未来を創造する場として、くすり関連施設の整備に取り組んでまいります。

最後に、基本構想・基本計画の策定にあたり、ご意見をお寄せいただいた市民、業界、有識者の皆さま、高所大所から議論をいただいたくすり関連施設基本構想等策定委員会の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、くすり関連施設の整備に向けて、市民の皆様の一層のお力添えをお願い申し上げます。

平成31年3月 富山市

基本構想編

基本構想編

I 基本構想策定にあたって

1 富山を象徴する拠点施設の必要性

本市は、豊富な水資源や安価な電力、勤勉な労働力などを背景に、伝統産業である医薬品をはじめ機械、電子部品等の製造業を中心に、日本海側有数の工業都市として発展してきた。また、県都として、居住・就業・娯楽等の市民生活に必要な機能が集積し、公共交通網等の整備も進んでいる。

北陸新幹線の開業によって、広域交流が活発になる中で、これまで大事に守り育んできた富山の自然や歴史、文化が広く伝わる状況となっている。

このような状況を踏まえ、本市には日本海側有数の中核都市として、高次都市機能の集積を生かし、産業・経済・文化・観光等の活発な交流により、地域を牽引する役割への期待やより広域的な競争環境への柔軟な対応が求められている。

この機会を捉えて、本市の魅力を一層高め、発信していくためには、市の認知度を総合的・戦略的に高めるシティプロモーションとともに、市民一人ひとりが、「富山らしさ」を再確認し、まちに対して愛着や誇りを抱くシビックプライドの醸成に貢献するテーマをコンセプトとする施設の整備を検討することが必要である。

2 施設のテーマを「くすり」とする理由

(1) 歴史的な背景を持つ「薬都とやま」

富山のくすりは、300 余年の歴史を有し、富山売薬の活動によって、医療が未発達な時代から、諸国の人々の健康増進や文化交流に大きく貢献しており、現在も市内には重要なくすりに関する文化財や資料が数多く存在している。こうした先人たちが培ってきた「薬都とやま」の歴史・伝統を後世に伝えるため、貴重な資料の散逸を防ぐ必要がある。

(2) 大切にされてきた「信用3本柱」

富山売薬は、「信用3本柱」^{※1}（商いの信用、くすりの信用、人の信用）の精神を大切にして、先用後利^{※2}という配置薬の販売方法を取り入れた。これが、現在の産業の礎をつくり、現在の「薬都とやま」につながったことを、次世代に伝え継承する必要がある。

I 基本構想策定にあたって

(3) 「薬都とやま」を伝える発信情報の必要性

これまで売薬業が核となって関連産業が成長し、富山市を薬都として発展させたように、「薬都とやま」がさらに発展するための、連携や創造を生み出す拠点が必要である。また、市内には、「薬都とやま」を物語るくすり関連施設や「富山やくぜん」を提供する店などが点在している。これらを有効に活用するために、くすりを軸とした発信拠点が必要である。

3 整備予定地

図書館旧本館があった城址公園に隣接する整備予定地は、富山売薬の祖として尊敬され、業界の誇りとなっている前田正甫公^{※3}（1649～1706）の居城があったところであり、城址公園内には、その像も建立されている。

戦後、図書館旧本館が設置される前は、商工奨励館が建設されており、戦後の医薬品産業発展の象徴になった場所である。さらに富山城は富山市域の中でも「都心地区」に位置し、富山の顔であることから、富山を代表するブランドであるくすりの拠点施設となる本施設の整備予定地を、城址公園に隣接する図書館旧本館跡地として整備を行うものである。

※1 信用3本柱

富山売薬が行商を行う上で、大切にしてきたこと。「商いの信用」「くすりの信用」「人の信用」の3つの信用を指す。「商いの信用」の基本は、顧客との間にトラブルを起こさず、不正な商いをしないということ。

「くすりの信用」は、有効で安全な品質の高いくすりを提供すること。のために、絶えず顧客の求めるくすりをリサーチし、品質開発に努めなければならない。

「人の信用」は顧客の悩み相談に乗って、適切なアドバイスを行ったり、励ましたりすることで信頼関係が作られることを示す。

参考：（一社）全国配置薬協会HP

※2 先用後利

先に薬を得意先に預けて使用してもらい、使った分の代金だけを後から受け取って利益とするという意味である。

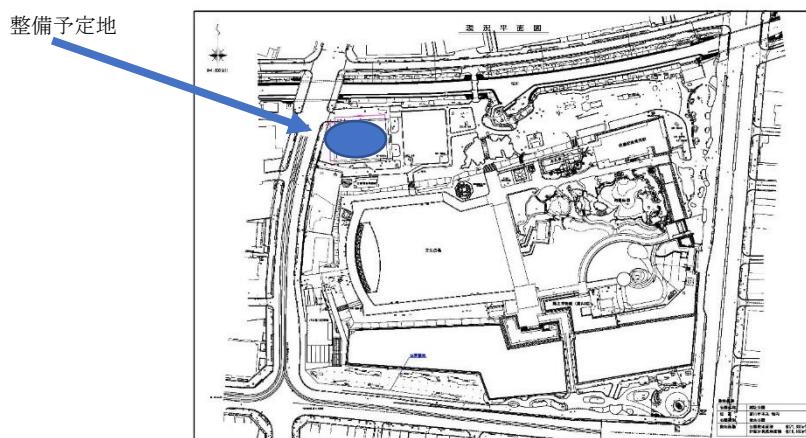
出典：「都市“富山”の400年」富山市郷土博物館 図録

※3 前田正甫公

前田正甫公は、富山藩の第二代の藩主であり、売薬業の生みの親ともいわれ、藩政の充実に力を注ぎ、藩の財政の立て直しのため、領内産業の振興を図った。不朽の業績として名をとどめるのは、反魂丹を基盤にした富山売薬業の開発である。

富山売薬業の形成に、正甫公の果たした役割は大変重要であるということで、正甫公を富山売薬の祖として尊敬し、また藩主によってこの産業が打ち建てられたことを業界の誇りとしてきた。

参考：富山県薬業史 通史



II 基本構想策定にあたっての課題と現状

基本構想の策定にあたり、事業の経過、課題を整理し、現況として関係する市の各種上位計画及び売薬資料・他にくすり関連施設の状況、周辺環境等について課題と現状を整理した。

1 経過と課題

(1) 経過

「くすり関連施設」整備については、市議会や商工会議所から要望を受け、府内横断組織や平成20年度に「くすり関連施設検討委員会」を設置し、「くすり関連施設基本構想」を策定した。

平成20年度策定の基本構想は、観光振興等を目的として策定されており、策定後10年近く経過し、北陸新幹線の開業や「キラリ(富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館)」、「総曲輪レガートスクエア」等がオープンするなど、取り巻く環境も変化したことから、平成29年に学識経験者や経済・観光関係団体、薬業関係団体の代表者などで構成される検討会議を設置した。ここでは平成20年度の構想の確認や「くすりの富山」を実感できる施設について課題を整理し、幅広い視点から議論を深めていただいた。

その結果、検討会議においては、環境の変化を踏まえ、変化に見合ったものに修正する必要があるとの提言がなされた。

このことから、検討会議において整理された共通認識や基本構想策定に向けた課題を基に、30年度、改めて「くすり関連施設基本構想」等の策定に取り組むこととしたものである。

(2) 検討会議の提言

平成20年度に作った基本構想から約10年が過ぎ、
富山市における観光を取り巻く環境の変化、医薬品産業の変化などに
見合ったものに修正する必要がある。

(3) 共通認識

「富山のくすり」の歴史と精神を伝え、
富山売薬が、現在の産業の礎であることを
未来へ継承する必要がある。

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

共通認識に至った意見

- ・くすり関連施設は富山市に点在しており、連携がとれていない。
- ・くすりの歴史を知る配置従事者（売薬さん）数が減少、高齢化している。
- ・売薬関連資料は、製薬企業、配置業者などに保管されているが、製薬会社の廃業、くすりミュージアムの閉館等により、富山のくすりの歴史と産業発展の礎を知る資料が散逸する恐れが高い。また売薬関連資料の整理は年数とともに困難な状況になっており、今後明確な方針のもとに継承していかなければならない。
- ・くすりが富山の産業の礎であることを若い世代に継承する必要がある。

（4）基本構想策定に向けた課題

① 基本構想等策定委員会の設置

検討会議で検討された課題を具体化するために、検討を継続していく必要がある。

「薬都とやま」として、くすりの歴史の継承や医薬品産業ほか関連産業の正しい知識の普及にふさわしい活動内容、施設規模、予算、運営体制等について議論を深めていくために、平成30年以降に、基本構想・基本計画を策定するための委員会を設置する。

② 資料収集の継続

「くすり関連施設」を整備するにあたり、必要になるのが資料の収集である。現在、既存の展示施設や製薬企業、配置業者などに保管されている資料数等の調査・保存作業等が進められているが、本施設に必要な資料の検証作業や、写真・映像などを整理する必要がある。

③ くすり関連施設の核になる資料の収集

施設の核になる資料として、ふさわしいものを検討する必要がある。例えば漢方の貴重な資料として天然の生薬である草本や動物、鉱物標本を展示する場合は、その方法や劣化を低減する効果的な展示方法を検討する必要がある。

④ 語り部の育成

配置従事者（売薬さん）など、くすりの歴史を知り、懸場帳などを実際に活用していた体験者や養成されたガイドによる伝承活動、いわゆる「語り部」は大変に重要であり、「くすり関連施設」においても「語り部」の配置を検討する必要がある。そのためには、「語り部」として適切な人材を確保するとともに、その育成に取り組む必要がある。

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

⑤ インバウンド対応の人材育成

北陸新幹線の開通による交流人口の拡大や、個人旅行へのシフトなどにより、欧米やアジア圏のインバウンドが増加している。幅広い来館者に正しい知識と理解を促すため、多言語化の検討として、施設内の多言語対応や通訳等ができるボランティアの育成を検討する必要がある。

⑥ 管理運営体制の検討

本施設は、PPP[※]の導入を検討する対象施設であることから、市が民間の資金や経営能力、技術的能力を活用する方法（指定管理者制度や委託業務方式）等、管理運営体制を検討する必要がある。

⑦ 市内にある既存施設との連携

本施設は、中心市街地にある城址公園隣接区域に計画するが、市内に点在する小規模な「富山やくせん」レストラン、土産店など、くすり関連施設の特徴を活かした連携のあり方を検討していくものとする。

⑧ 民族薬物資料館のデータベースの活用

富山大学の民族薬物資料館（和漢医薬学総合研究所）に収載されている情報と連携して、漢方について発信する方法を検討する。西洋医学だけでなく、東洋医学やインド医学など幅広い医療や健康への知識を、データベースを通じて学ぶ仕組みについても、調査研究する必要がある。

※PPP (Public Private Partnership:パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携)

公民が連携して公共サービスの提供を行う手法の総称であり、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれる。

(出典：富山市公共施設等総合管理計画)

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

※上位・関連計画のなかから「くすり」に関する内容を抜粋

2 各種上位計画・関連計画の整理

くすり関連施設整備にかかる上位計画・関連計画については以下の各種計画等があるが、その中で基本構想等の内容を定める上で関係が深いと考えられるものを整理した。

各種上位・関連計画		
計画等名	内 容	事 業
第2次富山市総合計画 2017-2026 (平成29年3月)	<p>基本理念 安らぎ・誇り・希望・躍動 都市像 人・まち・自然が調和する活力都市とやまとちづくりの目標 人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】 政策 新たな価値を創出する産業づくり 施策 ものづくり・しくみづくりの強化 政策 観光・交流のまちづくり 施策 観光資源の創出・発信と受入体制の整備 政策 歴史・文化・芸術のまちづくり 施策 伝統的・文化・文化遺産の保全・活用 まちづくりの目標 共生社会を実現し誇りを大切にする協働のまち【協働・連携】 政策 市民の誇りづくり 施策 地域・自治体としてのブランディングとシティプロモーション 政策 市民の誇りづくり 施策 シビックプライドの醸成</p>	
富山市まち・ひと・しごと総合戦略 (平成30年10月改訂)	<p>基本目標1 安定した雇用を創出する～地方の中核を担う都市として躍動するまち～ 基本的方向 ア 中小企業の振興及び既存産業の高付加価値化 基本目標2 交流・定住を促進し、富山市への新しい人の流れをつくる～選ばれるまち～ 基本的方向 イ 広域型観光の推進と外国人観光客の誘客 ウ 地域資源を活用したコンテンツづくり エ シティプロモーションの推進 オ シビックプライドの醸成</p>	
富山市都市マスター・プラン (平成20年3月)	<p>まちづくりの理念 「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を目指す</p>	

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

計画等名	内 容	事 業
富山市中心市街地活性化基本計画 (平成 29 年 4 月)	<p><富山市中心市街地の都市像> 人が集い、人で賑わう、誰もが生き生きと活躍できるまち</p> <p>【公共交通・都市空間】 方針① 移動環境の充実と魅力あるまちなみの創出により、人で賑わう中心市街地の形成</p> <p>【商業・賑わい】 方針② まちなかの商業、文化等を活かした特徴的なエリアづくりを推進する中心市街地の形成</p> <p>【暮らし】 方針③ 都市機能が集積し、生涯安心して健康でアクティブに活動できる中心市街地の形成</p>	中心市街地における公共施設等跡地活用事業（くすり関連施設整備事業）
第 2 期富山市工業振興ビジョン（平成 31 年 3 月予定）	<p>テーマ ~キャッチフレーズ~ 持続可能な成長を目指す力強く活力ある「産業都市とやま」</p> <p>基本方針 1 地域を牽引するものづくり産業の活力強化 基本方針 2 成長産業のさらなる進化と新産業の創出 基本方針 3 企業誘致・拠点化による産業集積の強化 基本方針 4 活力を創出する人材確保・育成</p>	くすり関連施設整備事業
富山市観光戦略プラン (平成 29 年 3 月)	<p>基本戦略と基本目標</p> <p>① 基本戦略 富山らしい魅力の創出と戦略的プロモーション ② 基本目標 富山ブランドの育成とマーケティング強化</p>	くすり関連施設整備事業
第 2 次 富山市環境未来都市計画（平成 29 年 3 月）	<p>目指すべき将来像 都市のかたち、市民生活、産業活動</p> <p>基本目標 1 低炭素・省エネルギー 基本目標 2 医薬品関連産業の振興による地域経済の活性化</p>	
富山市レジリエンス戦略 (平成 29 年 3 月)	<p>レジリエンス戦略の柱 富山らしさの追及</p> <p>① 薬と共に発展してきた産業 テーマ別の戦略 レジリエントな経済的繁栄 具体案 薬都とやまのさらなる振興、体験型観光の促進</p>	
富山市 S D G s 未来都市計画 (平成 30 年 8 月)	<p>目指す将来像 コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現 3 つの価値 経済価値、社会価値、環境価値</p>	

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

計画等名	内 容	事 業												
富山市公共施設等総合管理計画 (平成 28 年 12 月)	<p>基本方針：PPP戦略の推進</p> <p>① 公共建築物の複合化・多機能化 ② 民間事業者の活用</p> <p>優先的検討プロセス（優先的検討対象）</p> <p>次の事項をすべて満たす事業（ただし、判定基準3を満たすものについては、判定基準2（事業費基準）を満たさないものであっても優先的検討対象とする）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"> </th><th style="width: 50%;">判定基準</th><th style="width: 40%;">判定方法等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td><td>延床面積 300 m²以上の公共施設等整備であること</td><td>事業担当課</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td><td>事業費基準を満たすこと</td><td>公共施設等整備事業調査結果等</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td><td>民間資金・能力活用基準を満たすこと</td><td>PPP事業手法検討委員会</td></tr> </tbody> </table>		判定基準	判定方法等	1	延床面積 300 m ² 以上の公共施設等整備であること	事業担当課	2	事業費基準を満たすこと	公共施設等整備事業調査結果等	3	民間資金・能力活用基準を満たすこと	PPP事業手法検討委員会	
	判定基準	判定方法等												
1	延床面積 300 m ² 以上の公共施設等整備であること	事業担当課												
2	事業費基準を満たすこと	公共施設等整備事業調査結果等												
3	民間資金・能力活用基準を満たすこと	PPP事業手法検討委員会												
城址公園（松川周辺エリ ア）整備基本計画（平成 30 年 8 月）	<p>城址公園の空間的、歴史的位置づけと期待される役割の整理</p> <p>周辺地域のあり方を含めて整備の方向性を示す</p> <p>① 富山の基盤である水と緑の体感 ② 富山の歴史文化の発信 ③ まちとの連結、まちへの誘導 ④ 地域住民の居場所、日常利用</p> <p>水の景、城の景、まちの景</p>													
富山市景観計画（平成 23 年 7 月）	<p>良好な景観の形成に関する方針</p> <p>基本目標① 豊かな自然や歴史文化を守り育む 基本目標② 住みつけたい、訪れてみたい、魅力と活力を創る 基本目標③ 自然景観、都市景観、生活景観などの様々な要素が重なり、つながり、調和する</p>													

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

3 富山売薬関連資料について

既存展示施設や製薬企業、配置業者などに保管されている資料数は、平成 27 年度までの調査から約 2,500 点あることが分かっている。（市売薬資料館（約 5,000 点）、薬種商の館金岡邸等は除く）

なお保管している資料数や保管状態等は施設により大きく異なる。

① 製薬会社などの保管資料総点数（平成 27 年調査報告書） ④ ⑤を含む

種類	保管資料点数
製薬関係資料	(1,557 点)
生薬・薬種	81 点
製薬道具	1,476 点
売薬関係資料	(320 点)
店売り	28 点
行商	236 点
広告	37 点
その他	19 点
その他	(393 点)
信仰儀礼	9 点
古文書	8 点
医学・医療用具	2 点
薬（薬袋、薬品見本、容器等）	6 点
その他（解説板、解説図等）	368 点
合計	計 2,270 点

※上記は、平成 22 年度、23 年度に資料数を調査し、平成 27 年度に報告書にまとめたものより引用

② くすり関連展示施設の展示物（平成 22 年調査結果）

施設名	資料点数	展示内容	備考
くすりミュージアム	約 70 点	生薬原料、製薬、売薬資料	平成 29.3 閉館
廣貫堂資料館	約 200 点	古文書、売薬資料、生薬資料	

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

③ その他くすり関連施設

施設名	資料点数	展示内容	備考
富山市壳薬資料館	約 5,000 点	壳薬資料、行商用具、製薬用具	
薬種商の館金岡邸	約 300 点	生薬原料、製造用具、壳薬版画	
富山大学 民族薬物資料館	約 29,000 点 (生薬標本)	生薬標本、生薬製材、壳薬資料、本草書	

※ホームページ、施設への確認による

④ 製薬会社所有の展示資料（平成 23 年調査 2,141 点 平成 30 年度再調査 2,378 点）

社名	資料点数	資料内容	備考
第一薬品工業	938 点	製薬用具、壳薬資料 等	
東亜薬品	901 点*	壳薬版画、薬袋 等	壳薬版画類 457 点
大同製薬	460 点	柳行李、預け箱、薬袋、写真 等	
島伊兵衛薬品	42 点	看板、上袋 等	
その他	37 点		明生薬品、 三九製薬 等

※東亜薬品の資料数は平成 30 年の再調査の結果による。

⑤ 配置事業者の展示資料（平成 22 年調査）

130 点（預け箱、神農像掛け軸、生薬箪笥、壳薬写真等）

（平成 27 年整理 くすり関連施設収集資料整理調査報告書より一部引用）

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

4 周辺環境と市内くすり関連施設の現状

(1) 富山市のまちづくり

① コンパクトなまちづくり

富山市は、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指しており、郊外の主要な市街地と中心部がつながっている。

② 城址公園の位置づけ

城址公園は、市街地の中心に位置し、市民の日常的な憩いの場や賑わいの場として機能する貴重な緑のオープンスペースであるとともに、数々の遺構や文化施設を有する富山市の歴史・文化を象徴する場所である。

(2) 富山市の河川とくすりの関係

壳薬業と川の関係については、現在の松川と鶴川（いたちがわ）の合流地点である「木町の浜」から東岩瀬への物資輸送が行われていたとされ、この物資輸送には北前船へと配置従事者（壳薬さん）の積み荷を乗せた船も行き来していたことが想定される。

(3) 中心市街地について

富山市の中心市街地は、相当数の小売商業、各種事業所、公共公益施設等が市内宅地の約7%という限られた範囲に集積し、様々な都市活動が展開されている。また、富山型のコンパクトなまちづくりの市域全体の拠点として位置付けられており、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいまちづくり等、これまで以上に質の高いまちづくりを目指すことが求められている。

(4) 城址公園周辺について

城址公園周辺に拡がる市街地は、およそ100年に及ぶ近代的な都市づくりの歴史を持つ地域であるとともに、富山県の県都としての役割を担ってきた地域である。

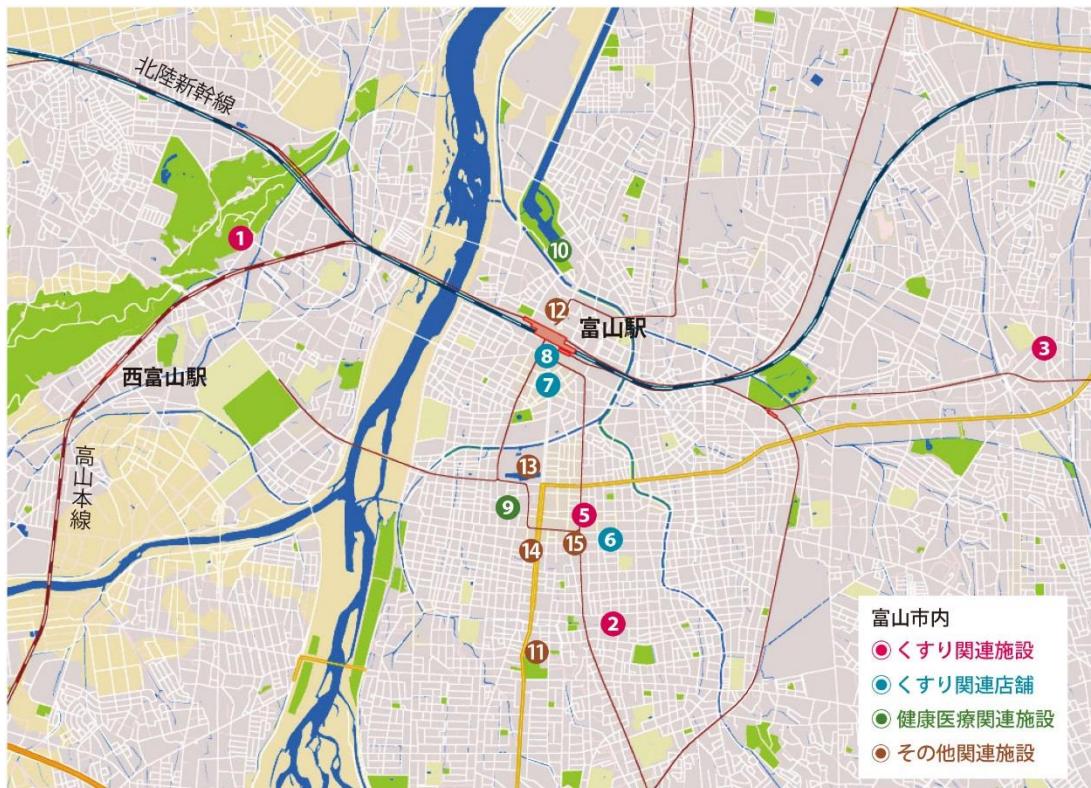
城址公園は都心地区に含まれ、周辺には、富山国際会議場が位置し、近くには、古くからの中心商店街や複合施設であるTOYAMAキラリといった芸術・文化拠点がある。また、富山駅周辺の南北一体的なまちづくりの推進、まちなかの魅力向上などの取り組みを通じた中心市街地の賑わい再生、歩行空間の整備・充実、良好な都市景観の創出、やすらぎ空間の創生などの取り組みが進んでいる。

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

(5) 市内くすり関連施設について

富山市内には、すでにくすり関連施設や関連店舗、健康医療施設が存在しているが、規模が小さく点在しているため、施設間の連携が取りづらい状況にある。

① 市内くすり関連施設等の位置



- くすり関連施設
 - ①富山市壳葉資料館
 - ②廣貫堂資料館
 - ③富山県民会館分館 薬種商の館 金岡邸
 - ④富山大学 民族薬物資料館
 - ⑤てるてる亭お休み処
- くすり関連店舗
 - ⑥池田屋安兵衛商店
 - ⑦丹霞堂 富山駅前店
 - ⑧癒楽甘 春々堂
- 健康医療関連施設
 - ⑨総曲輪レガートスクエア
 - ⑩ TOYAMA TOWN TREKKING SITE (TTS)

- その他関連施設
 - ⑪富山市科学博物館
 - ⑫北陸電力エネルギー科学館ワンダーラボ
 - ⑬富山市郷土博物館
 - ⑭森記念秋水美術館
 - ⑮富山市ガラス美術館

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

② 市内のくすり関連施設等の現状

施設名	施設規模	現況	入込数	
			平成 20 年度 基本構想時	平成 30 年 (1月~12月)
富山市 売薬資料館	867.3 m ²	1984（昭和 59）年設立 売薬に関する資料の収集、保管、展示を行う。 約 5,000 点を収蔵。1,818 点は「富山の売薬資料」として、国重要有形民俗文化財に指定。 別館・旧密田家土蔵：富山を代表する売薬商家であった密田家より資料とともに寄附された。 その他：江戸後期～明治期の売薬版画の絵はがきや複製画を販売。	11,860 人	8,536 人
富山県民会館分館 薬種商の館 金岡邸	437 m ²	1981（昭和 56）年 9 月設立 富山売薬業に関する資料を中心に資料を保存展示。 母屋：明治初期の薬種商金岡薬店を復元。 新屋：伝統的木造建築の特徴が生かされた総檜造りの建物。 薬たんす：半纏を着て記念撮影可能。 その他：薬研を体験できるコーナー有。	6,447 人	7,083 人
廣貫堂資料館	226 m ²	1994（平成 6）年 3 月リニューアル 昔ながらの薬づくりの道具や柳行李などの売薬用品、売薬の顧客管理簿である懸場帳、土産に用いられた売薬版画など展示。「富山の薬」の歴史を紹介した大型スクリーン映像有。 その他：富山のくすり、薬膳の食材を配合した飴やお菓子などを販売。	20,165 人	17,434 人
池田屋安兵衛 商店	100 m ²	1936（昭和 11）年設立 富山の中心市街地では最も古い木造建築物の一つ。 白壁と瓦の土蔵造りに、大きく「越中反魂丹」を染め抜いた店暖簾。珍しい金看板や、実際使っていた古い道具も展示。 座壳り：症状や体力・体质など話を聞いて処方。 丸薬製造体験：丸薬製造を無料体験できる。 健康膳 薬都：漢方の考えに習ったレストランを併設。	82,300 人	52,660 人
富山大学 民族薬物 資料館	1,085 m ²	1985年（昭和 60）7 月設立 漢方医学や中国医学で使用される生薬を主とし、インド医学やユナニー医学で使用される生薬などを含め、全 29,000 点余の生薬標本を保有。 植物押し葉標本（整理済約 34,000 点）、 生薬製剤（約 200 点）、配置薬資料、本草書など。 保有資料数や蒐集範囲の広さの点では世界第一の生薬博物館。	約 1,000 人 (約 10%は外国人)	
てるてる亭 お休み処	87.4 m ²	2018年（平成 30）6 月展示開始 反魂丹を富山に伝えた万代常閑翁の像や、百味筆箋を模したテーブルでくすり関連施設や富山やくせん認定店などを紹介、富山の薬の歴史等を紹介するパネルを展示。 その他：まちあるきスタンプラリーの中継地。	—	—

II 基本構想策定にあたっての課題と現状

5 関連法令の整理

計画地の現況図（敷地図）における関連法規制については以下の諸法令があるが、その中で建築計画上の諸条件を定める上で必要と考えられるものを整理した。

計画地の概要	
所在地	富山市丸の内一丁目
計画地規模	約 1,750 m ² (図書館旧本館跡地) 約 3,900 m ² (駐車場を含む)
関連法規	<p>都市計画法 市街化区域、用途地域：商業地域、建蔽率 80%、容積率 500%</p> <p>建築基準法 都市計画法に基づく</p> <p>富山市風致地区内における建築等の規制に関する条例 風致地区 (高さ 12m以下、建蔽率が 10 分の 4 以下)</p> <p>都市公園法 公園施設を管理しようとするときは、条例で定める事項を記載した申請書を公園管理者に提出してその許可を受けなければならない。</p> <p>富山市都市公園条例 第 2 条 一抜粋— 都市公園において次に掲げる行為をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。 (1) 業として写真又は映画を撮影すること。 (2) 興行を行うこと。 (3) 演説、集会、競技会、展示会、撮影会、博覧会その他これらに類する催しをすること。 (4) 行商、募金その他これらに類する行為をすること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が都市公園の管理上必要があると認める行為をすること。</p> <p>河川法 河川区域内の土地の占用については、河川区域内の土地を占用しようとする者は、河川管理者の許可を受けなければならない。</p> <p>文化財保護法 埋蔵文化財調査、切り盛り等の造成に関する規制</p> <p>富山市屋外広告物条例 屋外広告物に関する規制 第 1 種禁止区域 中心市街地地区広告物景観形成地区</p> <p>富山市景観まちづくり条例 景観計画区域 ○基本理念 ・立山連峰の眺望や自然環境との調和する景観まちづくり ・地域固有の歴史・文化・生活が反映した景観まちづくり ・市民の主体的な取組による景観まちづくり ・市民・事業者・市の協働で進める景観まちづくり</p> <p>医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（略称：医薬品医療機器等法・薬機法） ○虚偽・誇大な記事の広告・記述・流布の禁止。 ○医薬品、医薬部外品及び化粧品の製造販売には、品目ごとに厚生労働大臣の承認が必要。 ○構造設備・体制は厚生労働省令で定める基準に適合させること。</p> <p>博物館法 ○登録博物館の定義 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関。 ○都道府県教育委員会等の登録・指定が必要。 ○博物館には館長や専門的職員として学芸員を置くこと。 規定外施設の場合、設置主体、登録・指定、職員・開館日数・資料・施設設備等の制限なし。</p>

III くすり関連施設の基本的な考え方

1 基本理念

本施設の整備にあたっては、300年以上続く富山のくすりの歴史と文化、大切にされてきた精神を継承しつつ、「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）が優れた理念であることを踏まえ、これらを軸として市民とともに薬都とやまの未来像を考え、創造することを目指す。

【基本理念】

富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、
薬都の未来を市民とともに創造する

2 基本方針

本施設の基本理念を実現するため、4つの基本方針を以下に示す。

(1) シティブランディング

「薬都とやま」のブランドイメージを強化する

富山の歴史・文化とくすりとの関わりを明らかにし、「KUSURI」として未来に向けて、世界に向けて発信し、富山市の代表的なブランドとして確立する。「富山といえばくすり」のイメージを体感し、楽しむ機会と場を創出する。

(2) シビックプライド

産業の礎を築いた先人の知恵に学び、富山人としての誇りを育む

富山にはくすりという一つの産業を核に様々な産業を興し、企業群の集積をつくった力強さがある。現在に続く力強い産業の礎を築いた先人の知恵を学び、富山人としての誇りを育む場を創出する。

(3) 脳わい・回遊性

中心市街地の脳わいと回遊性を生み出す拠点を創出する

城址公園を拠点として、周辺のくすり関係施設等をつなぎ、まち歩きの楽しみを発信し、脳わいと回遊性を生み出す拠点を創出する。

III くすり関連施設の基本的考え方

(4) 産官学民連携

産官学民の連携により、「薬都とやま」の未来像を描く

薬業の活性化、産業の発展、ひいては薬都とやまの未来につながるよう産官学民連携を活用し、好循環社会の実現を目指す。中核的な位置づけという他館にはない特徴を持つとともに、他施設との連携等の新しい仕組みづくりを担う。

3 利用者のイメージ

(1) 考え方

市民や観光客、企業や大学など、多様な分野の利用者を想定する。

大きくは以下の3分野の利用者をイメージし、ニーズにあわせたプログラムを提供する。

(2) 分野ごとの利用者イメージ

市民のなかで「富山のくすり」に馴染みのある市民と馴染みのない市民、そして観光客に大別し、さらに具体的な利用者をイメージする。

富山のくすりに馴染みのない市民

- ・城址公園利用者
- ・県外からの移住者
- ・富山の歴史に触れる機会の少ない子供や若者

等

富山のくすりに馴染みのある市民

- ・研究活動紹介や大学カリキュラムの一環で訪れる大学関係者や学生、企業関係者
- ・本施設が行う多様な事業の参加者や担い手、本施設での事業展開の充実に協力してくれる方
- ・元「売薬さん」やその利用者など、富山のくすりに愛着と懐かしみを持つ方

等

観光客

- ・北陸新幹線開通後増加した広域観光を目的とした観光客
- ・MICEの推進等に伴って増加するビジネス客
- ・近年著しい伸びを示している外国人観光客

等

IV くすり関連施設に必要な要素

1 機能

富山のくすりの強みの一つは「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）を大切に、その精神を継承し、先用後利という仕組みを活用し、配置薬業を進め、広く「富山のくすり」を日本中に広めてきたことである。富山の厳しくも美しい自然の中で粘り強く人を育み、生まれてきたのが配置という商法であり、時代ごとに創意工夫しながらその強みを活かし、くすり産業を核に様々な産業を興してきた力強さがある。

このことを未来に継承するために、展示・体験により歴史と文化・精神を伝え、交流により魅力を発信し、薬都とやまの未来創造につなげるための機能が必要と考える。

（1）展示・体験機能

「富山のくすり」の歴史を基盤に、これらの精神性やエピソードを「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」展示展開を基本とする。

そのためにも配置従事者（売薬さん）など、くすりの歴史を知り、懸場帳などを実際に活用していた体験者からの証言を収集し、これらの証言や資料をもとに展示・体験を工夫する。

また、先端技術による創薬研究や技術を学び、体験できる展示も検討する必要がある。

（2）交流・サービス機能

教育・研究機関、他のくすり関連施設、企業・団体等との連携・交流により、薬都とやまの魅力の発信を行う。またくすりを軸にしたまち歩きの情報提供のほか、周辺施設の案内や、くすりに関する情報発信を行う。

（3）未来創造機能

「薬都とやま」の過去から今を紐解き、持続可能な富山の未来を創造するために、市民がどのような未来をつくっていきたいかを共に考え、語り合う場を提供する。ビジョンや課題を語り合い共有することにより、新たなアイデアの創生につなげ、また薬都とやまの次世代への継承や産業のイノベーションに貢献できるような機能を検討する必要がある。

IV くすり関連施設に必要な要素

2 機能を実現するための方法

2-1 展示・体験プログラム

(1) 基本的考え方

「薬都とやま」が大切にしてきた精神である「信用三本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）を軸として展示・体験プログラムを企画することを基本とする。

(2) 方法

生薬や売薬用具、売薬版画コレクションをはじめとした、富山のくすりの特徴を歴史的に物語る实物資料、売薬さんの証言などの薬業に関わる貴重な記録のほか、見るだけでなく五感で感じる展示やデジタル技術による疑似体験等、子どもから専門家まで多様な利用者が楽しむことのできる展示・体験プログラムを立案する。

(3) 具体イメージ

① 「薬都とやま」の歴史を感じる展示・体験

「薬都とやま」のはじまりと発展した過程を明らかにするとともに、実際に使われていた資料や道具、先用後利のシステムの先進性や現代のデータベースともいえる懸場帳の読み解き方などの展示・体験プログラムとする。

② 「薬都とやま」の文化と精神を感じる展示・体験

「富山のくすり」が育んだ文化の側面を感じられるような展示・体験プログラムを設ける。富山売薬が大切にしてきた「信用3本柱」の理解、富山売薬に関して発展してきた文化と芸術、富山のくすりに関わる人々の証言などを活用した展示・体験プログラムとする。

③ 「薬都とやま」の今と未来を感じる展示・体験

最新の創薬研究や技術を体験できる展示・体験プログラムを産業界や大学・学校、市民・団体、行政などの幅広い分野の参画・協力を得て検討する。また富山市民がどのような未来をつくりていきたいかを共に考え、語り合う場の創出等を、展示・体験プログラムとする。

IV くすり関連施設に必要な要素

(4) 展示・体験イメージ

「富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、薬都の未来を市民とともに創造する」という基本理念を受けて、展示は「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）をデザインコンセプトの柱とし、精神性やエピソードを「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」展示とする。

ゾーン構成

薬都とやまのプランディングコア “信用3本柱”
(商いの信用、くすりの信用、人の信用) を軸として5つのゾーンから構成する。

- ①薬都を感じる
- ②歴史を感じる
- ③文化を感じる
- ④くすりを感じる
- ⑤未来を感じる



① 薬都を感じる

薬都とやまの今を実感してもらう。薬都を感じるまち歩きの案内や薬都とやまのデータを体感し、学んでもらうなど、薬都とやまへの関心を高めることをねらいとする。



② 歴史を感じる

売薬さんの歴史等を資料や実物でわかりやすく展示し、歴史を感じてもらうことをねらいとする。



③ 文化を感じる

富山売薬にまつわる文化的資料などを紹介し、薬都とやまの文化を感じてもらうことをねらいとする。



IV くすり関連施設に必要な要素

④ くすりを感じる

くすりの素材やしくみ、技術、デザイン等
くすりを五感で感じてもらうことをねらいと
する。



⑤ 未来を感じる

未来創造の展示を体感し、未来への関心を
高め、共に創造する機運を高めることをねらい
とする。



IV くすり関連施設に必要な要素

2-2 交流・サービスプログラム

(1) 基本的考え方

薬都とやまの拠点として、既存のくすり関連施設との連携や情報発信を担うため、くすりを軸としたさまざまなプログラムを展開し、交流の創出を図ることを基本とする。

(2) 方法

関係する各機関との協議を通して具体化を進め、富山市内に点在するくすり関連施設をネットワーク化し、点在する関連施設との相乗効果を生みだすため、企画展の共催や体験学習会、講演会等への職員の相互派遣も検討する。また関係する各機関と共同で各種事業を実施するとともに、くすり体験ツアーやスタンプラリー等の連携・利用促進イベントの実施も検討し、「薬都とやま」のブランドイメージを市内外へ強力に発信し浸透させていく。

(3) 具体イメージ

① 拠点施設としての情報発信

市内に点在する既存のくすり関連施設や、「富山やくせん」認定店などと連携し、拠点としてふさわしい情報提供を行う。ホームページではくすり関連施設の利用案内、展示案内、講演会やワークショップの開催案内、「薬都とやま」まち歩き案内、既存のくすり関連施設などとのネットワーク連携・情報共有のほか、各施設の特色やイベントなどの情報発信にSNSを組みこむなどの工夫を行う。

② 語り部などを活用した体験・学習やまち歩きのプログラムなどの開発

配置従事者（売薬さん）など、くすりの歴史を知り、懸場帳などを実際に活用していた体験者や養成されたガイドによる伝承活動「語り部」が重要であり、適切な人材の確保、育成に取り組む。

また既存のくすり関連施設や、くすりの歴史的建造物、「富山やくせん」認定店などくすりを軸としたまち歩きのプログラムを開発して連携を深め、発信する。

③ 周辺施設と連携した物販・飲食、くすりの販売

飲食・物販に関しては、城址公園や周辺レストラン店舗と連携を図ることを基本とし、具体的な展開については基本計画にて検討を行う。薬都とやまをPRするうえで必要なプログラムとなるくすりの販売等を行う。

④ 資料の収集と活用（資料の体系的な分類とデータベースの構築）

関連施設で保有する資料の種類や内容などについて、写真や情報を記録したデータを作成・整理し体系的な分類を行う必要がある。この整理したデータをもとに、閲覧可能となるデータベースとして構築し、公開する。

IV くすり関連施設に必要な要素

2－3 未来創造プログラム

(1) 基本的考え方

「薬都とやま」が大切にしてきた「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）の精神を継承し「薬都とやま」の過去から今を紐解き、未来を創造することを目的としたプログラム開発を基本とする。

(2) 方法

利用者がくすりについて学び、語り合い、その取組みを公開・共有することによって、新たなアイデアの創生や産業のイノベーションに貢献できる場を提供する。その方法として、産業界や大学・学校、市民・団体、行政などの幅広い分野からの参画や、新機軸を切り開いたイノベーターとの連携等を基に、未来創造プログラムを立案する。

(3) 具体イメージ

① 幅広い分野の人々と連携したイベント、ワークショップの開催

産業界や大学・学校、市民・団体、行政などの幅広い分野の参画・協力を得て、未来創造を目的とした、各種事業の実施や連携・利用促進イベント等の企画等を行う。

くすりのイメージを活かして、未来の健康づくりという生活の視点から、「富山やくせん」認定店等の協力を仰ぎ、商品開発ワークショップ等を行う。

② 未来創造につながる情報の発信

産官学民が参加できる交流会やワークショップ・最新動向のプレゼンテーションを行うなど、未来創造のプロセスを発信する。

市内の他のくすり関連施設と連携し、企画展の共催や体験学習会、くすり体験ツアー やスタンプラリー等の連携・利用促進イベントなどを発信する。

③ 薬都とやまの未来に向けた新しい価値創造につながるイベント等

薬都とやまの未来に向けて幅広い分野の人々が語り合う場を設定し、新たなアイデアの発想等へと発展するようなイベントや活動を企画する。例えばマーケティング戦略の協働企画や、さまざまな分野の有識者をファシリテーターに迎えた展示や体験プログラムの企画検討などを行う。

3 施設の配慮事項

(1) 基本的考え方

場所の特性から透過性の高い壁面とし、くすり関連施設であることが外部からうかがえる施設とする。

また「城址公園の北西角のエントランス」や「市内観光を含めた案内情報提供」、「交通結節点として気軽に立ち寄れる待合スペース」等の利用者の利便性が向上する機能を取り入れる。

(2) 内容

① 施設構成

- ・城址公園と一体的な活用ができるよう、また交流が生みだされるような構成とする。
- ・くすり関連施設であることが、外からうかがえる施設構成とする。
- ・ニーズの変化や内容の陳腐化に伴う変更に容易に対応できる構造とする。
- ・老若男女、障害を持つ人、外国人など多様な利用者に対応できるようなデザインに配慮する。

② 配置

- ・城址公園全体計画のコンセプトや、文化財、既存樹木との関係に配慮する。
- ・松川沿いの立地を活かし、水辺空間との関係を活用、周辺施設との連携・回遊性を図る。

③ 意匠

- ・魅力と活力を創出する市の「顔」にふさわしく、かつ城址公園及び周辺の景観と調和を図れる意匠とする。
- ・富山の豊かな水や自然の恵み、薬都とやまのイメージを建築意匠に反映する。

④ 条件 ※「富山市風致地区内における建築等の規制に関する条例」に基づく

- ・高さ制限 風致地区のため 12m以下
- ・建蔽率 40%以下

4 管理運営

(1) 基本的考え方

来館者と館スタッフのコミュニケーションを大切にする中で、運営にあたっては、継続的に利用者のニーズや満足度等を把握し、その結果を生かした管理運営体制の構築により利用者満足度の向上を図る。

(2) 運営方式

「富山市公共施設等総合管理計画及び富山市PPP/PFI手法導入優先的検討規程」に基づき、「くすり関連施設」はPPPの導入を検討する対象施設であることから、市が民間の資金や経営能力、技術的能力を活用する（指定管理者制度や委託業務方式）等、管理運営体制を検討する必要がある。

(3) 事業方針

① 市民の参画を促し、市民とともに創造する管理運営

事業の企画段階から、市民の参画を促し、ともに創造する管理運営体制を確立するとともに、市内外の専門家や関係機関等との連携・協力体制を構築し、市民をはじめ、さまざまな人々・機関とのパートナーシップによる管理運営を推進する。

② 連携強化のための体制づくり

地域との交流機能を有機的に推進していくために、組織においても、横断的に業務が遂行できるよう工夫を行う必要がある。富山市全域に点在するくすり関連施設をネットワーク化し、企画展の共催や体験学習会、講演会等協働による取り組みを行う。

③ 未来創造事業を実現する管理運営

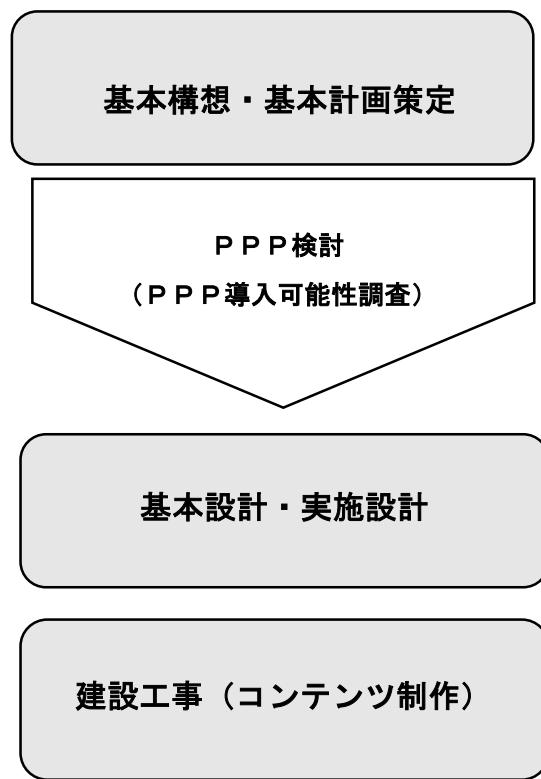
富山のくすりの歴史と文化、精神を「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」事業活動を継続的に展開するため、関連機関との密接な連携のもと中長期の展望に立ち、安定した管理運営を行う。

5 整備スケジュール

(1) 基本的考え方

本基本構想と基本計画を受けて、整備に関するPPP導入可能性調査や、基本設計等を行う必要がある。また、くすり関連施設の周辺で一体的に整備を行うこととなる城址公園整備計画とも連携して進める。

(2) 整備フロー（案）



基本計画編

基本計画編

I 基本計画策定にあたって

1 基本的考え方

本計画では、くすり関連施設の整備に向けて、基本構想において確認した基本理念、そしてこの基本理念を実現するための、重要な4つの基本方針に基づき、本施設の「事業構成」を明らかにし、「施設」「展示」そして「管理運営」などについての具体像を計画する。

(1) 基本理念

本施設の整備にあたっては、300年以上続く富山のくすりの歴史と文化、大切にされてきた精神を継承しつつ、「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）が優れた理念であることを踏まえ、これらを軸として市民とともに薬都とやまの未来像を考え、創造することを目指す。

**富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、
薬都の未来を市民とともに創造する**

(2) 基本方針

- ① 「薬都とやま」のブランドイメージを強化するためのシティプランディング
- ② 産業の礎を築いた先人の知恵に学び、富山人としての誇りを育むシピックプライド
- ③ 中心市街地の拠点として**賑わい・回遊性**を生みだす
- ④ **産官学民連携**により、「薬都とやま」の未来像を描く

I 基本計画策定にあたって

2 薬都とやまと信用3本柱

富山のくすりは、300有余年の歴史を有し、医療が未発達な時代から、諸国の人々の健康増進や文化交流に大きく貢献してきた。この富山売薬が大切にしてきた「商いの信用」「くすりの信用」「人の信用」という信用3本柱が現在の「薬都とやま」につながったことを、次世代に継承する必要がある。

本施設では「商いの信用」「くすりの信用」「人の信用」という信用3本柱を活かし、展示ゾーン等と関連付けて、各種計画を策定することとする。

また、インバウンドをはじめ、様々な利用者にも理解しやすいよう、信用3本柱について、イメージしやすいサブタイトルをつけることを検討する。



3 基本計画の位置付けと構成

本計画は、くすり関連施設基本構想のもとに策定するものとする。

本基本計画の構成は次のとおりとする。

- (1) 事業計画 くすり関連施設で展開される各種事業に関する計画
- (2) 施設計画 くすり関連施設の施設面での機能と諸室構成等の計画
- (3) 展示計画 くすり関連施設の展示・体験に関する計画
- (4) 管理運営計画 くすり関連施設の管理・運営に関する計画

以上に加え、開館に向けた取り組み等を盛り込んだ今後の事業展開について付記する。

II 事業計画

1 基本的考え方

くすり関連施設基本構想において、必要となる機能・プログラムを、「展示・体験」「交流・サービス」「未来創造」とした。本計画では、これら3つの機能・プログラムを具体的に実現するため、8つの「事業」に区分・整理し、本施設の事業構成とする。

機能・プログラム	事業
展示・体験	1 展示事業
	2 解説事業
交流・サービス	3 薬都案内サービス事業
	4 催事事業
	5 飲食・物販事業
	6 資料収集・活用事業
未来創造	7 情報発信事業
	8 産官学民連携事業

2 各事業

(1) 展示事業

「富山のくすり」の歴史を基盤に、「薬都とやま」が大切にしてきた「信用3本柱」（商いの信用、くすりの信用、人の信用）の精神を軸として「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」展示を基本とする。また時代ごとに創意工夫しながら、その強みを活かして医薬品産業を核に様々な産業を興してきた力強さが富山のDNAと捉え、このDNAを未来に継承するために、幅広く専門家やボランティア等の参画・協力も得て展示内容を検討する。

① 種類

ア. 常設展示

生薬や売薬用具、売薬版画コレクションをはじめとした、富山のくすりの特徴を歴史的に物語る実物資料、売薬さんの証言などの薬業に関わる貴重な記録などを用いて「薬都とやま」の歴史と未来を展望する展示とする。

イ. 企画展示

「薬都とやま」の創造に向けて、常設展示とは異なる視点・テーマから構成する時限的な展示を実施する。主催事業としてだけでなく、外部機関との連携、協力、共催形式などでも企画する。

ウ. 移動展示

関連施設や学校・学会等、本施設以外の場所でも展開できる、移動展示キット等を開発し、出前講座にも活用できる展示を検討する。

② 内容

薬都とやまの精神性を学び感じてもらうには、五感に訴える体験展示などを取り入れる必要がある。そのためには、既存の資料や売薬さん等の富山のくすりに関わりのある人々の証言映像記録をもとにした双方向の体験展示、デジタル表現などの先端技術を取り入れた創薬の技術体験、富山売薬を礎に発展した産業の紹介など、「薬都とやま」にまつわる様々な展示を体感することが重要となってくる。

この展示事業を通して、「薬都とやま」の過去・現在・未来を感じ取れるようなくみを構成し、市民をはじめとする利用者に「薬都とやま」への誇りを感じ、共感を抱いてもらうことをねらいとする。

(2) 解説事業

利用者が展示に興味を持ち、理解を深めることができるよう、養成されたガイドや機器による解説の他、配置従事者（売薬さん）や製薬企業従事経験者など、くすりの歴史を知り、懸場帳などを実際に活用していた体験者とも連携し、具体的で分かりやすい解説を行う。

また富山大学薬学部・和漢医薬学総合研究所、県立富山北部高等学校くすり・バイオ科などの教育機関、市内外の製薬企業等、多様な関連産業等と連携し、くすりについて関心を高める解説プログラムを作成するとともに、インバウンドにも対応する。

① 種類

ア. 解説員による解説

利用者が本施設の利用を通して、薬都とやまについて「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」ことができるよう、ガイド等の人材による利用者に対応した柔軟な解説を行う。

イ. AR・VRなどのICTを活用した解説

来館者所有の携帯端末やくすり関連施設の端末貸出等によるICTを活用した解説を行う。

ウ. 移動解説

薬都とやまの売薬システムがいかに先進的だったかを、本施設以外の場所でも体験できる展示キット及び解説プログラムを開発し、語り部やガイドによる解説活動を行う。

② 内容

ガイドや機器による解説のほか、配置従事者（売薬さん）や製薬企業従事経験者など、くすりの歴史を知り、懸場帳などを実際に活用していた体験者と連携し具体的で分かりやすい解説をおこなうことが必要である。「薬都とやま」の精神を伝承することは、本事業の重要な要素であることから、売薬さん自らの体験談等をもとに、伝承活動（語り部）のためのガイド育成や、解説メニューの開発を行うこととする。

また、市内にある既存のくすり関連施設と連携した解説手法も検討する。

(3) 薬都案内サービス事業

富山の地域ブランドである「富山のくすり」をはじめ、薬都の魅力を体感できる既存のくすり関連施設の内容やアクセス情報、中心市街地のまち歩き情報等を収集・紹介し、誘導・案内する事業を行う。

① 種類

ア. 窓口による案内サービス

くすり関連施設では、薬都とやまの歴史や医薬品産業等について専門的知見を有する人材による案内サービスを行うものとする。案内サービスの対象は、施設の利用者だけではなく、公園の利用者や観光事業者等とし、幅広く対応する。

イ. メディアによる案内サービス

インターネットや、チラシ、書籍等の印刷物を活用し、メディアによる案内サービスを行う。

ウ. その他のサービス

利用される方に、くすりを感じながら自由にくつろいでもらえる空間、くすりに関する書物や図録などを自由に読める空間等を設け、来館者自ら情報収集できる薬都とやまの交流案内サービスを行う。

② 内容

本施設は、城址公園や中心市街地の新たな賑わいが生まれることもねらいとしており、市内に点在する既存のくすり関連施設や「富山やくせん」認定店の詳細情報等のほか、周辺地域で行われる催事、観光事業者が行うツアー、まち歩きの情報提供等を行うものである。

さらにくすり関連の拠点施設として、点在する既存施設もつなぐ、きめこまやかで適切な案内サービスを行うことができるよう、関係各方面との緊密な連携体制を整えることとする。

(4) 催事事業

薬都とやまの拠点施設として、既存のくすり関連施設との連携を図り、情報発信を行うため、薬都とやまの未来創造につながる事業をはじめ、くすりに関する様々な催事事業を行う。また、中心市街地の賑わい創出や回遊性向上、まち歩きの促進につながる事業を行う。

① 種類

ア. 主催事業

薬都とやまの未来創造につながる催事や、中心市街地の賑わい創出につながる催事など、本施設の趣旨に合致する催事事業を行う。

イ. 共催・後援事業

他機関に主体を置く催事で、共催・後援等の依頼を受けて、施設の提供やPR等、実施に関与する催事事業を行う。

ウ. その他

薬都とやまの未来創造につながり、多様な世代間交流の場となるような催事事業を行う。

② 内容

市民とともに未来を創造するためには、くすり関連施設に興味をもってもらえるよう広く市民の参画を促す必要がある。そのためにもイベントなどの催事事業やくすりに関連する事業、周辺近隣施設、くすり関連施設における他団体との連携強化のための催事事業を行うこととする。

例)

- ・定期的に実施するくすり関連イベント
- ・季節に合わせて実施するまち歩き型イベント
- ・くすりのデザインと連動したパッケージデザインコンペティション

(5) 飲食・物販事業

城址公園との一体性や中心市街地の回遊性向上などにつながるよう、周辺環境と調和し、本施設ならではのサービスと品質の確保に努め、飲食・物販事業を行う。

具体的には、「薬都とやま」の記憶につながる品々の販売や、来館者にくつろぎの場と時間を提供するための飲食サービスを行うこととし、利用目的にかかわらず気軽にサービスを利用できるよう動線の工夫も行う。

城址公園や周辺のレストラン・店舗と連携を図りながら、「富山やくぜん」認定店など既存のくすり関連施設とも協力し、メニュー開発やくすりを軸としたまち歩きのプログラムを開発して連携を深める。

くすりの販売に関しては、本施設の必要な機能であり、薬都とやまをPRするうえで重要であることから、販売手法や販売品等の検討を行う。

なお、本事業の実施にあたっては事業採算性などの運営の諸条件の検討が必要である。

① 飲食事業の内容（展開例）

ア. 公園付帯型飲食

立地条件を活かして、来館者や市街地を散策する人が気軽に利用できる動線とし、季節にあったメニューなどを提供できるよう工夫する。

公園利用者の利用も期待できるようなテイクアウトサービスを含めて検討する。



イ. くすり関連施設独自型飲食

「富山やくぜん」など、富山の食材を活かしたメニュー、薬都とやまならではの独自なメニューを検討する。



ウ. 公園内でのマルシェ型飲食販売

くすり関連施設周辺では昼食等をとれる飲食施設が限定されるため、「富山やくぜん」や「ます寿し」等のマルシェ型飲食販売について可能性を検討する。



飲食イメージ

② 物販事業の内容（展開例）

ア. くすり関連施設独自型物販

本施設の特色として、配置薬の申し込みの受付等も行えるようとするほか、医薬品、医薬部外品等の個人のニーズに合わせたくすりの対面販売や相談を行う。

また、「薬都とやま」ならではの「富山のくすり」に関連した商品構成となるよう、物販事業を行う。



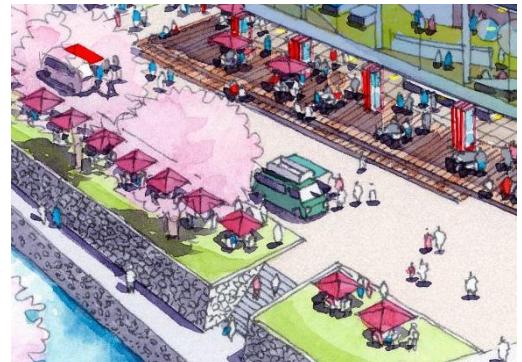
イ. 土産購買型サービス

観光客（インバウンド客含む）などが購入したくなるような来館の記念となる富山ならではのお土産、くすり関連施設オリジナルの品を開発し、販売する。



ウ. マルシェ型物販サービス

市街地にある公園の立地特性を活かしたマルシェによる物販事業の可能性について検討を行う。



飲食・物販イメージ

(6) 資料収集・活用事業

歴史ある有形・無形の資料等が散逸するのを防ぐために、市内外のくすりに関わる資料の収集を行う。具体的には、他のくすり関連施設等とも連携し、収集すべき資料の検討・選定を定期的に行い、寄贈・寄託の受入や購入、保管に努め、資料の効果的な活用につなげる。

本市の中心部は戦災などによってそもそも資料自体が少ないことから、災害などを潜り抜け現代に残った貴重な資料が、これ以上散逸していくことがないように、証言映像等も含め情報収集し、資料の把握・収集をしていくことが本施設の大きな役割と考える。

次世代が「薬都とやま」に興味を持ち、調査・研究する際にも活用することができるよう、市民共有の財産として収集・保存に取り組んでいく。

① 収集の方法

ア. 資料の選定

資料の散逸を防ぐために、専門的知見を有する機関や有識者などと連携を行い、くすり関連施設の事業に適した資料の収集・保存を行う必要がある。

イ. 資料の入手

専門的知見を有する機関等と連携して選定された市内外の資料は、寄贈・寄託の受入を行うほか、購入によって収集する。

② 収集資料の活用と保存管理

ア. 資料の活用

収集した資料は展示事業や催事事業など、様々な機会を捉えて広く来館者の利用に供する。

イ. 資料の保存・管理

貴重な資料の保存・管理にあたっては、薬都とやまの次世代につなげられるよう、他施設とも連携し、資料の特性に応じて保管することとし、破損・汚損に十分配慮して、適正な温湿度環境や災害・盗難防止仕様の整った収蔵場所での管理を行うものとする。

ウ. 資料の一元管理

薬都とやまのくすりに関する拠点施設として活用できるよう、収集された資料の情報管理（データベース化）を行う。

(7) 情報発信事業

「薬都とやま」の魅力を広く伝えるために「富山のくすり」ブランドを広く発信する。

薬都とやまやくすりを軸としたさまざまなプログラムを開催することで、点在する他の関連施設との相乗効果や未来創造につながる効果を生みだすことができるよう、多様なメディアを用いて発信する。

① 情報発信の内容

ア. 「富山のくすり」と「薬都とやま」

300年以上にわたり積み上げられた「薬都とやま」の歴史・文化などの情報をはじめ、「富山のくすり」のブランドと、「薬都とやま」を構成する施設や活動の内容などについて、特徴を明確にし、くすりに馴染みのない市民等にもわかりやすく伝える。

イ. 催事・活動の最新情報

本施設が行う催事等の情報をはじめ、くすりに関する情報、他のくすり関連施設や企業・事業者、大学、市民などが行う催事・活動に関する情報を幅広く伝える。

② 情報発信の方法

本施設内の展示等による情報発信のほか、以下の方法で口コミ等も活用し、情報発信を行うこととする。

ア. インターネット（SNS含む）による発信

くすり関連施設のホームページやSNS（ソーシャルネットワークサイト）を開設・運用する等、インターネット経由の方法で発信する。

イ. 印刷物による発信

くすり関連施設オリジナルの印刷物や、テーマ設定に基づいて編集した書籍形式の印刷物などを活用して発信する。

(8) 産官学民連携事業

「薬都とやま」の未来創造を促進するために、薬都とやまを構成する産業界や大学・学校、市民個人・団体、行政などの多様な分野の協働に取り組む。

市内にある富山大学薬学部・和漢医薬学総合研究所、県立富山北部高等学校くすり・バイオ科などの教育研究機関、市内外の製薬企業等、多様な関連産業などと連携し、持続可能な富山の未来を創造するような活動につなげ、協働して育んでいく場づくりを行う。

① 連携事業の内容

産業界や大学・学校、市民個人・団体それぞれの活動を活性化するとともに、薬都とやまの価値創造につながる活動やイベントなどを行う。

未来創造を行うためには、歴史・文化の学び、継承の必要があることから、産官学民が連携して、情報を収集し人材の育成に取り組むこととする。

薬業分野だけではなく、異業種の分野の専門家も交え、市民とともに薬都とやまの未来を語り合う場を設定し、新たなアイデアの発想等を生み出すきっかけとなる交流活動も検討する。

例)

- ・商品開発モニタリング、産業観光プログラム開発
- ・学生や研究者による薬都観光開発ワークショップ
- ・歴史・文化の継承カリキュラムの実施
- ・売薬さんの記憶の収集、語り部となる人材の育成
- ・産官学民連携における交流の場づくり
- ・産官学民連携による食やくすりに関連する商品の開発
- ・さまざまな分野の有識者をファシリテーターに迎えた展示や体験プログラムの企画

② 連携の方法

本事業の運営にあたっては、産官学民が参加できるしくみを導入し、産官学民がともに協働し行う活動はもとより、それぞれ個別に連携して行う活動についても活性化を図っていく。

III 施設計画

1 基本的考え方

基本構想を踏まえて、くすり関連施設の基本理念や富山市の動向、立地等の条件より、施設の目指す姿を定め、1) 施設の位置づけ、2) 周辺との関係、3) 機能と空間の3つの観点から施設計画の考え方を整理した。

(1) 施設の位置付け

① 「富山のくすり」を日本中に広める施設

「とやま=くすり」を発信する拠点にふさわしい、富山らしさを取り入れたインパクトのある施設とする。市民がここに来たら「薬都とやま」、「富山のくすり」がわかると誇れる施設を目指す。

② にぎわいの中心となる施設（インバウンド対応・情報の拠点）

にぎわいの創出に寄与し、幅広く多様な利用者に対応できるようユニバーサルデザインやバリアフリー等に配慮した様々な背景を持つ人が利用したいと思える施設を目指す。

(2) 周辺との関係

① 松川及び城址公園と連続性を持った公園の顔（北西のエントランス）となる施設

富山の豊かな水や自然の恵み、松川及び城址公園の豊かな自然を取り入れ、公園とくすり関連施設を一体的に感じられ、市民が誇れる建築デザイン空間を持つこととする。

② 市内回遊の拠点となる施設

周辺のくすり関係施設等との回遊性の向上や、交流が生みだされるような、開かれた空間とする。

③ 夜の名所となる施設（夜の散歩コースや憩いの場）

夜間の来園者や夜間に街なかを散策する市民、観光客等が安心して憩える良質な夜間景観を形成する。夜間景観の形成にあたっては、景観資源と連動し、資源を活かす照明や、夜間の安全性の確保の点から通りの明るさを確保できるような照明を検討する。

(3) 機能と空間

① 市内回遊の拠点となる施設

気軽に立ち寄れるエントランスや待合スペース等の利用者の利便性向上につながる機能を取り入れる。くすりに馴染みがない方でも自然に利用したくなるような、まち歩きに必要となる案内情報提供の機能も有するものとする。

また立地条件から、季節等により利用者の変化が想定されるが、周辺施設とも連携しながら市内回遊の拠点施設としての役割を果たしていくこととする。

② 県内の他のくすり関連施設のハブとなる施設

他のくすり関連施設の情報や体験の一端を共有し、発信する機能を持つ施設とする。

他施設見学の導入的な役割を機能として持つ施設とする。

他のくすり関連施設の情報や体験の一端を共有し、発信する機能を持つ施設とする。

他施設見学の導入的な役割を機能として持つ施設とする。

③ まちとの繋がりを生み出す施設

透過性の高い壁面により、建物内部から城址公園の四季折々の美しい自然を楽しむことができる空間とともに、公園からもくすり関連施設であると認識できるよう、展示や体験プログラムの様子がうかがえる、城址公園等の周辺環境との一体性や繋がりを感じられる施設とする。

④ 災害に強い施設（災害時に頼れるくすり関連施設）

災害等から貴重な資料を守り、後世に伝えるとともに、利用者の安全性にも十分配慮した施設とする。また、災害時にくすり関連施設として必要とされる機能を有する施設として、災害時にも、市民が薬に関する情報の提供や相談が受けられるような機能を備える施設とする。

⑤ 環境未来都市、SDGs未来都市としてふさわしい施設

本市が取り組む環境未来都市計画、SDGs未来都市計画に沿って、環境に配慮した、例えば環境負荷の少ないライフサイクルコストについて配慮した施設とする。

また、さまざまな利用者がくすり、薬都とやまという側面を通して持続可能なまちづくりとは何かを考えられるような施設とする。

エントランスイメージ



2 整備予定地の条件等

(1) 整備予定地と土地利用の制限

本施設は「商業地域」に位置し、「公園用地」に隣接する位置に建設が予定されている。また、公園全体としては「富山市風致地区内における建築等の規制に関する条例」における「富山城址風致地区」内に位置するため、『高さ 12m以下』としている。

また予定敷地は、埋蔵文化財包蔵地「富山城址」に位置するため、図書館旧本館建設時に発掘調査されていない場所については、改めて調査が必要となる。

なお、埋蔵文化財調査を行う場合、調査費用を負担することに加え、調査に複数年有ることで、工期に大幅な遅れを生じる可能性があること、公園整備との関連や調整も想定されることから、原則として、基礎杭の位置及び地下空間の利用は調査済みの場所を活用し、新たな調査は極力行わず整備できるよう検討するものとする。

	商業地域 (約 0.17ha)	公園用地 (約 7ha)
建築面積の割合	敷地面積の 40%	<p>※公園内に整備する場合は、富山市都市公園条例と都市公園法施行令により建蔽率が定められている。</p> <p>(富山市都市公園条例「100 分の 4」+都市公園法施行令に記載のある「教養施設」(100 分の 10) に該当) 「教養施設」(100 分の 10) のうち、公園内の教養施設として 3.36% (約 2350 m²) が既存施設である。このことから、本施設を教養施設として建設する場合には計算上約 4600 m²程度の建築面積が限度と考えられる。</p>
高さ規制	高さ 12m以下 ※富山市風致地区内における建築等の規制に関する条例における「富山城址風致地区」内に位置	

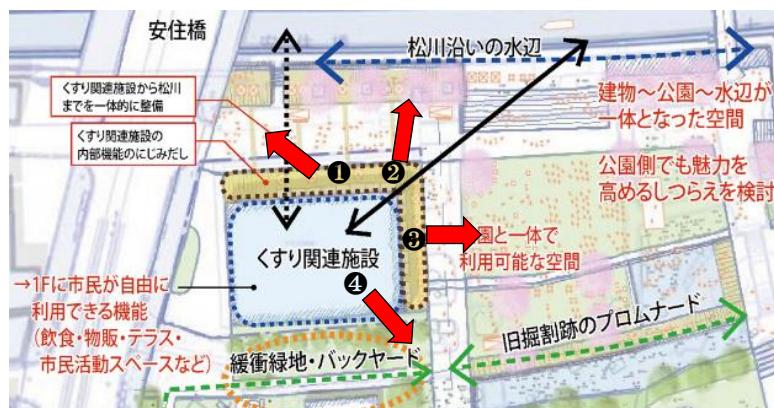
III 施設計画

(2) 城址公園整備との連携

本施設は「公園用地」に隣接する位置に建設が予定されていることから、城址公園の整備との連携を図る必要がある。さらに公園の北西部の入口に位置することから、設計時には公園との一体感にも留意し、効果的に公園の景観を活用する必要がある。

(3) くすり関連施設からの景観

本施設は都心景観を形成する地区に位置しており、景観形成重点地区である大手モール等にも近い。また富山駅から走るLRTの車窓から立山連峰を背景に松川とくすり関連施設を繋ぐ風景が広がる。これら周辺との調和が図られるよう景観に配慮する必要がある。



城址公園（松川周辺エリア）整備基本計画（H30）から抜粋

<p>①〈西側：すずかけ通りと接する面〉</p> <p>富山駅から走るLRTや松川との周辺の街並みが眺められる。</p> <p>① 西側：すずかけ通りと接する面（現況）</p>	<p>②〈北側：松川と接する面〉</p> <p>神通川へ流れる松川の形状や水の流れが見える親水空間である。</p> <p>② 北側：松川と接する面（現況）</p>
<p>③〈東側：公園と接する面〉</p> <p>立山連峰を背景に富山城と松川を繋ぐ空間としてゆとりや潤いを感じられる空間である。</p> <p>③ 東側：公園と接する面（現況）</p>	<p>④〈南側：公園と接する面（富山城址側）〉</p> <p>土塁等の公園に眠る歴史性を感じられる空間である。</p> <p>④ 南側：公園と接する面（富山城跡側）（現況）</p>

3 施設が有する機能

本施設の整備にあたっては、「富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、薬都の未来を市民とともに創造する」という基本理念の実現を目指すこととしている。また、くすりに関する拠点施設として施設計画の基本的考え方で整理した『「とやま=くすり』を発信する拠点にふさわしい富山らしさを取り入れたインパクトのある施設』、『市民がここに来たら「薬都とやま」、「富山のくすり」がわかると誇れる施設』、『にぎわいの創出に寄与し、多様な利用者に対応できるユニバーサルデザインを基本とし、様々な背景を持つ人が利用したいと思える施設』としていく必要がある。

このことから、本施設では、基本構想で定めた3つの主要な機能「展示・体験機能」「交流・サービス機能」「未来創造機能」のほか、バックヤードとして管理運営の観点から必要となる2つの機能「管理機能」「収蔵機能」を加えた5つの機能を有するものとする。このほか、屋外スペース、地下室、屋上などのスペースも施設の各機能に組み込むことを想定する。

(1) 主要機能

計画で定める主要機能は、基本構想で定め、事業計画とも連携する「展示・体験機能」「交流・サービス機能」「未来創造機能」とする。

① 展示・体験機能

薬都とやまの歴史を基盤に、これらの精神性やエピソードを「学び、感じて、身につける。そして未来を考えるきっかけとする」展示・体験、解説を行う機能を持つ施設とする。

② 交流・サービス機能

くすりを軸にしたまち歩きの情報提供によって、新たな視点と交流の創出を行うなど薬都案内サービス事業、催事事業、資料収集・活用事業、飲食・物販事業を展開する機能を持つ施設とする。

③ 未来創造機能

「薬都とやま」の過去から今を紐解き、未来を創造することを目的として、市民がどのような未来をつくっていきたいかを共に考え、語り合う場を提供するなど、未来創造に関わり多目的な交流を促す事業を展開する機能を持つ施設とする。

(2) 維持管理機能

主要機能のほか、施設を管理・運営していくために必要なバックヤード施設として、維持管理機能を設ける。維持管理機能の内容は、施設の管理運営に必要となる「管理機能」及び資料等の保存として必要となる「収蔵機能」とする。

① 管理機能

事務所、機械室、トイレ等の管理運営に必要となる諸室等とする。

② 収蔵機能

貴重な資料の保存管理に配慮し、適切な温湿度環境や災害・盗難防止仕様の整った諸室等とする。

(3) 機能とゾーン・諸室の想定規模

(1) (2) で記載した機能とゾーン・諸室の関係を概要、想定規模の点から整理する。

① 展示室（約 1,300～1,800 m²）

薬都を感じるゾーン、歴史を感じるゾーン、文化を感じるゾーン、くすりを感じるゾーン、未来を感じるゾーンの5つのゾーンに分かれ、それぞれのテーマに沿った展示を行うスペース。

② 飲食、物販スペース、休憩スペース（エントランスホールに含む）（約 200～400 m²）

薬膳などの軽食を食べられるカフェスペース。
くすりやオリジナルグッズが購入できる物販スペース。
施設や公園の利用者等が気軽に休息できるスペース。

③ 多目的スペース（約 200～400 m²）

複数箇所に設けて、様々な活用ができるスペース。
講演会、各種企画展示、各種イベント開催等を行うスペース（一部給排水設備を伴う）。

④ 事務室・会議室・トイレ（約 400～800 m²）

事務員・スタッフが事務作業・打ち合わせ・待機できるスペース。
トイレは公園利用者の利用も含めて想定する。

III 施設計画

⑤ 荷解室、作業室、収蔵庫、倉庫（約400～800m²）

屋外からの収蔵品の搬入、荷解き、資料の開梱、一次保管等を行うためのスペース。

貴重な資料の保存・保管と他施設からの資料の借用等が想定されることから、収蔵庫を設置する。倉庫は、台車や什器等の備品や、体験学習のための物品等厳重な管理を必要としないものを管理するスペースとする。

⑥ その他機械室等（施設・設備の規模に合わせて設ける）

施設の維持管理上（④、⑤を除く）必要となるスペース。（通信機器や空調・電気などの大型設備の監理など。）

表 機能と諸室（展示ゾーン）の関係

諸室（展示ゾーン）		機能				
		①展示・体験	②交流・サービス	③未来創造	④管理	⑤収蔵
主要機能 展示室	（薬都を感じるゾーン）	●	●			
	（歴史を感じるゾーン）	●				
	（文化を感じるゾーン）	●				
	（くすりを感じるゾーン）	●	●			
	（未来を感じるゾーン）	●		●		
	エントランスホール		●			
	飲食スペース		●			
	物販スペース		●			
	休憩スペース		●			
	多目的スペース A	●	●	●		
維持管理機能	多目的スペース B	●	●	●		
	事務室・会議室				●	
	トイレ				●	
	荷解室					●
	作業室					●
	収蔵庫・倉庫					●
その他機械室等					●	●

III 施設計画

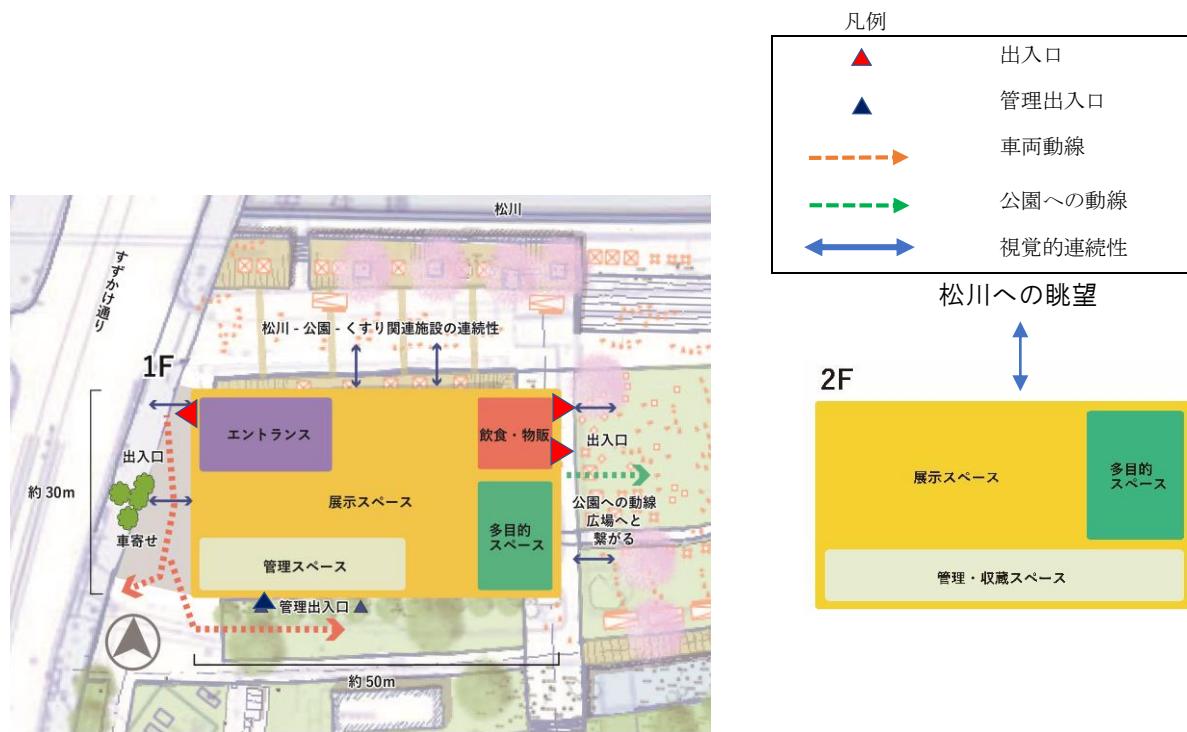
(4) 諸室構成と配置とイメージ

1Fに展示スペースのほか、管理部門及び多目的スペース、飲食・物販等を配置する。

2Fには、展示スペースのほか、多目的スペース、管理・収蔵スペースを配置する。

なお、本頁のレイアウトはイメージとして記載するものであり、実際の設計時には、改めて計画するものとする。

- ① 建築面積 約 1,500 m² (想定 図書館日本館跡地)
- ② 延床面積 約 3,500 m² (想定)
- ③ 階数等 2階+ (地下)
- ④ 出入口の位置等 出入口は、施設の北西及び北東に設け、公園との一体感を計画する。
(松川側への開放も考慮)



●駐・停車場

<ul style="list-style-type: none"> ・車イス用駐停車スペース 1台 ・駐停車スペース 2台 (VIP 対応、タクシー駐車等管理用) ・車寄せ 1台 	<p>【積算面積】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車台数 3台の場合 : 100 m² ・車寄せ 1台の場合 : 85 m²
---	---

4 建築意匠の考え方

本市におけるくすりの拠点施設として、ふさわしい施設となるよう、周囲の景観に配慮とともに、城址公園内の環境や地形とも調和した建築意匠とする。また、富山駅から中心市街地へ続く一連の空間に位置することから、まちなかの賑わい創出に寄与するようまちなかの景観とも効果的な連携を保ち、本市の地域景観の資産となる施設を目指す。

(1) 建築意匠に求められる要素

① 本市の中核的くすり関連施設としての品格と個性

くすり関連施設としての機能性を持ち、歴史とインパクトを感じさせ、拠点施設にふさわしい品格を併せ持つ、個性的で新しい価値を創造する。

② 城址公園など周辺環境との調和

城址公園、松川、立山連峰などまわりの風景を施設の中と外の双方で活かしながら、まち並みと調和し、四季折々の豊かな表情を持った建築とする。

③ 市の新しい施設景観の資産となりうる施設

西側、北側、東側など各所から景観が窺える立地条件を存分に生かして、本市の他に例のない印象的な施設景観の資産として次世代に引き継げ、新たな魅力を提供できる意匠とする。

素材も景観やデザインの一つとして配慮事項に含めるとともに、素材の選定にあたっては環境や富山のブランドに配慮したもの積極的に採用する。

(2) 本市の公共施設として配慮すべき事項

施設整備にあたっては、富山市景観まちづくり条例、屋外広告物条例など、次の項目にも配慮するものとする。

① 配置、景観

- ・立山連峰の眺望及び水と緑が豊かな自然環境に調和
- ・地域の固有の歴史、文化及び市民の暮らしづくりを反映
- ・道路境界線から十分な距離をとるなどゆとりある空間を確保
- ・夜間景観に配慮

III 施設計画

② 意匠・色彩

- ・周辺の環境、区域との調和
- ・蛍光塗料、点滅、回転広告の使用を極力避ける

③ 外構・緑化

- ・風致の維持に必要な植栽などの実施
- ・広告物、掲出物件の設置場所への配慮

IV 展示計画

1 基本的考え方

展示・体験の計画は、本施設の基本理念「富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、薬都の未来を市民とともに創造する」について、展示・体験の面からの具現化を図るものである。

このことから薬都とやまがたどった過程を振り返り、今後を展望する「過去・現在・未来」という時間軸を展示にも生かすことが求められるため、展示コンセプトを次のように設定する。

【展示コンセプト】

**「信用3本柱」を軸として、
薬都とやまの過去・現在を知り、
未来につなげる展示**

(1) 展示手法と期待される効果

本施設の展示の基盤であり特色となる過去・現在を表現する展示を、未来につなげる工夫を盛り込むなど、各展示に関連性を持たせ、関心を高める手法を盛り込むことなどが期待される。利用者の嗜好や興味・関心の対象が多岐にわたることへの配慮も必要であり、展示設計段階では、様々な角度から幅広く展示手法を検討する。

また、展示手法に関しては、最新であった技術が時代とともに陳腐化する可能性があるため、技術に頼りすぎないストーリー性のある展示解説を基本とし、その展示解説に合った最良の手法を導入する必要がある。

過去・現在・未来の連関性をもたせるといった展示内容面での工夫と、利用者特性に配慮した展示手法の検討などにより、身近なもの、わくわくするものとして、薬を捉えもらえる展示を目指す。体験を多く含む展示手法を採用することにより、くすり関連施設の利用者が「薬都とやま」への理解を深め、未来を考えることができるような展示とする。

(2) 展示の種類

展示の種類は、所有するコレクション等を展示する常設展示と、時限的に行う特別に企画された展示や体験を行う企画展示及び施設外で行う移動展示の3種類とし、詳細を次に示す。

常設展示

- ・富山のくすりを特徴づける基礎を伝えることを目的とした展示で、資料などを最適な状態でいつでも見られることを重視した展示とする。
- ・くすり関連施設が主体となって企画・運営し、貴重な資料や体験型展示をじっくり楽しめる場を確保する。
- ・展示する資料は、くすり関連施設が収集・保存管理するもののほか、他の施設からの借用も活用する。



展示イメージ

企画展示

- ・富山のくすりを多様なテーマに基づいて伝えることを目的とした展示で、資料の種類や見せ方、体験の仕方も自由に展開できることを重視した展示を企画する。
- ・くすり関連施設が主体となって企画・運営するものに加えて、外部機関等からの企画受入や共同企画などもあり、テーマの内容に見合った資料や体験の幅に柔軟に応えられる場を確保する。



展示イメージ

移動展示

- ・くすり関連施設以外の場所でも展開できる、移動展示キット等を開発する。
- ・他の関連施設・学校の他、学会やくすりに関するイベント、出前講座等で貸し出しができる移動展示キットとする。



展示イメージ

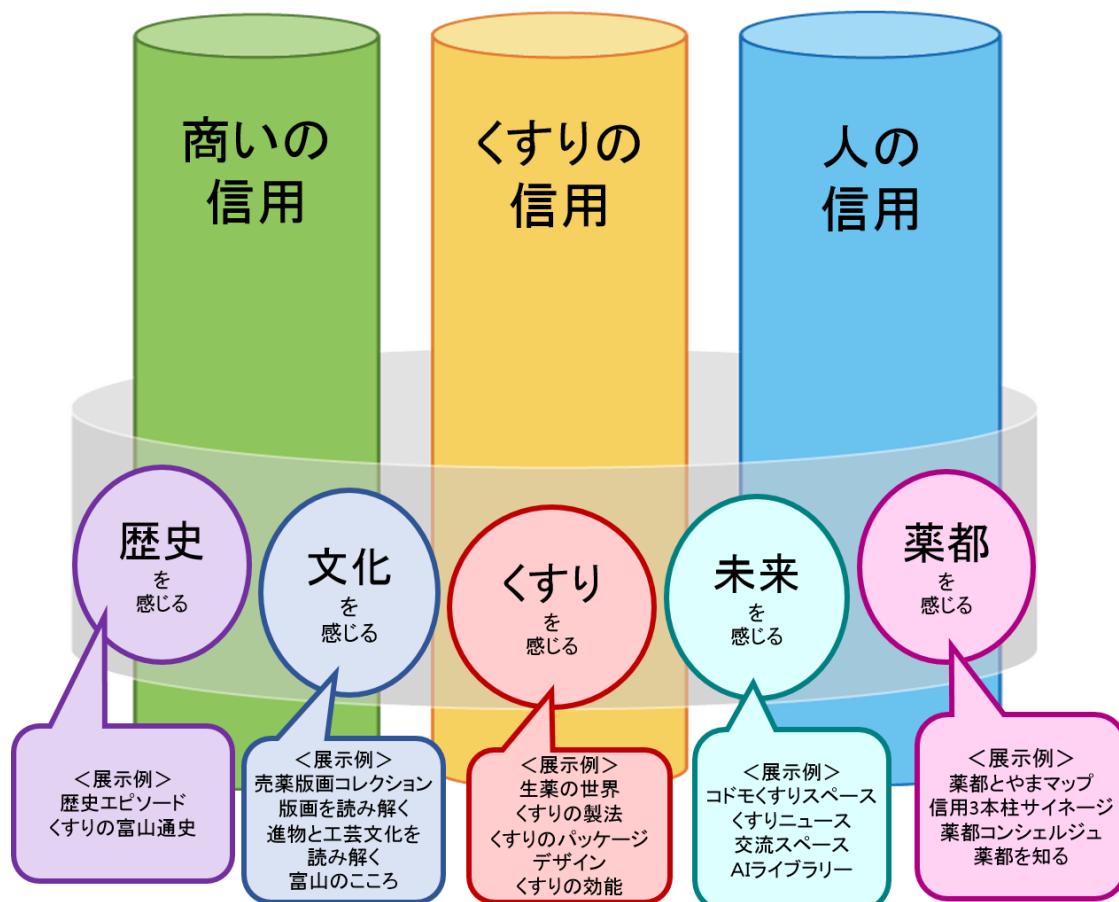
2 展示構成

「薬都とやま」の核である「信用3本柱」を過去のものと限定せず、現在も継承されるものと認識し、誇りとして未来へ引き継ぐことを目的とした展示を構成する。

展示の構成・内容の検討にあたっては、本施設の基本理念を実現するための4つの基本方針「シティプランディング」、「シビックプライド」、「賑わい・回遊性」、「産官学民連携」を意識して企画することとする。

展示にあたっては、利用される方が理解しやすいよう、富山の歴史と文化、くすりとの関わりを明らかにし、また未来に向けて、世界に向けて発信できるよう、「K U S U R I」表記なども検討していく。

主に過去の視点から捉えるものを「歴史を感じる」「文化を感じる」ゾーン、主に現在の視点から捉えるものを「くすりを感じる」「薬都を感じる」ゾーン、主に未来につながる視点から捉えるものを「未来を感じる」ゾーンと位置づける。5つのゾーンでは展示やさまざまな体験プログラムを通して、「薬都とやま」の姿が、過去から現在を経由し、未来につながるように構成していく。



3 展示イメージと手法

ここでは各ゾーンで伝えたい内容とイメージとしての展示例を記載するが、最終的な展示内容については実際の設計時に改めて計画する。

(1) 薬都を感じるゾーン

「薬都とやま」の今を実感してもらうゾーン

本施設が薬都とやまの発信拠点として機能していくために、薬都とやまの概要を伝え、くすりに関する施設・サービスなどの情報を集約・紹介するゾーンを設ける。

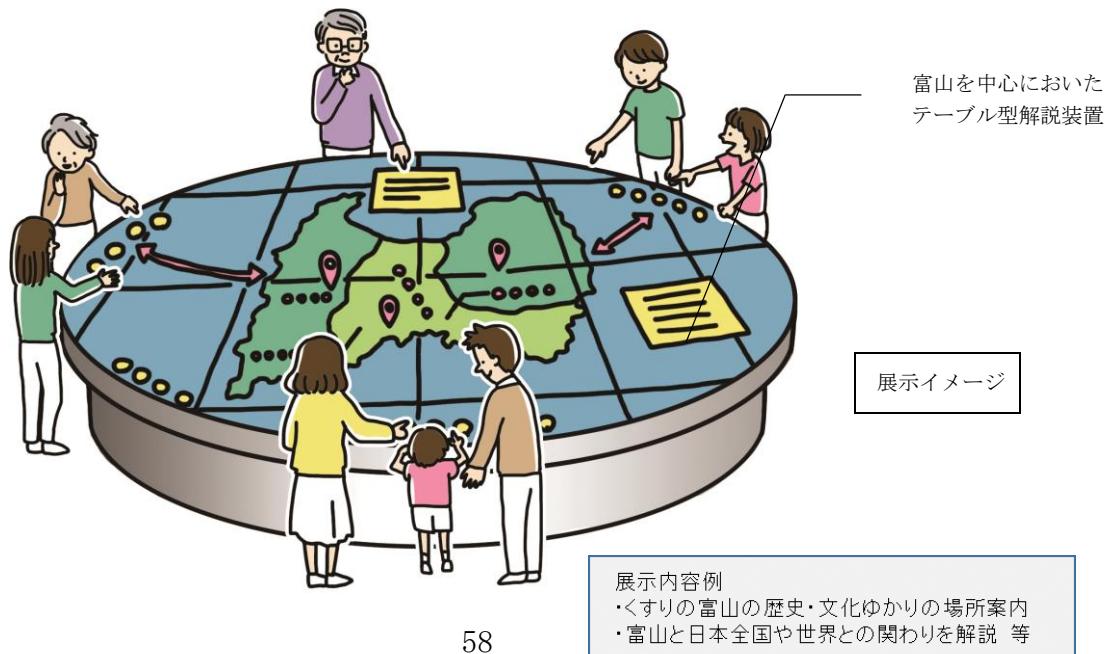
このゾーンは、薬都とやまの今を伝える観点を中心に構成し、薬都を感じるまち歩きのオススメコースの案内や、くすり関連施設のシンボル、富山の地域産業・経済とくすりの密接な関わりを示す展示などを置く。

【展示例】

例① 薬都とやまマップ

「薬都とやま」たる所以をわかりやすく伝えることを目的として、日本各地や世界のつながりにおける富山の位置や関係する情報、富山市内に多数存在する薬業ゆかりの施設等を紹介する展示を行う。

展示する内容は、薬都とやまの歴史・文化ゆかりの場所をはじめ、富山やくぜん提供店舗などの薬都巡りスポットを一望できるものとする。また手法面ではタッチパネルによる地図上にある地点に触れるとその地点の詳細な解説を得ることができる展示とする。



例② 信用3本柱（デジタルサイネージのシンボルタワー）

過去から現在、そして未来へと薬都とやまのこころをすべての利用者と共有することをねらい、シンボリックな表現で信用3本柱を展示する。

反映する内容は、「商いの信用」「くすりの信用」「人の信用」の3つの信用を培った歴史的エピソードや関連する実物資料、エポックとなった事象などを取り上げる。

施設全体から見ることができるように縦に長い大型のデジタルサイネージなど映像で構成し、見る人それぞれ「信用3本柱」を受けとめ、印象に残る展示を目指す。



展示内容例

- ・信用3本柱の意味の解説
- ・先人たちの肖像や業績
- ・エポックとなった事象の新聞記事
- ・各時代を伝える記録・ニュース映像 等

デジタルサイネージ（映像素材）で
シンボルタワーを構成

展示イメージ

例③ 薬都コンシェルジュ

多様な目的で訪れる利用者のニーズに応えることをねらい、必要とされる情報を求めに応じて提供する。

紹介・提供する内容は、薬都とやまを実感できるまち歩きコースや関連する催事、街なかの情報、富山やくせん店舗などとし、利用者の滞在可能時間や要望に応じた最適な「薬都とやま」の楽しみ方、過ごし方を案内する。

印刷物の配布や、映像情報端末による案内など、利用者の利便性に合わせて対応できるようサービス手法を工夫する。



イメージ

展示内容例

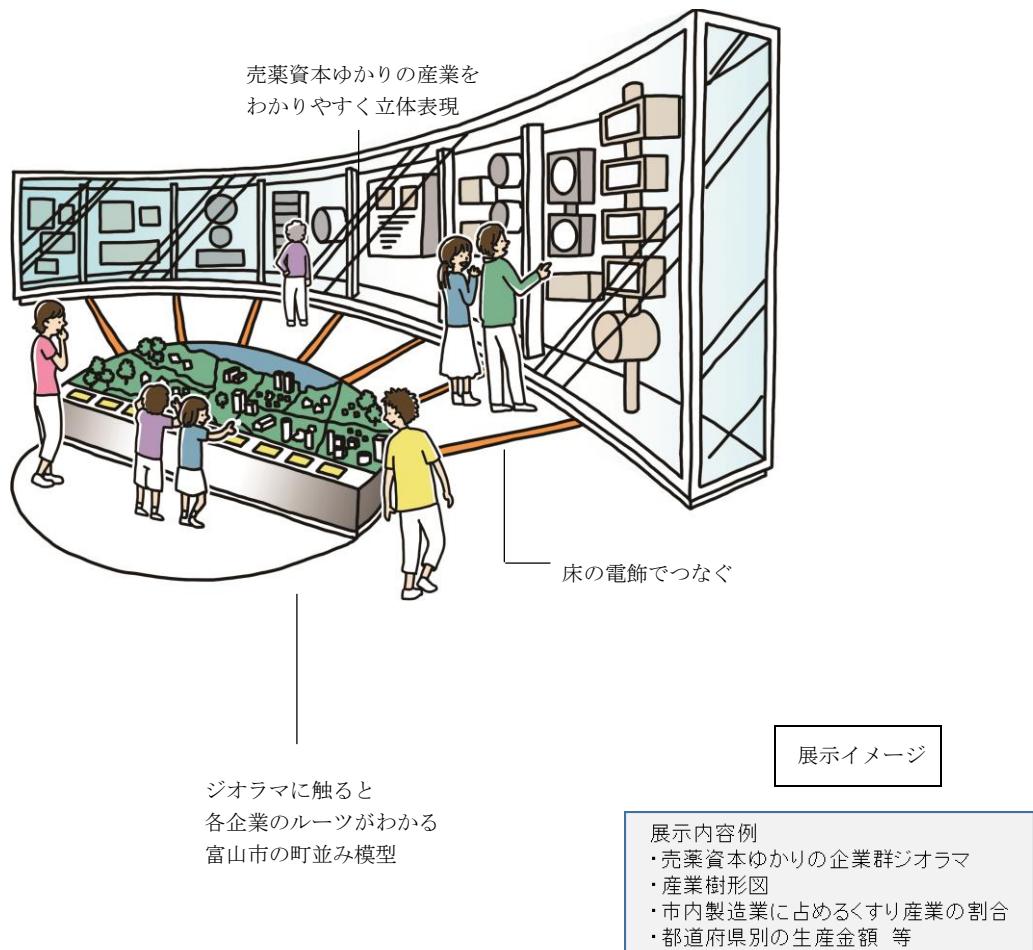
- ・富山やくせん店舗紹介
- ・薬都まち歩きコースの案内
- ・くすり関連企業等への人材照会 等

例④ 薬都を知る

主に薬都の現在を伝えるゾーンとして「薬都とやま」を多角的に理解できるよう、現在の富山のまち並みの中にある薬業関連の企業、施設やその歴史的由来などを表す。

取り上げる内容は、現在の富山や各企業のルーツとなる近代売薬資本の関わりなどとする。

展示手法としては、多岐に渡る情報を理解できるよう、一目で内容を把握でき、親近感も湧くまち並みのジオラマや、統計データを材料としてわかりやすくビジュアルデザイン化した写真・実物展示を取り入れ、効果的に表現する。



(2) 歴史を感じるゾーン

「薬都とやま」を歴史で振り返り、特徴を明らかにするゾーン

薬都とやまの歴史を伝え「富山のくすり」に誇りをもってもらうこと、貴重な資料を散逸から守り市民の財産として示すこと、さらには、富山売薬の価値を再認識・再評価してもらう一環として、「薬都とやま」の歴史を振り返り、特徴を明らかにするゾーンを設定する。

展示内容としては、大きな広い視点から、時間の流れに沿って富山のくすりの歴史全体を理解できる展示エリアと、薬都とやまの歴史を深く理解する視点から、個々の歴史のトピックに焦点をあて、利用者の興味がわく体験展示や実物展示を中心に展開した展示エリアの二つで構成する。

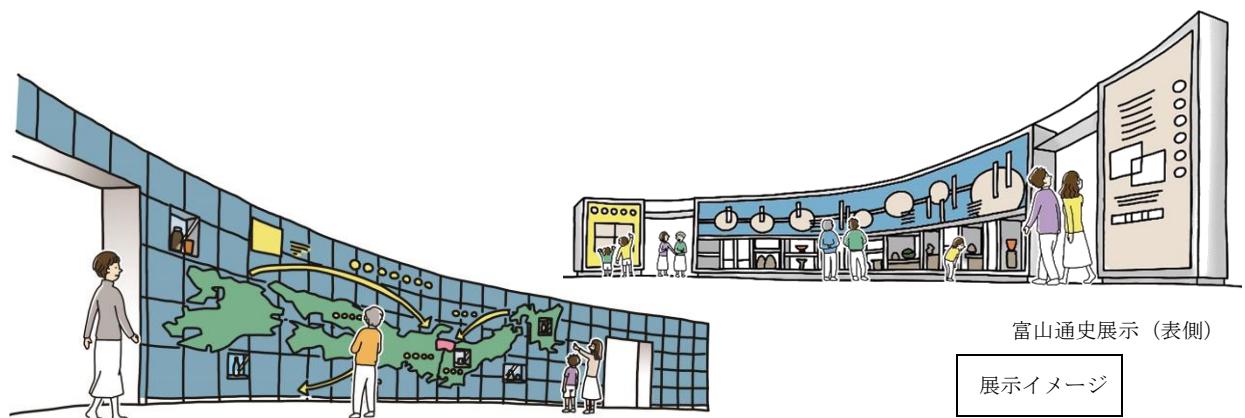
【展示例】

例① くすりの富山通史

薬都とやまというイメージは、江戸時代以降長い時間をかけて形作られてきた。富山売薬の興り以降に焦点を充てつつ、古代から現代への時間の流れに沿い、画期的となった事象をとりあげ、見る人に薬都とやまのあゆみとその隆盛が理解できるよう、歴史的エピソードを知ることができる展示とする。

内容としては、薬都とやまのはじまり・源流から、江戸時代の藩をあげての取り組み、明治時代に進められた産業資本の形成などの事象を扱い、特色を取り上げる。薬都とやまのこころであり、大切にされてきた「信用3本柱」を本施設に訪れる人が理解し、感じられるようエピソードをふんだんに盛り込み、連綿と続く薬都とやまの良さと先進性、特徴を情報と資料の両面から実感できる展示とする。

また、くすりの富山通史の反対面では、歴史的地理的な側面から薬都とやまを俯瞰し、薬都とやまと日本各地との関わりを大きな日本地図を利用し紹介する。



売薬さんと日本各地の関わり（裏側）

展示内容例

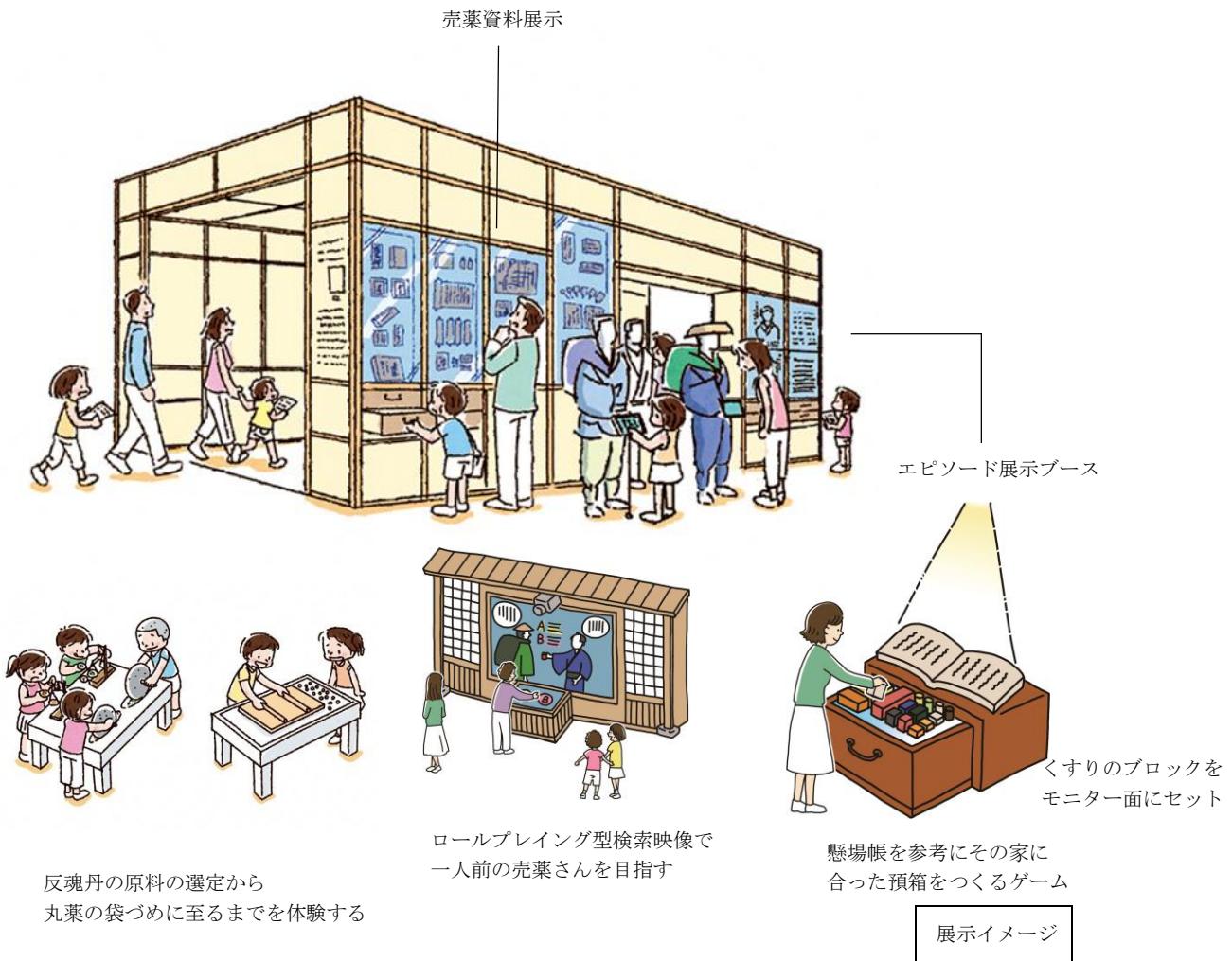
- ・(源流)前田正甫公の功績や立山信仰との関わり
- ・(通史)仲間組、反魂丹役所、藩を越える商の工夫
- ・(近代)西洋化への対応、戦後の混乱と薬業振興 等

例② 富山売薬のエピソード

資料をふんだんに活用して、富山売薬の歴史やトピック等を体験し身近に感じてもらえるよう、エピソードの展示・体験を行う。

本展示において採り上げる材料や資料としては、反魂丹役所や得意先の様子などの富山売薬の様子や状況がわかるものの再現や、預箱、柳行李、懸場帳などの行商用具、薬研、丸薬製造機、袋詰め用具などの製薬用具といった用具資料、画期的といえる出来事、ありし日の売薬さんの姿の体験などさまざまな題材が考えられる。

これらの題材を、体験と効果的に組み合わせて、利用者が懐かしむものから新鮮に感じられるものまで、連綿と続く薬都とやまの特徴をゲーム形式なども取り入れながら、情報と資料の両面から実感し、考えることのできる展示とする。



(3) 文化を感じるゾーン

富山売薬が文化や芸術などにも反映、影響してきたことを表現するゾーン

富山売薬が行商や製薬だけでなく、薬都とやまとして発展していく過程のなかで、文化や芸術などにも反映、影響したことを、文化という側面から捉えるゾーンを設定する。

展示内容としては、富山売薬の隆盛とともに進物として発展した売薬版画、薬袋として使われていた和紙、売薬版画や引き札などの広告にも関連して発展したデザイン、容器として活用されていたガラスなど、今日の文化・芸術・工芸につながるものや、薬都とやまに関する文章等で表現されたエッセイや小説などの文芸文化などの題材が考えられる。

これらの題材について、展示内容を効果的に組み合わせ、制作等の体験も行いながら、資料等の保存と活用の両面に配慮した展示とする。

【展示例】

例① 売薬版画コレクション・版画を読みとく

富山のくすりの特徴のひとつといえる文化・芸術の側面に光をあてるねらいから、売薬版画や関連する歴史資料などを紹介する。

売薬版画については、得意先に携行するだけでなく解説も行ったとされることから、作品の鑑賞を楽しむことができる展示環境を整備するとともに、時代背景や歴史的価値の魅力も味わえるよう、当時の世相や芸術文化の流行なども伝える展示とする。また、誰もが親近感をもって楽しめる場とするため、多色刷りで描かれた版画のしくみを体験する展示も充実する。

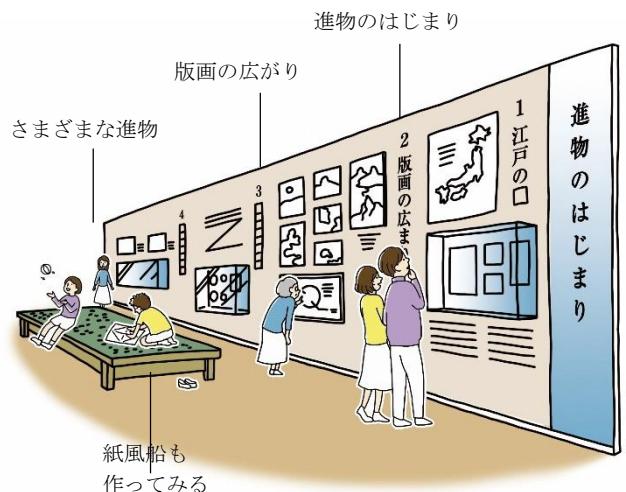


IV 展示計画

例② 進物と工芸文化を読み解く

江戸時代から昭和にかけての富山の売薬行商の特徴に、お土産品等の進物文化があげられる。その内容を伝えることをねらいとして、進物の品々のバリエーションと薬業の文化的広がりを展示する。

内容は、進物として提供された品々を数多く紹介するとともに、売薬業と関連したパッケージや進物制作の広がりが富山を取り巻くその後の時代に多様な工芸品（和紙・ガラス・デザインなど）に結実したことをとりあげ、薬業がもたらした文化的影響をクローズアップする。



展示イメージ

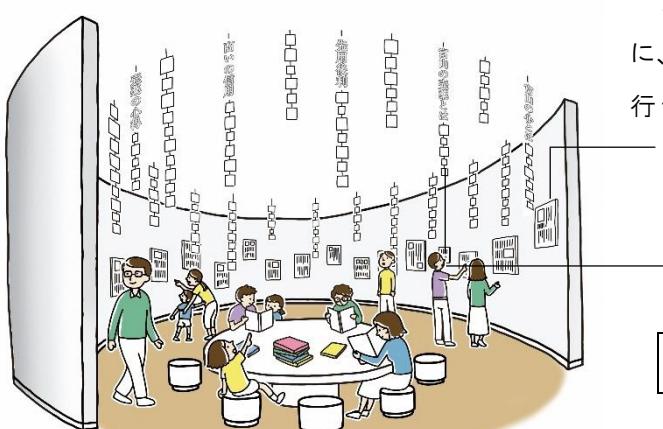
展示内容例

- ・進物の意味を知る
- ・進物の広がり
- ・紙風船の進物をつくるみよう
- ・新しいご進物を考えてみよう 等

例③ 富山のこころ

本市では、薬業振興と市民の誇りや意識の醸成を目的として、書籍「富山の置き薬」の制作が進められている。この書籍では、富山の置き薬をテーマとして、著名人たちが捉えた富山のくすりに関わるエッセイが掲載され、その生原稿が市に寄贈されており、展示資料として活用が可能である。富山のこころの共有化を図ることを目的として、著名人たちの心のなかに刻まれた富山のくすりのエピソードを基点に、富山のまちの風景や暮らしこともに生原稿などの関連資料を展示紹介する。そのほかにも、薬都とやまとつながるさまざまな文芸作品の活用を通した展示を検討する。

展示手法については、魅力が効果的に伝わるよう、作者のこころを優先しつつ、展示表現の工夫を行うものとする。



展示イメージ

展示内容例

- ・エッセイをまとめた書籍の読書スペース
- ・エッセイに描かれた場面やゆかりの品 等

(4) くすりを感じるゾーン

富山のくすりを身近な視点で感じとつてもらう ゾーン

薬都とやまの魅力を発信するとともに、くすり関連施設として、くすりそのものの多面的な特徴を理解し、関心をもつてもらうため、くすりの価値を身近に感じてもらう展示・体験のゾーンを設定する。



小人になって
薬の世界をみてみよう

展示イメージ

展示・体験の内容としては、くすりを理解し、関心をもつてもらう観点から、富山の特徴である和漢薬の原料に多く使われる生薬を学びながら楽しめる体感展示や、人々の健康を保つくすりの基本的特徴を紐解く展示、製薬企業・製薬関連企業を理解し、関心を持ってもらう観点から、商品として製造・流通に注目した展示、くすりのパッケージデザインに焦点を当てた展示など誰もが身近に薬を把握できる工夫を行い、薬に対してより多くの人々が関心を抱く場とする。

このゾーンでは、拡大された薬箱を模したブースを配置するなどさまざまな手法を活用して、くすりを五感で感じる空間を構成し、利用者の興味を喚起するものとする。

【展示例】

例① 生薬の世界

富山のくすりを特徴づけてきたといえる和漢薬の原料としても使われる生薬をとりあげ、その特徴を紐解く展示。内容としては、生薬の素材そのものに注目し、素材となる動植物を紹介することで、自然界の多様な恵みを巧みに取り入れ、生薬がつくりだされたことを、わかりやすく伝えるしくみを検討する。

手法としては、生薬の森といった特色ある展示空間として、利用者自らが展示空間を散策し、学び遊びながら体験できる展示とする。また、展示にあたっては、場合により場所を工夫したり、実物をモデル展示とする等、安全やアレルギー対策にも配慮して構成する。

自然環境を模した空間で
生薬の展示を行う



生薬に触りながら体験する

展示イメージ

IV 展示計画

例② くすりの製法（VR等での工場見学）

くすりに対する理解や興味を深めることをねらい、薬そのものからは見ることができない、薬の製法プロセスを紹介する。

産業観光が盛んとなるなか、製薬工場の見学は生命機序に直接作用することから高度な衛生管理や機密管理が必要となり、年々困難となっている。このことから工場見学をデジタル等の手法を活用し、本施設で疑似的にできるようにする。また、医薬品産業に興味を感じてもらうため、研究者や開発者になったつもりでくすりの内部構造を学んだり分析したりする体験をできるような楽しみが考えられる。

見学・体験手法としては、見えにくいものを見せる内容面の特色を活かし、くすりの内部構造を知るミクロの視点と、工場での製造工程を知るマクロの視点の両面から富山のくすりができるまでのプロセスを紹介する。本市、本県には多くの製薬工場や研究所が立地することから、より多くの企業の協力を得て、さまざまな見学ができるように努めていく。

VR で工場見学（360 度 VR 映像）



薬を拡大し成分を知る



分子レベルで薬を分析

展示イメージ

展示内容例

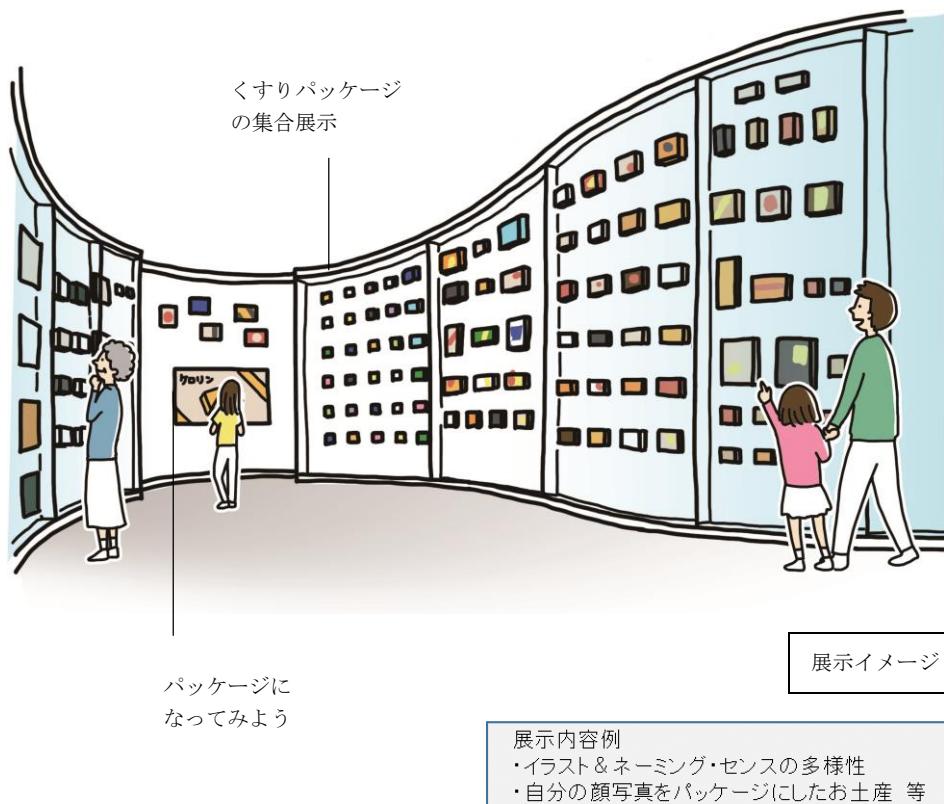
- ・工場での製法プロセス
- ・工場の現在と過去の比較
- ・薬を分子レベルで分析 等

IV 展示計画

例③ くすりのパッケージデザイン

富山の薬の楽しみや特色のひとつに、多くの人々が目にする機会の多いパッケージデザインの多様性と面白さがあげられる。こうした特色を通じて薬への親近感や好奇心を抱いてもらうことを狙い、くすりのパッケージデザインの展示・体験をとりあげる。

展示・体験では、さまざまな種類があるパッケージデザインの多様性と、描かれる絵の工夫やネーミングの由来、おもしろさなどをとりあげる。手法としては、取り上げる内容がデザインであることを活かし、展示空間の壁面全体でパッケージデザインを表現し、利用者の興味を促す。

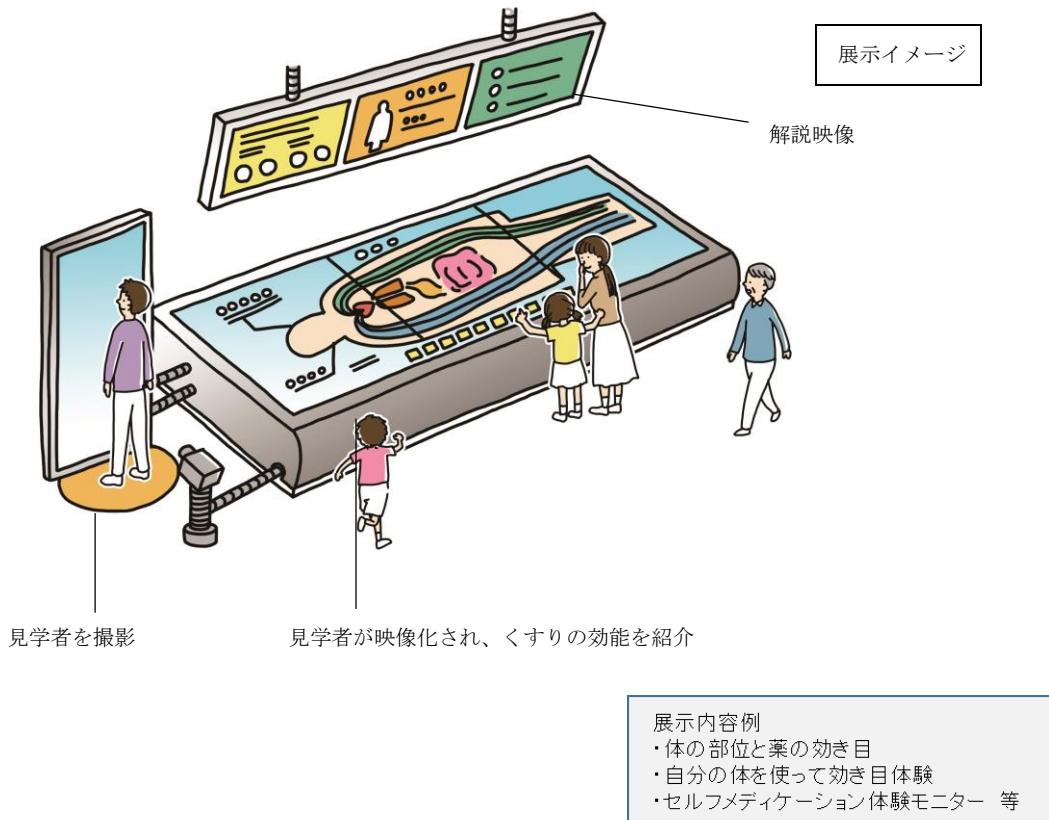


IV 展示計画

例④ くすりの効能

薬の基本ともいえる効き目の観点からくすりに興味をもってもらうため、くすりが効いていくしくみ等を紹介する。セルフメディケーションの学びの場としても利用してもらえることを目指す。

伝えていく内容としては、富山で作られているくすりなどを題材に、富山の製薬企業の得意分野である製剤における剤形などの工夫の紹介や、くすりの体内吸収と効能などをとりあげる。手法面でも、興味をもってもらいやすいよう利用者自身の体を模型化し、自分の体の部位と薬の作用を「見える化」する工夫を行う。



(5) 未来を感じるゾーン

「薬都とやま」の未来を共に創りあげていくゾーン

本施設が薬都とやまの拠点として機能していく一環として、利用者それぞれが自由にくすりの価値や薬都とやまを捉えることができ、学び、考え、未来を予感し期待を膨らませるゾーンを設定する。

未来に通じる展示群として構成することとし、富山の未来の創造につながるような学びの場を設けるとともに、時事的なニュース記事や情報等を紹介する。また、未来創造のヒントとなる情報に接することができ、人との出会いが生まれやすい空間など、さまざまな世代・背景の市民の参加が図られるようにする。

【展示例】

例① コドモくすりスペース

次世代を担う子どもたちを主な対象に、薬都とやまの未来を共に創造するきっかけづくりをねらい、未来の生活を思い描くなかに薬を捉え、楽しみながら未来の薬を想像する展示を計画する。

子どもたちに広く興味をもってもらい、薬のあり方に関心を広げてもらうため、親近感とともに多面的に薬を捉える事ができるよう、くすりを国語・算数・理科・社会といったさまざまな視点から学ぶことのできるプログラムを提供し、多様な見方でくすりに対する興味・関心を喚起する気軽な発見・学習空間を想定する。

子どもたちの参加に限らず、家族や幅広い世代が学び関心をもつききっかけづくりとなるような場の形成を図ることも検討する。



ゲノムやバイオ等の体験

展示イメージ



展示イメージ

くすりの基礎や未病等をいろいろな角度から遊びながら学べるスペース

- 展示内容例
- ・くすりの基礎を学ぶ
 - ・「未病」を学ぶ
 - ・未来の創薬ワークショップ 等

IV 展示計画

例② くすりニュース

薬の未来を描くうえでは、薬を取り巻く最新動向を知り、課題や可能性を知ることが欠かせない。薬の未来を描くうえで参考となる医療や薬事に関するさまざまなニュースを紹介する。

さらに、利用者に未来のくすりに関する、例えば「不死の薬が完成した時にあなたは使用しますか」といった問い合わせを行い、自由に回答を残してもらい、富山のくすりの未来創造に参加する展示を検討する。

例③ A I (エーアイ) ライブラリー

本施設において、学習プログラムや交流の機会を通じて芽生えた個々人の学びを支えることをねらいとして、書籍や映像などの多様な学習ツールを提供する。

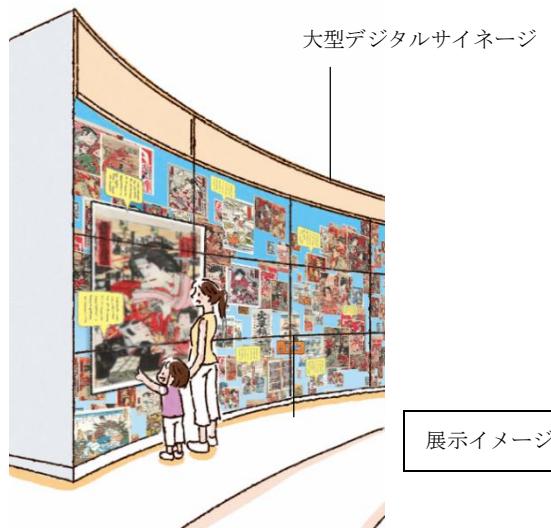
近年の学習環境の計画では、円滑な学習支援や学習意欲の発展を引き出すことを目的とした検索技術の進展が期待されており、最新のA I機能を活用したくすりに関する情報などを閲覧できる場を想定する。



利用者が自由に回答を残す

展示内容例

- ・医療・薬事に関わる世界の最新ニュース紹介
- ・世界の最新ニュースと富山の関わり解説
- ・問い合わせに対する回答 等



AI機能で情報を検索

展示内容例

- ・関心キーワード検索
- ・出身地・年齢などの属性でリコメンド検索 等



展示内容例

- ・大学研究成果の定期発表会
- ・企業による新薬プレゼンテーション
- ・高校生による研究発表 等

V 管理運営計画

1 基本的考え方

市民や利用者のニーズを充足させるとともに、費用と人材を安定的に確保できる管理運営手法を探査していく。

具体的な取り組みにあたっては、産業界や大学・学校、市民個人・団体とのネットワークを構築し、連携・協力することで、より充実した運営を推進する。また基本構想で整理を行った3つの方針に基づき、市民や利用者がくすり関連施設を誇りに思うことができるような管理運営の取り組みを検討する。

2 管理運営の取り組み

(1) 基本的考え方

3つの方針に沿って、くすり関連施設の機能を十分に果たすため、管理運営のための取り組みを行うにあたって、次のように管理運営に努めるものとする。

3つの方針		取り組み
市民の参画を促し、市民とともに創造する管理運営	誰もが利用しやすく、市民がくすり関連施設に親しみをもつことができるよう、市民が参画しやすく、市民とともに創造する管理運営に努める。	(1) 市民と協働するしくみづくり (2) 利用者サービスの向上の取り組み (3) 広報の充実 (4) 人材育成
連携強化のための体制づくり	学校や研究機関、企業・団体、人材等との連携を強化し、体制づくりに努め、施設の活性化を図る。	(1) 多様な主体との連携 (2) 専門家との連携 (3) 連携体制の構築
未来創造事業を実現する管理運営	くすり関連施設の特性となる未来創造事業を実現するため、産官学民の特色を活かし、情報の収集・提供・発信等を行う。	(1) 専門家の効果的な活用 (2) 産官学民の特色を活かした運営 (3) 情報収集・提供・発信

(2) 具体的取り組み

① 市民の参画を促し、市民とともに創造する管理運営

ア. 市民と協働するしくみづくり

本施設を取り巻く多様な人々との協働関係が、健全な事業運営には欠かせないという認識を持ち、薬業関係機関から一般市民まで幅広く事業への参画と理解を促すしくみを構築する。

また、市内外に存在し、散逸が懸念されているくすりに関する資料を市民と協力して調査・研究し、収集保管した資料は公共の財産として活用し、施設の管理運営に活かしていく。

イ. 利用者サービスの向上の取り組み

常に利用者への配慮やニーズの把握を行い、事業の実施にあたっては、柔軟性があり、効率的で質の高いサービスを提供できる体制を構築する。

また、多様な人々の利用につながるよう、障害の有無や使用言語に制約されることなく誰もが利用できる管理運営を行う。さらに、城址公園や中心市街地を訪れる方が気軽に利用できるよう、まち歩きの活性化、中心市街地の回遊性の向上に向けた取り組みを行う。

ウ. 広報の充実

本施設の使い方や楽しみ方、多彩な事業内容が広く市民や利用者に伝わるよう、広報媒体を効果的に活用し、PRする。学校や企業、機関・団体などが利用することができるよう、関係機関と連携し、さまざまな機会を捉えて紹介やPRを行う。

エ. 人材育成

本施設の調査・研究・資料整理、館内外のガイドを行う人材の育成にあたっては、くすりの語り部育成事業等と連携し、計画的な育成、教育に取り組む。

② 連携強化のための体制づくり

ア. 多様な主体との連携

くすり関連施設が多様な主体とともに、事業や企画、展示、体験に取り組むことで、活動の質や量を高めていく。連携の主体となることが想定されるのは、教育・研究機関、他のくすり関連施設、企業・団体等である。また異業種分野との交流により、新たな気づきを生み出し、イノベーションが生まれる環境をつくる。

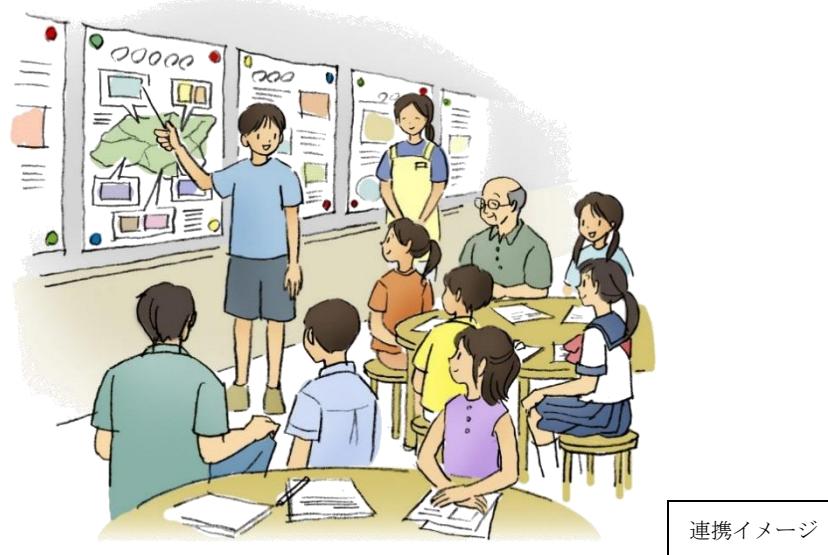
イ. 専門家や地域等との連携

市内には、富山大学薬学部・和漢医薬学総合研究所、県立富山北部高等学校くすり・バイオ科などの教育機関、50を超える製薬企業、豊かな関連産業が存在している。

また、既存のくすり関連施設には、くすりの歴史や文書の資料を研究する専門家もあり、長い歴史に支えられた富山売薬の蓄積がある。これらの専門家や関係者そして富山のくすりに所縁のある人材等と効果的に連携をとり、協力して活動を展開することで、施設の活性化を図っていく。

ウ. 連携体制の構築

多様な主体との連携、専門家や地域等との連携を効果的に図るため、連携体制の構築を行い、くすり関連施設が本市のくすりに関する拠点施設として、機能を果たすことができるよう努めていく。



V 管理運営計画

③ 未来創造事業を実現する管理運営

ア. 専門家の効果的な活用

未来創造事業の実施にあたっては、新たなアイデアの創生やイノベーションにつながるよう、薬業や薬学をはじめとする各専門家の知見や製薬企業の経験を効果的に活用する必要がある。企画・計画段階から専門家の関与、協力を得ることで、魅力ある施設づくり・管理運営に努める。

イ. 産官学民の特色を活かした運営

富山が有するくすりに関する豊富な産官学民の特色を活かして、未来創造の実現につながる事業の実施に努める。5年、10年、さらに未来を見据えた事業ができるよう、産官学民の特色が活かせるような管理運営方式を取り入れる。オープンイノベーション※ や産官学民の交流が新たな未来創造につながることが想定されることから、サテライトセンターの設置等も検討し、未来創造を促し、環境づくりができる管理運営を行う。

ウ. 情報収集・提供・発信

くすりの拠点施設として、未来創造につながる情報を広く集めるとともに、くすり関連施設に蓄積されたくすりに関する資料や情報を、さまざまな手法で積極的に提供・発信に努める。情報の収集・提供・発信を円滑に行えるよう、費用対効果も加味したうえで、必要な情報システムの構築を検討する。

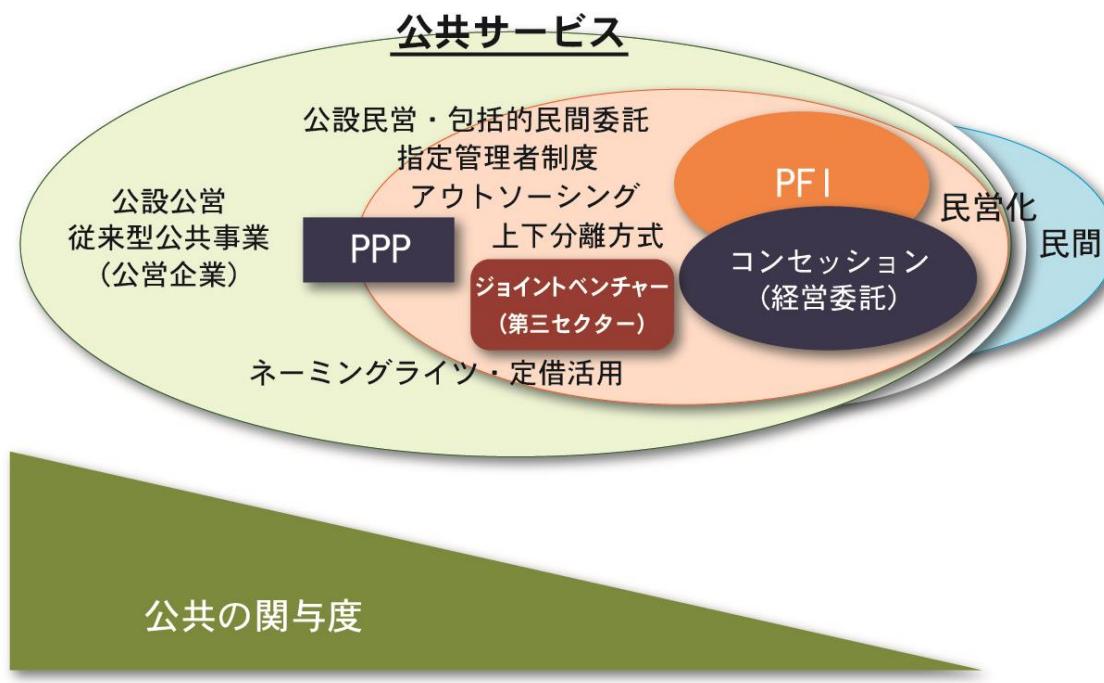
※オープンイノベーション・・・企業が技術の価値を高めようとする際、内部のアイデアとともに外部のアイデアを用い、市場化の経路としても内部の経路と外部の経路を活用することができるし、また、そうすべきであると考えるパラダイム（出典：HENRY CHESBROUGH, “OPEN INNOVATION:THE NEW IMPERATIVE FOR CREATING FROM TECHNOLOGY” Harvard Business School Press 2003年）

3 管理運営手法

(1) 基本的考え方

くすり関連施設においては、「富山市公共施設等総合管理計画」に基づき、事業理念の実現にむけた最適な管理運営の手法を採用する。公の施設・組織の管理運営の手法には、さまざまなものがあり、それぞれの特性を踏まえた手法を検討する。管理運営手法の決定はPPP^{*}の導入可能性調査を踏まえたうえで行うものとする。

^{*}PPP (Public Private Partnership:パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携) . . .
公民が連携して公共サービスの提供を行う手法の総称であり、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれる。（出典：富山市公共施設等総合管理計画）



(2) 開館形態と利用料金

開館日時や利用料金は、市民や観光客のニーズ・動向に対応するとともに、運営の持続可能性を保つ観点から幅広く可能性を検討する。

① 開館形態

休館日や開館時間は、市民や観光客の利便性を考慮し、弾力的な設定を検討する。

② 利用料金

利用料金は、受益者負担の考え方や、入館者数確保の考え方などを総合的に検討し設定する。

③ 留意点

市内の回遊性を高め、他施設との連携等を考慮した利用者の利便性と、事業採算などの持続性の両面に留意して検討する。

VI 今後の事業展開について

1 基本的考え方

基本構想及び基本計画を受けて、くすり関連施設が本市のくすりに関する拠点施設として開館・運営できるよう、くすり関連施設の周知、情報収集等の必要な準備を行いながら、産官学民連携のもと、着実に準備を進めるものとする。

(1) スケジュール

本基本計画の策定以降、ＰＰＰ導入可能性調査を行い、運営手法を検討するほか、くすり関連施設の周知、情報収集等の必要な準備を行いながら、着実に準備を進めるものとする。

(2) 開館までの取り組み

くすり関連施設の開館に向けた取り組みとして、「薬都とやま」のブランドイメージを市内外へ広く普及していく必要がある。そのためにもＰＲ・普及やソフト面での充実を図る必要があるため、開館に向けて、次の3つの面から取り組みを行う。

- ① ＰＲ・普及等（くすり関連施設の周知等）
- ② ソフト面での準備・充実等（資料の収集等）
- ③ ハード（施設）面での準備・充実等（城址公園整備との調整・連携等）

VI 今後の事業展開について

2 開館に向けた取り組み

くすり関連施設の開館に向けた、3つの取り組みの具体的な内容については、次のとおりである。

(1) PR・普及等

本市におけるくすり関連の拠点施設として整備・運営していくためには、「富山壳薬」からはじまり「薬都とやま」へとつなげてきた歴史と同様に、継続した地道な取り組みが必要となる。

本施設を魅力ある施設としていくためにも、施設のPRや普及にあたっては、開館前からの取り組みは重要である。くすり関連施設の開館に向けては、より多くの市民に整備事業について知ってもらい、ともにくすり関連施設をつくる取り組みを展開していくことや300年以上の歴史を有する「薬都とやま」の誇りを醸成することが今後重要である。そこで次の三つの方策によって、市民への理解促進を進めるものとする。

① くすり関連施設開設のPR・周知

本市の基盤産業であるくすりを市内外に広く周知するため、PRの機会を増やし、くすり関連施設への期待感を高める。各種イベント等を通じた富山のくすりのPR事業や、インターネット等を通じた富山のくすりのPR事業を行う。

② セミナーやワークショップによる市民への理解促進

セミナーやワークショップ等を通じ、薬都とやまについて市民の理解促進を図るほか、ホームページ等を通じたPRを行い、市民に富山のくすりを身近に感じてもらえるような知識普及に取り組む。

③ 名称・VI[※]等の検討

施設の名称やVIの名称も検討しながら、施設が担う使命やイメージ、目指す方向性を、市民とともに共有していく。

※VI・・・施設のイメージや伝えたいことを言葉だけでなく、アイコン（記号）として組織の内外に共有化されるもの。（ex.ロゴやシンボルマーク）または、それらを活用する際の約束事・ルールを含む。（ex.ブランドガイドライン）

VI 今後の事業展開について

(2) ソフト面での準備・充実等

「薬都とやま」としてのブランドイメージを形成するためには、資料の収集や魅力ある展示づくり、学校へのアウトリーチといった教育プログラムの充実や人材育成、関連する団体、大学との連携を積極的に行う必要がある。

① 資料の収集

- くすりに関する拠点施設の役割として、資料の収集・保存や寄贈・受託の受入れがある。一般向けに公開する資料、研究者や産業用で公開できる専門的な資料等、仕分けをしながら、貴重な資料を散逸させない方法を検討していく。
- ・各種情報に基づく市内外の資料の収集と調査
 - ・他のくすり関連施設との連携による資料調査

② 特色・魅力ある展示づくり

- くすりの魅力や面白さを伝え、くすり関連施設のリピーターやファンを増やすための具体的な展示内容やプログラムを検討する。
- またくすりへの関心をひろげていくために、くすりに関するDVDやパネルなどにより、施設以外の場所においても展示できるようにプログラムを検討する。
- ・先進事例や類似事例を参考とした具体的な展示手法の検討
 - ・更新やインタラクティブ※ 性を高める展示プログラムの検討
 - ・本施設以外の場所でも展開できる、移動展示キットの開発

③ ガイド等の人材育成

- 富山のくすりについて広く語ることのできるガイド人材として売薬従事者（売薬さん）の経験者などの人材を確保し、ガイドとしての育成に取り組む。
- ・「語り部事業」に基づくガイド等人材の育成

※インタラクティブ・・・「対話」または「双方向」といった意味で、ユーザーがパソコンなどの画面を見ながら、対話をするような形式で操作する形態を指す。

VI 今後の事業展開について

④ 関連団体との連携・調整

- くすりの拠点施設としての役割を担うために、薬業関連団体や他の施設のほか、くすりに関する知識や理解を有する人材との連携・調整を積極的に行う。
- ・市内の学校及び教育委員会等との連携・協力に関する検討
 - ・薬都に関わるさまざまな団体・企業等との連携・協力に関する検討

(3) ハード（施設）面での準備・充実等

本施設が、城址公園をはじめとする周辺環境と調和するよう、各種条件を整理し、関係機関と調整を図りながら準備を進める。

① 城址公園整備との調整・連携

- 本施設が担う機能と城址公園の機能が十分連携できるよう、整備にあたっては、スペースなどの確保や求められる機能についての動線などを検討していく。
- ・くすり関連施設の利用者動線、視線から見た城址公園整備への要望
 - ・城址公園整備計画との調整、連携

② 各種条件の検討・調整

まちなかのシンボリックな拠点施設として、上位・関連計画や周辺景観との調整を継続し必要な条件を検討する。

- ・上位計画や関連計画との調整
- ・景観などの調整
- ・建築条件との調整
- ・図書館日本館解体工事の経過の確認

3 くすり関連施設の今後の検討課題

くすり関連施設の開館に向けて、策定委員会や各種調査などで検討が必要とされた事項のうち、PPP導入可能性調査を踏まえて検討が必要となることや、設計・施工時までに検討するべきこと、開館までに検討すること等、本計画策定時には課題として残る項目について、整理して次に示す。

(1) PPP導入可能性調査を踏まえ、管理運営主体を募集するまでに検討する課題等

- ① 施設計画に関すること（意匠・建築デザイン計画、施設規模、施設利用計画、諸室構成（屋上・地下含む）など）
- ② 展示計画に関すること（展示内容など）
- ③ 管理運営に関すること（運営方式、スキーム、資金計画、来館目標の設定、組織案、収益機能、入館料、開館時間など）
- ④ その他（スケジュール計画など）

(2) 設計・施工時までに検討する課題

- ① 事業計画に関すること（マルシェ型サービス、飲食機能、資料保全・活用計画など）
- ② 施設計画に関すること（外観イメージ、施設利用計画、機械室、諸室構成、災害対応など）
- ③ 展示計画に関すること（サブタイトル、KUSURI・信用3本柱の表現手法、展示手法、コンテンツの研究、データベースのシステム構築、多言語化対応（ハード）、資料保存基準、先進技術の導入手法、多様な世代への対応策など）
- ④ 管理運営計画に関すること（組織計画、人材育成計画など）
- ⑤ その他（公園整備との調整など）

VI 今後の事業展開について

(3) 開館までに検討する課題

- ① 事業計画に関すること（他のくすり関連施設との役割分担の整理）
- ② 展示計画に関すること（資料調査、知的財産の取り扱い基準、コンテンツの研究、データベースの作成、多言語化対応（ソフト）、資料活用計画など）
- ③ 管理運営計画に関すること（組織計画、研修プログラム、市民参加のしくみづくりなど）
- ④ その他（開館イベント、開館までのスケジュールなど）

(4) その他の課題

その他（検討組織の設置、広報計画（V I 含む）など）

資料編

資料編

I くすり関連施設基本構想等策定委員会

1 策定経過

期日等	内 容
平成30年 8月 1日（水）	くすり関連施設基本構想等策定委員会設置
8月 27日（月）	第1回くすり関連施設基本構想等策定委員会 1 委員紹介 2 事業の背景、経過、目的と本委員会の位置づけについて 3 委員長、職務代理者の選任 4 議事 （1）平成30年度スケジュールについて （2）くすり関連施設基本構想（素案）について 基本的な考え方、くすり関連施設に求められる機能について
8月 27日（月） ～ 1月 18日（金）	関係者インタビュー等の実施 ・関係者インタビュー 薬業関係者4人、学識者4人 ・ワークショップ 市内在住20代から40代 12人 ・配置従事者インタビュー 配置従事者15人 ・カフェの社会実験者 1者
11月 13日（火）	第2回くすり関連施設基本構想等策定委員会 1 報告 ヒアリング等調査報告等 2 議事 （1）くすり関連施設基本構想（案）について （2）くすり関連施設基本計画（素案）について 基本計画、事業計画、施設計画、展示計画、 管理運営計画・今後の事業展開について
12月 7日（金） ～ 27日（木）	パブリックコメントの実施 （意見 1人1件）
平成31年 1月 18日（金）	第3回くすり関連施設基本構想等策定委員会 1 報告 調査報告、パブリックコメント結果報告 2 議事 （1）くすり関連施設基本構想（案）について （2）くすり関連施設基本計画（案）について

I くすり関連施設基本構想等策定委員会

2 設置要綱

(設置)

第1条 本市が「くすり関連施設」を富山市旧図書館本館跡地に整備するにあたり、薬をテーマとした富山を象徴する魅力ある施設とするため、有識者等の意見を聴取し、よりよい基本構想及び基本計画を策定できるよう、くすり関連施設基本構想等策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について所掌する。

- (1) くすり関連施設の基本構想に関すること。
- (2) くすり関連施設の基本計画に関すること。
- (3) その他第1条の目的を達するために必要なこと。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学識経験を有する者
 - (2) 薬業、商工関係団体の役職者
 - (3) その他、市長が必要と認める者
- 2 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 3 委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員長を、委員会の議長とする。

2 委員会は、その所掌事務について、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、商工労働部薬業物産課において処理する。

(雑則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会に諮って定める。

附 則

1 この要綱は、平成30年8月1日から施行する。

I くすり関連施設基本構想等策定委員会

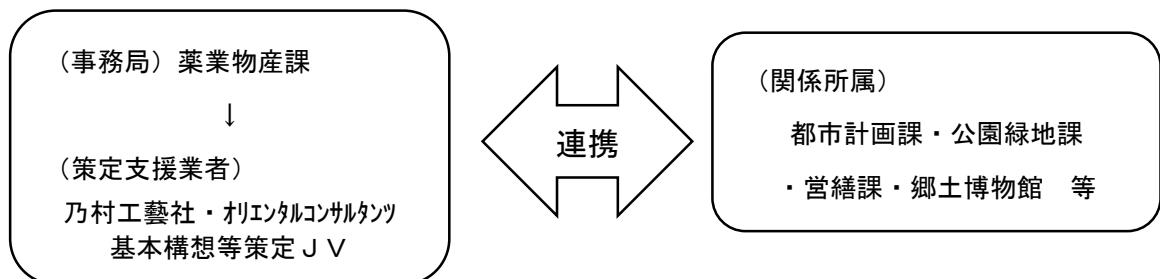
3 策定委員会名簿

敬称略

	区分	氏名	役職等
委員長	薬学	酒井 秀紀	富山大学 薬学部長
職務 代理者	景観・造形 デザイン	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 学科長 教授 (城址公園(松川周辺エリア)整備基本計 画検討委員会委員)
委員	博物館	藤田 公仁子	富山大学 地域連携推進機構 生涯学習部門 副部門長 教授
委員	まちづくり	高柳 百合子	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 准教授
委員	薬業	松井 竹史	富山市薬業推進協会 会長 (ティカ製薬(株) 代表取締役社長)
委員	薬業	高田 吉弘	富山県薬業連合会 専務理事
委員	経済	西岡 秀次	富山商工会議所 専務理事
委員	官民連携 (PPP)	石倉 慎也	(株)日本政策投資銀行 富山事務所長

計 8 人

府内連携



II クスリ関連施設調査

1 市内のくすり関連施設の概要

施設	所在地	建築・開館年	外観	施設概要	備考	業務内容
市内施設	富山市売薬資料館	富山市安養坊	1984  ※HPより引用	鉄筋コンクリート造 2階建 別館(旧密田家土蔵)	富山市 民俗民芸村内	売薬に関する資料を5,000点ほど収蔵しており、その一部を常設展示している。また、密田家から資料とともに土蔵が寄附されており、見学をすることができる。
	薬種商の館 金岡邸	富山市新庄町	1981.9  ※HPより引用	母屋(一部2階あり) 新屋(平屋)、庭園、駐車場		富山の経済基盤を作った薬種商金岡家の原点と足跡を辿った施設。
	廣貫堂資料館	富山市梅沢町	1994 リニューアル  ※HPより引用	1階建	廣貫堂本社 敷地内	歴史・文化的にも価値の高い古文書や、当時の薬売りが使った珍しい品々、昔懐かしいお薬のパッケージなどを保存・展示し、廣貫堂の歴史、売薬の歴史を伝えている。
	市郷土博物館	富山市丸の内	2005.11 リニューアル  ※HPより引用	鉄筋コンクリート造 4階建	富山城址公園内	半世紀にわたり、郷土の歴史・文化を紹介する博物館として活動してきた。その後、平成17年に、富山城の歴史を紹介する博物館としてリニューアルオープン。

II くすり関連施設調査

2 市外のくすり関連施設の概要

施設	所在地	建築・開館年	外観	施設概要	備考	業務内容
市外施設	内藤記念くすり博物館 岐阜県各務原市	1971.6 (1986,2005増設)	 ※HPより引用	本館、展示館、図書館、薬草園、温室	エーザイ川島工園隣接	日本初のくすりに関する総合的な博物館として、エーザイの工場敷地内に併設される形で開設された。くすりに関する資料や図書など約2,000点が展示されている。
	中富記念くすり博物館 佐賀県鳥栖市	1995.3	 ※HPより引用	本館2階、別館		薬業や医療史に関する博物館。郷土のくすり産業文化である「田代売薬」の保存管理、伝承を核とし、「くすりと健康」について考える生涯学習の場を提供することを目的に、久光製薬創業145周年の記念事業として開設された。
	田辺三菱製薬史料館 大阪市道修町	2015.5	 ※HPより引用	本社2階の一部	田辺三菱製薬本社ビル内	大阪・道修町の老舗である田辺三菱製薬創業以来の企業活動と、幾多の困難を乗り越えてきたフロンティア精神に関する歴史的資料が展示されている。
	Daiichi Sankyo くすりミュージアム 東京都中央区日本橋	2011.9	 ※HPより引用	本社1、2階の一部	第一三共本社ビル内	「くすりの働きや仕組み」「くすりづくり」「くすりと日本橋」などについて見る、聞く、触れることで楽しく、分かりやすく、学ぶことができる体験型施設。創薬に関する企業の活動も知つてもう。
	甲賀市くすり学習館 滋賀県甲賀市		 ※HPより引用	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造1階建	鹿深夢の森に隣接	人と薬の関わり、配置売薬などの歴史を学べる施設。
	三光丸クスリ資料館 奈良県御所市	1999.9	 ※HPより引用	くすりのまほろば館、三光丸こころの館、収蔵庫、庭、小径	三光丸本社敷地内	見たり聞いたりするだけではなく、薬草の実物や江戸時代に実際に使われた薬づくりの道具に触れたり、薬づくり(三光丸)を体験したりすることができる珍しい施設。「大和売薬」発祥の地である今住にあり、歴史を伝えます。

III ヒアリング等調査

1 ワークショップ

日 時： 2018年11月5日（火） 19：00～21：00

場 所： 富山市内

出席者： 20代～40代の富山市内の男女12名

テーマ：市民目線での今回のプロジェクトへの期待や現状の課題認識、そして「薬都とやま」の未来について、より良い拠点施設開発へのヒント・特異点を抽出する。

ワークショップで抽出した意見

（1）「友人・知人を連れて行くなら、富山市内のどこ？」

＜まとめ＞

- ・環水公園（＋スターバックス）について、ほぼ全員が友人・知人を連れて行くと回答。
- ・飲食店を挙げる参加者が多かった。（参加者全体が出た店名を聞いて納得する様子も垣間見ることができた。）
- ・他、キラリや八尾や岩瀬などの古い町並みについても意見が上がった。

（2）「富山のお奨めポイント／ネガティブポイント」

＜お奨めポイントまとめ＞

- ・「食べ物が美味しい」「魚が美味しい」について、ほぼ全員が回答。
- ・次いで、「豊か」や「山・海がきれい」など、自然を奨める参加者が多かった。
- ・他、「市電」「中心市街が機能的」「コンパクト」など、まちについての意見も上がった。

＜ネガティブポイントまとめ＞

- ・「車社会」であることへの意見が多く上がった。車を持っていない人は「タクシーが来ない」「電車の値段が高い」他、交通機関の不満の声が上がった。
- ・「店が少ない」「営業時間が短い」など、買い物が不便であることがわかった。
- ・気候について不満を抱く参加者も見受けられた。
- ・まちがコンパクトであるため知人によく遭遇する、防災意識が低い、まちに歴史的な建物が少ないなどの意見が上がった。
- ・その他、まじめすぎる、目に見えないものを評価しない、など文化に対する不満もあつた。全体として交通についての意見が出たが、長所・短所にもなることがわかった。

III ヒアリング等調査

(3) 「薬都とやま/くすりのまち富山を感じる時とは？」

<まとめ>

- ・「富山駅や空港で広告を見たとき」「テレビ」「新聞」「他の人から言われる」など、メディアや外部の人から言われることが多い結果となった。
- ・製薬会社や工場がまちに多いことで知る参加者も多かった。
- ・「小学校のころなどに、富山がくすりのまちであることを教えられたか」などの質問にに関しては全員が「教わっていない」と答えた。

(4) 「施設・拠点として、どうあるべきか？」

- ・製薬会社としてもくすりの核になるできる施設ができるのは嬉しい。会社のPRの場としても活用できたらうれしい。
- ・城址公園は遊び場、憩いの場（あえて行く場所）というイメージがない。ANAのホテル側から見た様子はキレイだが中に入ると寂しい印象。
- ・環水公園はそこにいる自分がお洒落という感覚がある。県外客も連れていきたい。
- ・人を連れていくのに、「くすり」であることは関係なく、建築が美しいことや空間がお洒落であるほうが重要な感じ。
- ・キラリの図書館も旧図書館も中高生の自習スペースとしてにぎわっていた。若者が集う場であると活気がある。
- ・富山の人は初めのところは物珍しくて行くがリピーターにはならない。
- ・「くすり」施設であることは意識せずに休憩できる場所であれば市民も何度も利用したい。
- ・「くすり」×「●●●」のコラボが必要。（例：製薬会社とゲーム会社のコラボが進行している。）
- ・産官学のコアになるべき。



III ヒアリング等調査

2 関係者インタビュー

(1) 薬業関係者①

現状	コンテンツ
<ul style="list-style-type: none">駅からの連続性など、まち全体の連携がない。	<ul style="list-style-type: none">インパウンド（陳列の仕方の工夫も必要）。（人材育成の視点で）富山の次の世代。集客。シニアバス、ライトレールとの連携。食に繋がるもの。

(2) 薬業関係者②

現状	未来予測
<ul style="list-style-type: none">世界マーケットは2025年までにほぼ倍に増え、日本・富山は今後横ばいか微減。バイオ薬品のトレンドは続くが、富山県内で手掛けているところはない。バイオ薬品のジェネリックをつくる技術はない。	<ul style="list-style-type: none">国内は社会保障費の削減に伴い、生産額減の予測。外資の市場介入。外資が日本に入る際はファブレスのため、外資から受託が増える予測。
施設のあり方・方向性	コンテンツ
<ul style="list-style-type: none">（受託生産から脱却し、ゲノム・再生医療にシフト等）富山の薬業界が目指す方向性を示す象徴。ワクワク感。就労前の若者に夢を与える場。未来志向の学びの場と研究の場の両軸。富山大学「未病予防プロジェクト」のサテライトセンター。そこから起業の誘発。全国からスタートアップしたいという人々が集まる場として、立ち位置の確立。	<ul style="list-style-type: none">富山大学民族薬物資料館の移管。コンテンツの多言語対応。3Dでバーチャル体験（時代体験、工場見学等）。中高生にも夢を与えるストーリー性。

(3) 薬業関係者③

現状	未来予測
<ul style="list-style-type: none">富山市薬業推進協会、富山県薬業連合会は共に、富山県内のくすり関連産業の企業体をとりまとめてきた。後進の育成として、小学生～高校生を対象とした学び体験・インターンシップの機会をていきょうしてきた。	<ul style="list-style-type: none">配置薬業は衰退気味。受託製造やジェネリックについても飽和する懸念。創薬をしていく必要。事業者向けの配置が突破口か。アジアへの技術の売り出し。
施設のあり方・方向性	
<ul style="list-style-type: none">企業合同、共同開発がしやすい場所。未来創出の場。現状の課題に対するセッションを行い、富山ブランドのくすり創出。	

(4) 薬業関係者④

現状	未来予測
<ul style="list-style-type: none">富山市薬業推進協会、富山県薬業連合会は共に、富山県内のくすり関連産業の企業体をとりまとめてきた。後進の育成として、小学生～高校生を対象とした学び体験・インターンシップの機会をていきょうしてきた。	<ul style="list-style-type: none">資本を過程に置いてきて、回収できていないのが問題。目指すのは製剤技術力・品質管理力を基にした医薬品の製造拠点。
施設のあり方・方向性	
<ul style="list-style-type: none">人と人とのつながりが出来ていく施設。大学・県内メーカーの出会い。富山の様々なルーツのものが「くすり」であること。配置販売業の基本は、富山県人の気質を体現していること。	

III ヒアリング等調査

(5) 有識者：郷土史家①

現状	コンテンツ
<ul style="list-style-type: none">市内に、くすりの中核となる施設がない。中核施設の役割は何なのか、他の施設と連携するためのケジメを付けていく必要がある。資料の収集等、指導的役割を担うのが中核施設の役割。	<ul style="list-style-type: none">売薬～近代までのくすり産業の流れを把握しておく必要がある。売薬を「薬都とやま」の中でどのように位置づけるかが肝。昔の博物館は展示中心であったが、これからは展示だけではない、富山の持ち味である伝統的なものと科学的なものを活かしていくべき。
施設のあり方・方向性	
<ul style="list-style-type: none">「薬都」「くすり」とは何か、どう位置づけするか。ひとつひとつの言葉を整理し「未来」を感じる施設に繋げる。「未来を感じる」ことをテーマとしているが、変容する環境にどう対応するかということが「未来」。「信用3本柱」は「売る」「ひと」「情報」。中核施設が担うのは、「情報」。近隣施設との連携や、くすりに関する情報集積。富山の場合は「ひと」がすべて。「ひと」を軸に置いた方が整理しやすく、他とは違った切り口。	

(6) 有識者：郷土史家②

施設のあり方・方向性	未来予測
<ul style="list-style-type: none">「実物資料を持っている」ということが大きい意味をもつ。加えて、最新の技術にも期待したい。関連産業に従事した人々のインタビューも集めることに期待したい。売薬さんのお話・記憶を残しておくことが重要である。	<ul style="list-style-type: none">置き薬という仕組みは、実際にモンゴルなどで活用されようとしている。

(7) 有識者：薬学（全般）

現状	未来予測
<ul style="list-style-type: none">富山が大切にしてきた「信用3本柱」や歴史を、未来に継承することが重要。但し、古いままでは伝わらない。古い資料も切り口を変えて発信する必要がある。「KUSURI」というようなロゴ・ロゴタイプをつくり、世界へ発信していくことが必要。外への発信も重要だが、県内への発信も重要。県内の高校生が大学への進学で、薬学部への進学率が低い（全国的に低い）。	<ul style="list-style-type: none">くすりとガラス作品とのコラボレーションなどの融合。AIによる未来をどう描くかは明暗がある。イノベーションの期待は、くすり産業間でのセッションより異業種間のセッションが期待できる。例えば、薬学と工学とのセッションにより出来たマイクロ液体チップ上の臓器細胞培養（organs-on-a-chip）など、工学と薬学とのコラボレーションは期待が大きい。
施設のあり方・方向性	
<ul style="list-style-type: none">「飲食をいれるか？」という議論の前に根本的な施設像を議論すべき。切り口として、富山のくすりの歴史をまもり育てること。富山がアピールするくすり。「富山のくすり」の知名度は、県外では多いが、それらを活かさない手はない。	
コンテンツ	
<ul style="list-style-type: none">LEDによる演出したガラスのカプセル作品をシンボルとして、富山駅や新しい施設に設置したら良いのでは？そのシンボルの前で写真を撮りたくなるような発信。貴重な資料を新たな切り口で紹介するにも、その資料に関しての情報収集（聞き書き）が必要だが、高齢化している。医療に縁のある本庶先生、田中先生も富山に縁の方々に話してもらうような機会を設ける。製薬会社の社長が語る未来を展示化・発信したらよい。	

(8) 有識者：薬学（生薬）

現状	未来予測
<ul style="list-style-type: none">生薬を展示で扱うのならば、見学者に対して生薬は医薬品であるという認識を持っていただけるような工夫が必要。漢方生薬の国産化が思うように進んでいないのは、この認識がないことが原因ではないかと考えている。	<ul style="list-style-type: none">富山県が日本一の健康長寿県になることで、「薬都とやま」であることの裏づけができる。
施設のあり方・方向性	
<ul style="list-style-type: none">単に勉強の場だけでなく、「くすり」というキーワードで富山市や富山県という地を育てていく施設にしたい。過去の大事な資料等が散在しているが、それを一括してまとめてデータベース化していきたい。	
コンテンツ	
<ul style="list-style-type: none">材料を粉碎する薬研体験。「懸場帳」の書き方や解説といったコンテンツが展示であっても面白いと思う。	

III ヒアリング等調査

3 配置従事者意見交換会

日 時：2019年1月8日（火） 14：00～15：30

場 所：富山市内

出席者：配置従事者 15人（富山県内（配置先は各地）／概ね56歳未満の現役従事者）

テーマ：配置薬業とのかかわり（きっかけ、学び）

現在の活動（配置先、使用する用具）

越中売薬について（代表的な売薬家、薬種商、

ゆかりの著名人、全国との関係）

配置薬業の現況・将来について

くすりの語り部に伝えたいこと

配置員として、次世代に伝えたいこと



意見

（1）配置薬業とのかかわり（きっかけ、学び）

- ・親世代から引き継いで配置薬業を始めた方がほとんどであった。（中には4代目の方も）
- ・学校卒業後に製薬メーカーに就職し営業をしていたが、かかわっていた売薬さんが楽しそうだったから自分の代から始めた。
- ・売薬について、製薬メーカーの研修会、薬連の講習会、研修センターで学んだ。

（2）現在の活動（配置先、使用する用具）

（使用用具）

- ・柳行李を使っている方が2名、アタッシュケースの方が13名、ケースについて特注のもの（肩にかけ、中身はタンスのようになっている）を使用されている方もいた。
- ・懸場帳を電子化したソフトを業者に作ってもらい、配置先では紙に記録し、家でデータソフトに打ち込んでいる。

III ヒアリング等調査

(3) 越中売薬について（代表的な売薬家・薬種商、著名人、全国との関係）

- ・前田正甫公の話がやはり有名だ。
- ・上市町にある石碑に、売薬さんが山形県米沢市徳町に農具等を伝えたと書かれている。

(4) 配置薬業の現況・将来について

- ・他県出向は減っていき、地元の人が地元で雇われてやっていくようになる。
- ・現状の上得意客は団塊の世代になるが、この世代の年齢が上がり、売り上げが今後は厳しくなってくることが考えられる。
- ・昔は、日本中の配置先で、富山の売薬さんが来てくれてありがとうといった感じであつたが、今は、わざわざ富山から来たことを不思議がされることもある。
- ・配置先で土産話を昔は楽しんでもらっていたが、情報社会化が進み、調べれば分かることが多くなったため、現在は楽しんでもらえなくなった。
- ・売薬について全般的な職業教育を行い、興味を持ってもらうことが必要だ。
子供が親の職業を理解していないように思える。

(5) くすりの語り部に伝えたいこと

- ・業界の「明るい部分」にスポットを当てて話してもらいたい。
- ・売薬さんが全国を回っていることを全国の人に知って欲しい。

(6) 配置員として、次世代に伝えたいこと

- ・「富山のプライド」（売薬さんの心、即ち薬を売るわけではなく、信用を得る心）を伝えていきたい。
- ・個人事業だと、自分が頑張れば頑張るほど儲かることを伝えておきたい。

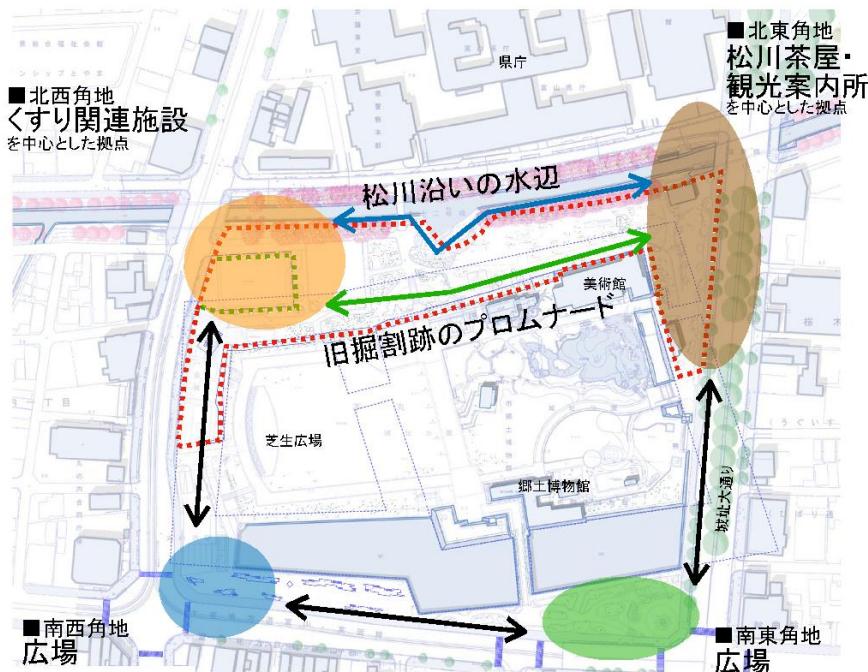
(7) その他

- ・売薬さんが持ってくる薬をなぜか古い薬だと思われる方がいるので、資質向上研修を受け、勉強をして、ちゃんと新しい薬を持ってきていることを伝えたい。

IV 周辺環境調査

1 城址公園整備計画 (※城址公園整備検討委員会より)

(1) 城址公園内におけるくすり関連施設の位置付けと期待される役割



①城址公園北西角地のエントランス空間

- ア. 「くすり関連施設」を中心とした北西角地エントランス空間
- イ. 城址公園外周部の回遊ルートの拠点

②松川周辺の回遊ルートの形成

- ア. 「くすり関連施設」を中心とした北西角地の拠点
- イ. 「松川茶屋・観光案内所」を中心とした北東角地の拠点

上記の二拠点を結ぶ「松川沿いの水辺」、「旧掘割跡のプロムナード」によって回遊路を形成

③建物～公園～水辺が一体となった魅力

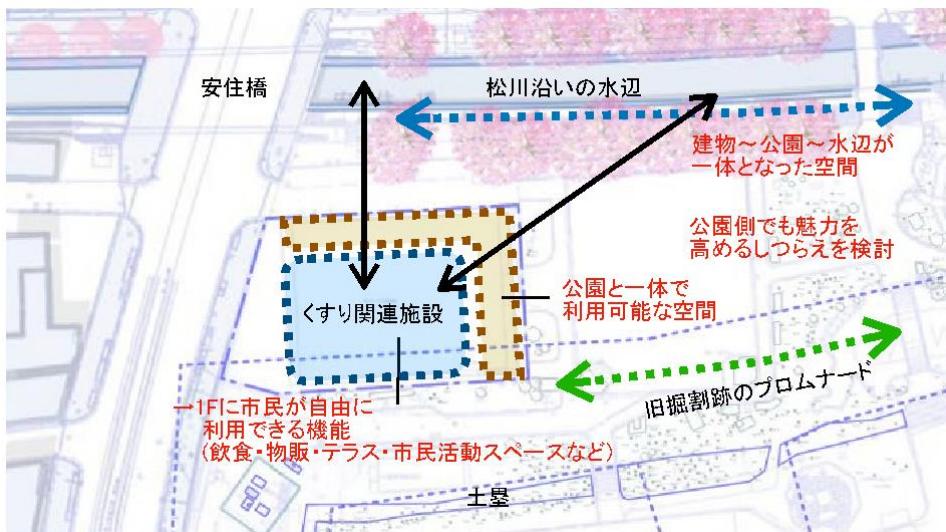
- ア. くすり関連施設の建物～公園～水辺が一体となった魅力的な拠点
- イ. 利用者が気軽に立ち寄れる場所（→休憩、日よけ、雨宿り、飲食など）

④公園管理の拠点

- ア. 城址公園の管理の拠点

IV 周辺環境調査

(2) くすり関連施設に検討をお願いしたい内容



①建物の1階部分について

- ア. 誰でも気軽に利用可能な機能の配置検討
(飲食、物販、テラス、市民活動スペースなど)
- イ. 松川側（北側）と公園側（東側）は、壁などで仕切らず公園とつながった空間の検討
(オープンデッキ、雨宿りや休憩に使えそうな軒・庇など)

上記の検討により、以下の点が実現できると考える。

- ・松川の水辺の風景を建物からも楽しめるようになる
 - ・建物から公園を抜けて水辺の散策を楽しめるようになる
 - ・建物と公園の一体的な利用が可能になる
- (例) 公園でのイベントを建物からも見られるようになる

※公園側も建物が魅力的に見え、自然と入りたくなるようなデザインを目指す

②バックヤードおよび管理機能について

- ア. 松川側（北側）、公園側（東側）を避けた配置の検討

上記の検討により、以下の点が実現できると考える。

- ・松川側（北側）、公園側（東側）は公園とつながった空間を生み出す

IV 周辺環境調査

③公園西口エントランスについて

ア. 城址公園西側エントランスを建物と公園で協力して魅力的にする方法の検討

- (例) · 南側に建物を寄せて北側を広い空間を取って入りやすいようにする
 · 公園エントランスに対する圧迫感の軽減、など

上記の検討により、以下の点が実現できると考える。

- 安住橋の橋詰から城址公園への中へ入りやすい雰囲気を作り出す

④その他

ア. 富山風致地区内における建築等の制限に関する条例の遵守

2 市内施設調査

(1) 立地的特徴

江戸時代の富山城の範囲と照らし合わせてみると、現在の商店街はかつての外堀の外側に位置しており、公園内には、石垣や土塁等の歴史的要素や景観的特徴が現存している。

城址公園は、住宅、商業、公共施設等の様々なエリアに挟まれた場所に位置し、LRT、バス、レンタルサイクル、遊覧船など、多彩な交通モードの結節点である。



城址公園の周辺エリア

<景観的特徴>

- ・松川から芝生広場にかけて、段状の空間構成となっている。
- ・木々が生い茂り見通しがあまりよくない。

視点 A
松川茶屋から城址公園内



視点 B 入口から
佐藤記念美術館



視点 C
塩倉橋から松川



視点 D
対岸から松川エリア

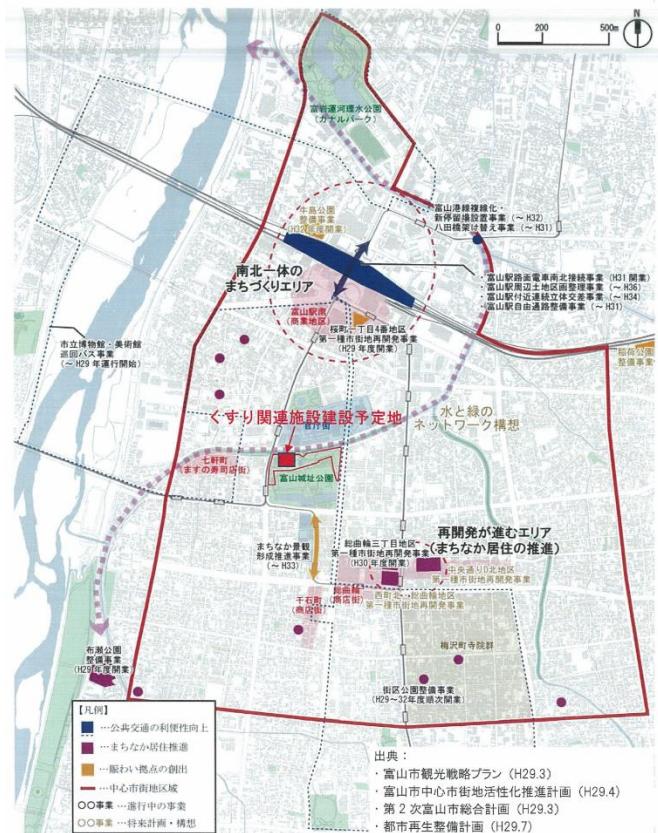


視点 E
親水広場



IV 周辺環境調査

(2) 中心市街地の整備計画状況

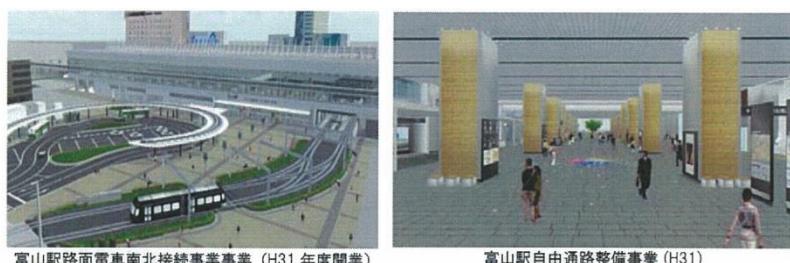


①本市の中心市街地における上位計画では、公共交通の強化や商業・賑わいの再生、誰もが生き生きと活躍できるまちづくり等が提唱されており、LRT の南北接続・バスの運行や再開発による賑わい拠点・住居の設置、観光スポットや住環境向上のための講演の整備等が行われている。

【大きく3つの方針】

- ア. 公共交通の利便性向上
 - イ. まちなか居住の推進
 - ウ. 眠わり拠点の創出

②本市では、城址公園を“風格ある富山の顔となる緑の創出”を目指す核となる公園として位置づけ、中心市街地内において水と緑のネットワーク化の形成を図ることとしている。



IV 周辺環境調査

3 周辺環境調査

(1) 集客調査

富山市内美術館・博物館等 年間利用者数データ

観光客入込数調査から(単位:人)

<博物館・資料館・科学館等>

NO	施設名等	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	備考
		2015	2016	2017	2018	
1	民俗民芸村	90,317	84,009	74,865	68,075	
2	森家	50,644	40,659	37,591	32,299	
3	内山邸	17,997	13,515	14,181	13,575	
4	薬種商の館 金岡邸	5,594	5,453	6,625	7,083	
5	富山市郷土博物館	69,567	72,623	65,421	63,740	
6	浮田家	2,013	1,577	1,655	2,490	
7	廣貴堂資料館	27,001	21,743	19,991	17,434	
8	高志の国文学館	108,233	108,488	108,453	104,667	
9	曳山展示館	28,588	26,835	31,298	22,022	
10	おわら資料館	11,734	11,302	11,822	10,738	
11	安田城跡資料館	17,766	16,893	19,927	21,272	
12	猪谷閑所館	5,596	6,019	5,563	5,778	
13	富山市科学博物館	109,025	121,863	115,042	119,186	
14	北陸電力エネルギー科学館「ワンダー・ラボ」	107,905	99,835	99,939	93,326	

<美術館等>

NO	施設名等	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	備考
		2015	2016	2017	2018	
1	富山県水墨美術館	92,892	73,769	123,563	84,623	
2	富山県立近代美術館	62,014	148,862	-	-	H28.12閉館
3	富山県美術館	-	-	1,001,817	946,237	H29.8開館
4	佐藤記念美術館	20,858	21,795	17,991	17,707	
5	ギャルリ・ミレー	10,608	9,383	9,718	10,710	
6	ガラス美術館	89,814	149,483	129,460	192,615	
7	森記念秋水美術館	-	14,056	18,130	11,417	H28.6開館
8	樂翠亭美術館	-	6,939	7,164	7,166	H23開館

<産業・物産施設等>

NO	施設名等	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	備考
		2015	2016	2017	2018	
1	富山観光物産センター	307,479	228,983	62,309	-	H29.3閉館
2	源	96,152	116,629	125,123	114,669	
3	池田屋安兵衛商店	80,900	70,060	62,000	52,660	
4	梅かま	19,263	18,397	19,356	14,914	
5	岩瀬カナル会館	20,152	25,075	27,965	20,676	
6	富山ガラス工房	105,848	103,091	100,915	99,630	
7	ととやま	-	-	-	67,534	H28.7開館
8	桂樹舎	1,910	1,710	1,637	1,618	
9	道の駅細入	385,375	375,585	382,130	81,620	

<その他施設等>

NO	施設名等	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	備考
		2015	2016	2017	2018	
1	富山市役所展望台	26,404	30,565	29,774	29,141	
2	富山市ファミリーパーク	337,421	327,454	333,313	311,629	
3	松川遊覧船	20,487	14,840	14,116	11,929	
4	富岩運河水上ライン	50,945	51,120	58,323	60,748	
5	富岩運河環水公園	1,377,428	1,542,850	2,515,152	2,256,000	
6	富山県中央植物園	86,391	98,574	108,996	86,893	

(2) 昼夜間人口・事業所特性調査

①調査対象エリア



※上記青枠内が、今回の調査範囲。くすり関連施設から徒歩10分以内の商圈。

※青枠内にあるオレンジエリアは、徒歩5分以内の商圈。

(商圈分析ソフトによる居住や事業所に基づいた商圈人口抽出を前提に徒歩圏エリアを設定)

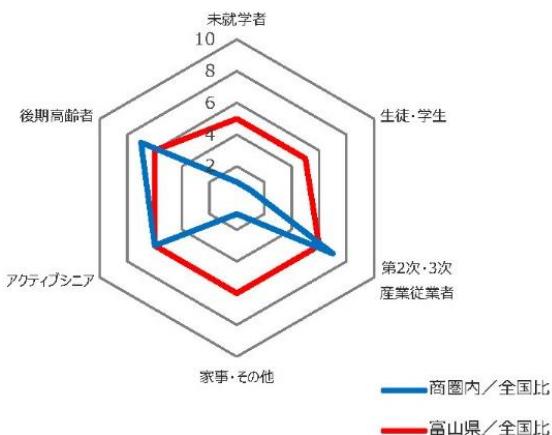
②昼夜間人口・事業所特性：分析地A（徒歩10分商圈：上図青枠内）

商圈内は昼夜人口8:2で圧倒的に昼間の方が多い。
また、官公庁が集中していることからもビジネス街の特性が強い。
第2・3次産業従事者とシニア層が多い。

■ 昼夜間人口比較



■ タイプ別人口ランク（全国平均比）※



出典：リンク統計データ 2010年（国勢調査 2010年、経済センサス 2009年）
Copyright© 2015 GIKEN SHOJI INTERNATIONAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

IV 周辺環境調査

(3) くすり関連施設周辺の駐車場調査

現状、駐車可能と考える周辺エリアとしては、施設予定地より 200m の範囲で設定。

現在、以下の 4 つの駐車場が該当し、その駐車台数としては、138 台と想定。

- ・城址公園駐車場：101 台
 - ・システムパーク丸の内：6 台
 - ・ファースト丸の内：6 台
 - ・タイムズ富山安住町：25 台
- 計：138 台



IV 周辺環境調査

(4) くすり関連施設 周辺飲食店調査（徒歩5分～10分圏内）

施設周辺には昼食等を取れるような飲食施設が少ない。富山大橋側は「ます寿し」のお店などのエリアとなっている。公園内ではしっかりした食事を提供しているレストランは無く、お茶屋などの軽食提供のみ。

利用者の動線を予想すると、公共交通利用か、徒歩15分ほどかけての富山駅・大手町方面への回遊が考えられる。



出典：・「食べログ」を用いたインターネット調査（2018年10月23日閲覧）
・国土地理院の電子地形図（タイル）に追記して掲載

	店名	営業時間	席数	定休日	提供メニュー	一人あたりの単価	
①	高田屋	7:00～18:00	×	無休	ます寿司	1,000～2,500円	「ます寿し」等の郷土料理を味わえる・購入できるお店群
	元祖せきの屋	7:30～18:00	×	無休	ます寿司、かまぼこ、珍味等	1,000～2,500円	
	川上鶴寿司店 丸の内本店	6:30～18:00	×	無休	ます寿司	1,000～2,500円	
	前留鶴寿し	7:00～16:00	×	無休	ます寿司	1,000～2,500円	
②	中華そば つぼみ	11:30～14:30 18:00～22:00	不明	日曜日	ラーメン	1,000円以内	
③	喫茶パープル	7:30～17:00	22席	不定休	コーヒー、軽食	1,000円以内	公園に隣接し、食事ができるお店群。 大手町方面エリア。
	美乃鮓	11:30～14:00 17:00～22:00	32席	日曜日	寿司	昼3,000円～4,000円 夜7,000～8,000円	
④	コンパクトデリトヤマ	9:00～18:00	36席	無休	コーヒー等飲料、ケーキ、サンドイッチ、惣菜各種、カレー、パスタ等	1,000円以内	公園に隣接し、食事ができるお店群。 大手町方面エリア。
	ANAクラウンプラザホテル 1階 カフェ・イン・ザ・パーク	6:00～22:00	110席	無休		1,000～2,000円	
⑤	そば よつの葉	11:30～14:00 17:30～20:00	38席	日曜夜	そば	1,000～2,000円	
⑥	D&デパートメント 富山	10:00～19:00	55席	無休	コーヒー等飲料、パスタ、オムライス等	1,000円以内	
⑦	レストラン清風	11:00～20:30	不明	不定休		1,000～2,000円	
⑧	助庵	10:00～16:30	32席	不定休	抹茶・コーヒー等の飲料、和菓子	1,000円以内	
	※期間限定で佐藤記念美術館で営業 松川茶屋	10:00～17:00	30席	月曜日	抹茶・コーヒー等の飲料、デザート類、軽食	1,000～2,000円	
⑨	富山第一ホテル 1階 コメドール	7:00～21:00	120席	無休		1,000～2,000円	
⑩	業態が多様な飲食店が集中しているエリア。桜木町～桜橋駅周辺。						

路面電車と繋ぎしや甘味の食べ歩きができるぐるっとグルメグリーコンなどの試みが民間の連携で行われている
昼の食事を提供している飲食店が少ないとから、このぐるっとグルメグリーコンとの連携として、くすり関連施設の交流ゾーンの活用も考えられる

IV 周辺環境調査

(5) 城址公園内カフェ実証実験ヒアリング調査

城址公園内でも抜群のロケーションを誇る佐藤記念美術館ロビーにて実施されたカフェ運営の社会実験の状況をヒアリング調査した。

この実験は、城址公園周辺をまち歩きする国内外の観光客や市民をターゲットとして、カフェの必要性や事業継続性を検証するもの。(実験期間:平成30年6月上旬～平成31年3月29日)

<ヒアリング内容>

- ・社会実験業務（カフェ運営含む）の受託会社は、インバウンド観光をマネジメントする観光会社。
- ・主に欧米系の観光客に情報発信する代理店に観光メニューを提供している。
- ・インバウンドへの観光メニュー提供を行うには4か月前にはツアーメニュー提供を行う必要があるため、タイムリーな情報提供ができない状況であった。継続的にカフェ運営が行えればインバウンドの集客が増えるものと思われる。
- ・特にお祭りや夜間のお茶屋ライブなどのイベントは好評であため、定期的な海外向けの情報発信が重要である。
- ・開館時間美術館の開館時間に合わせる必要があるため、営業は10時～16時30分
来県者からは夜間営業を望む声が多く、お酒の提供を望む声がある。
- ・くすり関連施設ができることで、公園の集客力によって回遊性が生まれると考えられ、佐藤美術館としても好影響であると考える。

表 佐藤記念美術館 カフェ来店客数（2018年8月～11月：4ヶ月分）

月	来店客総数 (人)	外国人客 (人)	お茶体験 (人)	外国人率	お茶体験率
8月	595	57	12	10%	2%
9月	559	17	2	3%	0%
10月	676	45	7	7%	1%
11月	542	26	0	5%	0%

V 社会動向調査

1 観光概況調査

(1) 富山県の観光概況

- ・北陸新幹線開通効果で入込数増
- ・富岩運河環水公園が観光地ランキング1位

富山県の観光入込数は、北陸新幹線開通後、特に、富岩運河環水公園の整備後において、首都圏等での情報発信や旅行会社の働きかけによって増加傾向にある。また、日帰り観光だけでなく、新たなホテルの開業も県内各地で見られ、日本人、外国人宿泊客数共に増加している。

(表1)観光地等入込数ランキング(延べ数)

(1) 観光地・観光施設		(単位:人)			
名 称	市町村	29年入込数	28年入込数	対前年比	
1 富岩運河環水公園	富山市	2,515,152	1,542,850	63.0%	
2 水見漁港場外市場ひみ番屋街(総湯含む)	氷見市	1,184,000	1,238,700	-4.4%	
3 道の駅福光	南砺市	1,095,339	1,106,675	-1.0%	
4 海王丸パーク	射水市	1,006,700	1,016,100	-0.9%	
5 立山黒部アルペンルート	立山町	929,051	921,682	0.8%	
6 高岡古城公園	高岡市	859,000	833,500	3.1%	
7 県民公園太閤山ランド	射水市	791,345	808,347	-2.1%	
8 五箇山	南砺市	710,000	778,000	-8.7%	
9 道の駅カモンパーク新湊	射水市	709,284	752,013	-5.7%	
10 桜ヶ池	南砺市	663,335	667,886	-0.7%	

(2) イベント・祭り		(単位:人)			
名 称	市町村	29年入込数	28年入込数	対前年比	
1 となみチューリップフェア	砺波市	323,000	311,000	3.9%	
2 おわら風の盆	富山市	260,000	240,000	8.3%	
3 山王まつり	富山市	250,000	250,000	0.0%	
4 富山まつり	富山市	220,000	220,000	0.0%	
5 とやまスノーピアード	富山市	216,200	213,200	1.4%	
6 福岡町つくりもんまつり	高岡市	170,000	130,000	30.8%	
7 高岡七夕まつり	高岡市	153,000	161,000	-5.0%	
8 高岡御車山祭	高岡市	144,000	156,000	-7.7%	
9 高岡古城公園桜まつり	高岡市	132,500	135,500	-2.2%	
10 戸出七夕まつり	高岡市	130,000	130,000	0.0%	

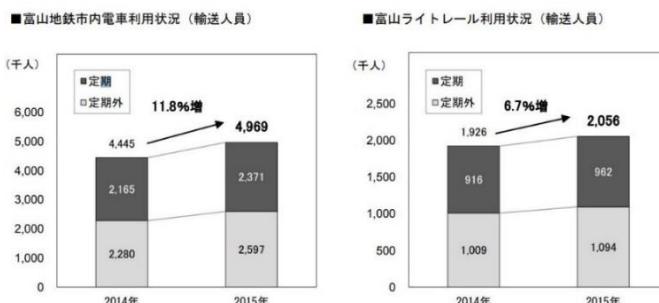
出典：「平成29年富山県観光客入込数等（H29.1.1～H29.12.31）」（富山県観光・交通・地域振興局観光振興室、（公社）とやま観光推進機構）

(2) 富山市の観光概況

- ・北陸新幹線開通効果で入込数増
- ・公共交通を軸としたスマートシティ、観光客/ビジネス客の両軸を有している

富山市は2012年以降入込客数の横ばいが続いていたが、北陸新幹線開通以降は大きく数値を伸ばしている。また、富山市内のライトレールや電車、各観光地もその良い影響を受けており、2015年度の前年対比客数が100%以上の観光施設が散見される。

また、富山市は、中心部にコンベンション施設や宿泊施設が集積しているため、ビジネス客等も多く、観光だけではない市の強みになっている。



出典：「富山市観光戦略プラン」（平成28年 富山市商工労働部観光政策課）

V 社会動向調査

(3) 訪日外国人のインバウンド

・「自然景観」「神社・仏閣」「日常」「ディープな地域」に興味有

訪日外国人に人気の日本国内における観光体験ランキングは、日本は「温泉」が1位なのに對し、訪日外国人は「自然景観」「リフレッシュ」「神社・仏閣」などが人気であった。また「都市公園散策」も好評で、この点は日本人のランキングと大きく異なる点であった。

中国 (n= 100)		韓国 (n= 100)	アメリカ (n= 100)
1位 自然景観を楽しむ	64.0	1位 心身を癒す、リフレッシュ旅行	52.0
2位 富士山	55.0	2位 都市公園の散策	51.0
3位 田舎暮らしを体験する	52.0	3位 温泉（療養とは関係なし）	50.0
4位 ファッション類の買物	50.0	消耗品（食品、酒類、化粧品、薬品等）の買物	49.0
5位 心身を癒す、リフレッシュ旅行	49.0	5位 現地の歴史・遺産にふれる旅行	45.0
6位 電化製品の買物	47.0	6位 神社・仏閣	43.0
7位 都市公園の散策	45.0	7位 日本庭園の散策	43.0
8位 ウェルネス（ヘルス）ツーリズム	43.0	8位 賑やかな雰囲気とした繁華街を楽しむ	42.0
9位 日本酒を楽しむ	41.0	9位 環境を変えて気分転換をする	38.0
9位 日本一周旅行	41.0	10位 自然景観を楽しむ	37.0

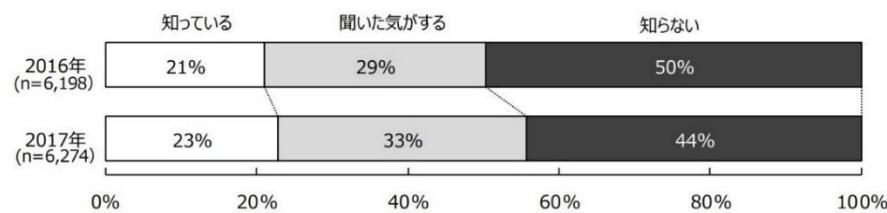
出典：「訪日外国人に人気の観光体験ランキング」（じゃらんリサーチセンター、2018年1月22日レポート）

(4) 北陸地域におけるインバウンド動向

・北陸地域の認知度は全体的に低いが、台湾はやや高めと地域性有。英語対応も課題。

北陸地域は、全国の観光地の中では訪日外国人の訪問回数・認知度が低い地域であることがわかつたが、「立山／黒部」「北陸新幹線」の認知度は増加傾向にある。満足度調査では、不満足な項目として「英語や母国語の通用度」といったコミュニケーションに関することが上位に並んだ。

図：北陸新幹線の認知度



出典：「北陸地域におけるインバウンド客の意向調査～D B J・J T B F アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（平成29年度版）より～」

(2018年2月 株式会社日本政策投資銀行 北陸支店レポート)

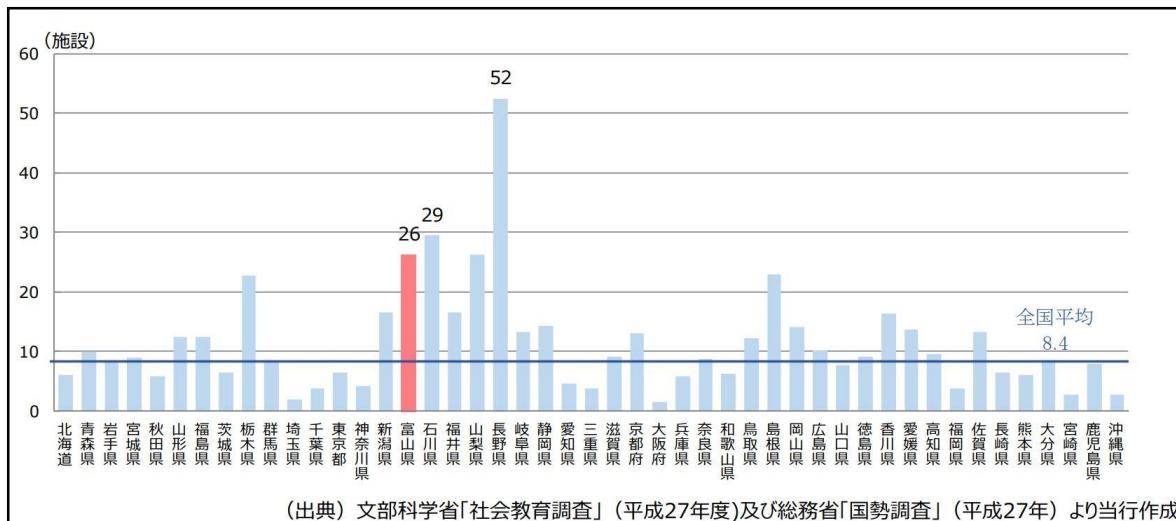
V 社会動向調査

(5) 富山がアート(ものづくり県)で選ばれるために

- ・アートと産業が結びつきやすい地域
- ・富山県美術館の成功がヒント

富山県は全国と比較して第2次産業のウェイトが高く、また、売薬のパッケージやガラス等の関連ミュージアムも多く、古くから「アートとデザイン」と「産業」が結びつきやすい土壌がある。富山県美術館周辺の整備に伴い観光客数の増加も顕著であることをヒントに、富山のものづくり産業がアートやデザインの活用によって富山の魅力創造・活性化させることが戦略的に考えられる。

図：人口 100 万人当たりの美術博物館数（相当施設・類似施設を含む）



(出典) 文部科学省「社会教育調査」(平成27年度)及び総務省「国勢調査」(平成27年)より当行作成

出典：「アートで選ばれる富山へ」(2017年9月 株式会社日本政策投資銀行 北陸支店レポート)

2 ミュージアム等文化関係調査

(1) 国内ミュージアムにおける、エデュテインメント機能導入の実態

- ・親子3代で楽しめる施設の開発ニーズ
- ・「参加・体験」「職業体験」導入施設が多い

近年のミュージアムにおいて「エデュテインメント(注)」施設の開発は増加傾向にあり、中でも「参加・体験」型の施設が数多く開発されている。また「キッザニア」を皮切りに、親子3代で楽しめることや、オリジナリティのあるエデュテインメント開発などが高評価を得るようになったことで、企画側の工夫や発想力も求められるようになってきている。

カテゴリー	名称
食育	青森県立三沢航空科学館
	ヤンマーミュージアム
	四国民家博物館(四国村)
職業体験	郡山市ふれあい科学館 スペースパーク
	日本科学未来館
	九州国立博物館
学び要素のあるアスレチック	ミュージアムパーク茨城自然博物館
	カッフルヌードルミュージアム
	福井県児童科学館
参加・体験	北海道開拓の村
	浦安市郷土博物館
	Daiichi Sankyo くすりミュージアム
その他	福井県立恐竜博物館
	白鹿記念酒造博物館
	ヤンマーミュージアム
その他	福井県恐竜博物館
	白鹿記念酒造博物館

(注)
教育を意味するエデュケーションと、
娯楽を意味するエンターテインメントを合わせた造語で、娯楽の要素を取り込み、楽みながらする教育プログラムやそのためのソフトウェアのこと。教育に娛樂性を持たせることで、子どもが興味を持って学習することを意図している。

(出典: KDDI 株式会社 ホームページより)

出典:「企業ミュージアム・テーマミュージアム 開発事例集 & データファイル」(総合ユニコム/2015年)

(2) 生涯学習・リカレント教育について

- ・「外国語」「医療や福祉」が学び直しに人気
- ・「教養」「人生を豊かにする」ために学び直したいという回答が約50%

「くすり関連施設」では、薬業に係わる知識や歴史を伝えることを検討しており、「学び」に対する国内ニーズの調査として、「生涯学習・リカレント教育」に絞ったアンケート調査を調べたところ、「医療や福祉に関すること」、「自分の健康」への学習意欲の高さや、学ぶ場としては「公的な機関における講座や教室」などの結果が得られた。

更問（問9で「学んだことがある（現在学んでいる）」、「学んだことはないが、今後は学んでみたい」と答えた方（817人）に）
学びたいと考えた理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

(上位5項目)
平成27年12月

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ・教養を深めるため | 51.8% |
| ・今後の人生を有意義にするため | 48.8% |
| ・就職や転職のために必要性を感じたため | 28.4% |
| ・現在または学んだ当時に就いていた職業において必要性を感じたため | 25.1% |
| ・他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため | 21.2% |

出典:「教育・生涯学習に関する世論調査」(2016年2月 内閣府政府広報室)

3 スマートシティ・ヘルスケアタウン調査

(1) 米国におけるスマートシティに関する取り組み

- ・世界的にスマートシティ構築が急がれており、経済効果も認められている
- ・街ぐるみでのITインフラの整備・活用から、家庭への医療サービス提供など、地域によって多様な取組みが進んでいる

ITを活用した様々な取り組みを進める米国のスマートシティのプロジェクトを紹介する。

世界のスマートシティ市場の規模は、2020年までに約1兆5,650億ドルに達すると予測されており、その中でもスマートエネルギーが最も急成長する分野になると見られている。

ニューヨークにおける大型タッチパネルデバイスの設置といったハード面の整備事例をはじめ、フロリダ州のレイクノナでは、街全体に高速インターネット環境を整備することで、医療機関と各家庭での医療データの共有も行われている。



出典：「米国におけるスマートシティに関する取り組みの現状」(JETRO/IPA New York、ニューヨークだより 2015年10月)

※2020年のスマート市場調査円グラフは、「SmartCity Marketbe Segments,Global,2012-2020」グラフを和訳したもの。

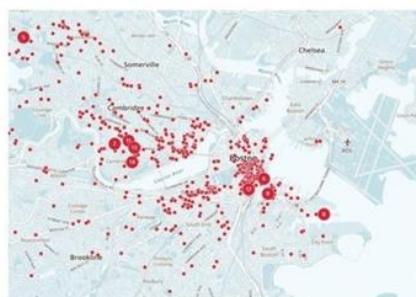
(2) 世界最大のライフサイエンス・バイオクラスター ボストン

- ・バイオクラスター・エコシステムの構築により、人・カネがさらに集中
- ・州による法整備や周辺大学への研究費投入などの環境整備も重要
- ・今後は大きくなりすぎたクラスターの維持・変化・差別化が課題

ボストンは製薬・バイオテクノロジーの街として知られているが、その中でも「ケンドール・スクエア地区」はグローバル製薬会社トップ20社のうち13社のほか、Facebook社、Google社など大手テクノロジー企業の拠点、さらに数十のスタートアップ企業が集まる世界最大のクラスターである。

有力企業が集積することで、さらなる企業や業種、優秀な人材を呼び集め、バイオクラスター・エコシステムを構築している。クラスター形成の背景には、マサチューセッツ州による法整備や周辺著名大学への多額の連邦研究費などの公的な環境整備も大きく存在する。

位	都市	主な評価要素と順位(25都市中)					
		人材	資本	産業の専門性	スタートアップの密度	スタートアップコミュニティとのつながり	起業家を惹きつける環境・文化
1	ボストン(MA)	4	1	3	1	5	7
2	ペイエリria(CA)	1	2	1	2	8	14
3	フィラデルフィア(PA)	11	7	4	5	11	4
4	サンディエゴ(CA)	7	4	8	4	13	11
5	オースティン(TX)	1	13	12	3	16	6
6	アトランタ(GA)	12	17	9	13	3	7
7	ダラス(TX)	6	16	15	11	14	1
8	シアトル(WA)	1	6	11	7	22	23
9	ニューヨークシティ(NY)	19	3	2	15	7	25
10	ポートランド(OR)	9	23	23	8	8	3



出典：「世界最大のライフサイエンス・バイオクラスター ボストン」(JETRO/IPA New York、ニューヨークだより 2018年9月)

V 社会動向調査

(3) 「Fujisawa サスティナブル・スマートタウン」プロジェクト

- ・住人のくらしから考える「人中心」「くらし起点」のインフラ整備
- ・健康・福祉・教育が共存する世代を超えたコミュニティ形成

「Fujisawa サスティナブル・スマートタウン (FujisawaSST)」は、藤沢市とパートナー企業約 18 社とで進める官民一体のプロジェクトである。約 1,000 世帯の住人ひとりひとりのくらし起点の街づくりをコンセプトとし、100 年ビジョンを掲げ、タウンデザインとコミュニティデザインのガイドラインを策定している。

「エネルギー」「セキュリティ」「モビリティ」「ウェルネス」「コミュニティ」の 9 つのテーマに沿って、エネルギーを自産自消できる住宅など、くらしの先端設備やサービスを街全体に取り入れている。



出典：「Fujisawa SST 協議会 FSST コンセプトブック」(Fujisawa SST 協議会 / 2016 年 12 月) ほか

(4) 京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区

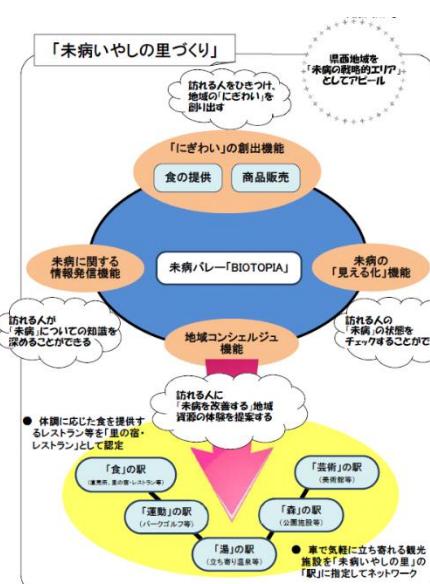
- ・「最先端医療」「健康寿命の延伸」の 2 つのアプローチが融合した特区
- ・特区は H25 年に拡大。地域単位の多様なプロジェクトも進行している。

「京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区」は、平成 23 年 12 月に国が指定した特区で、神奈川県、横浜市、川崎市の 3 団体が対象となっている。特区内には、グローバル企業、大学、研究センター、医療機関が集まっており、企業の先導のもと、医薬品・医療機器産業を活性化させ、国際競争力の向上、関連産業や中小企業等への波及、経済成長とライフィノベーションの実現に向けた取り組みを推進している。

神奈川県は「ヘルスケア・ニューフロンティア」政策として未病の改善に積極的にアプローチしている。その中の「県西地域活性化プロジェクト」では、県内の一部地域を戦略エリアに据え、「未病の改善」をキーワードに地域のにぎわいづくりに取り組み、「食」「運動」「温泉」など地域性を活かした PR 活動や集客施設の活用による交流人口の増加等を進めている。



出典：<https://www.yokohama-cu.ac.jp/aicsfu/nsega/index.html> ほか



出典：<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0602/kenseipj/file/>

用語編

※アウトリーチ

館外での教育普及事業、出前授業。

※ICT (Information and Communication Technology)

情報・通信に関する技術の総称。従来から使われている「IT (Information Technology)」に代わる言葉として使われている。

※イノベーション (Innovation)

「改革」「革新」を意味する単語で、新しい市場の開拓や新機軸の導入など革新的な取り組み全般に対して使われている。

※イノベーター

革新者。新技術などの導入者。

※インタラクティブ

「対話」または「双方向」といった意味で、ユーザーがパソコンなどの画面を見ながら、対話をするような形式で操作する形態を指す。

※インバウンド

インバウンドツーリズムの略。外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

※SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

「世界中の誰一人取り残さない」をテーマに、平成27年9月の国連サミットで193の全ての国連加盟国が合意した2030年までに達成すべき課題と、その具体目標を定めたものである。

貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正といった17分野にわたる目標と、より具体的な達成目標である169のターゲット、さらに目標の達成に向けた進捗状況を測るための230のインディケータ（指標）が設けられ、グローバル化が急速に進む社会、経済、環境上の様々な課題に対して、世界各国の市民や企業、行政が協働して取組んでいくためのキーワードとなるものである。

※エポック

時代。特に、新しく画期的な時代・時期。新紀元。

※AI (Artificial Intelligence)

人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称。人工知能とも呼ぶ。AIを応用したシステムには、専門家の知識をデータベース化して問題解決に利用するエキスパートシステムなどの例がある。

※AR・VR (Augmented Reality・Virtual Reality)

ARはAugmented Realityの略で、一般的に「拡張現実」と訳される。実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示すること。目の前にある世界を仮想的に拡張するVRは、クローズドな世界（スクリーン）にリアリティを高めた視覚映像を投影する「仮想現実」のこという。

※LRT (Light Rail Transit)

低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムのこと。

※オープンイノベーション

企業が技術の価値を高めようとする際、内部のアイデアとともに外部のアイデアを用い、市場化の経路としても内部の経路と外部の経路を活用することができるし、また、そうすべきであると考えるパラダイム

※懸場帳

置き薬の得意先範囲は一種の営業権を意味する暖簾価値をもち、懸場と呼ばれた。その内容記載名簿である懸場帳は売薬行商の基礎財産で、売買、賃貸、質入の対象ともなった。

※くすりの体内吸収

薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の一つ。飲む、吸う、貼るなどして薬を体の中に取り入れることを指す。

※ゲノム・バイオ

ゲノムとは、遺伝子(gene)と染色体(chromosome)から合成された言葉で、DNAのすべての遺伝情報のこと。バイオはバイオテクノロジーの略。生物学を意味するバイオロジーと技術を意味するテクノロジーの合成語で、生物の持っている働きを人々の暮らしに役立てる技術を指す。

※交流人口

交流人口（こうりゅうじんこう）とは、その地域に訪れる（交流する）人のこと。その地域に住んでいる人、つまり定住人口（又は居住者・居住人口）に対する概念である。

※シティブランディング

まちの魅力について、他と明確に差別化できる個性（イメージ・信頼感・高級感など）をつくりあげること。

※シピックプライド

市民一人ひとりの「わがまち」に対する愛着や誇りのこと。

※生薬

動植物の薬用とする部分、細胞の内容物、分泌物、抽出物または、鉱物など。

※信用3本柱

富山売薬が行商を行う上で、大切にしてきたこと。「商いの信用」「くすりの信用」「人の信用」の3つの信用を指す。

「商いの信用」の基本は、顧客との間にトラブルを起こさず、不正な商いをしないということ。

「くすりの信用」は、有効で安全な品質の高いくすりを提供すること。そのために、絶えず顧客の求めるくすりをリサーチし、品質開発に努めなければならない。

「人の信用」は顧客の悩み相談に乗って、適切なアドバイスを行ったり、励ましたりすることで信頼関係が作られることを示す。

※先用後利

配置薬業の商法。家々に薬を先に預け、一定期間内に使用した薬の代金を後に支払ってもらい、古い薬を交換して、新しい薬を配置する顧客の利便性を考えた販売方法。

※富山やくせん

「富山のくすり」の伝統を活かして、富山の食材と古くから健康によいとされる食材を使って、栄養バランスや安全面に配慮しながら作られた料理等のことを言う。富山市の商標登録。

※売薬資本

明治時代以前には藩のきまりで、蓄積した資本を他に投じることが禁じられていた。明治を迎えるとその束縛が外れ、売薬業者は金融機関をはじめ、水力発電・鉄道・各種製造業・出版や印刷・教育などの幅広い分野に投資していった。

※売薬版画

富山売薬が他の売薬との差別化を図るために、得意先との関係継続を目的として江戸時代後期に導入したとされる商法に用いられた代表的な進物。江戸後期から明治中期に配られ、当時は錦絵や絵紙と称された浮世絵版画。

※反魂丹役所

反魂丹役所（1816～1870）売薬業の信用の維持と営業の拡大、売薬人の政治的・経済的機能強化を目的とした半官半民による富山売薬業の統制機関。上納金の経理、売薬人の保護（藩権力のバックアップ（旅先藩の入国差止解除、目印）等）、統制（薬種吟味、配給統制、薬種管理等）を行った。

※引き札

江戸、明治、大正時代にかけて、商店、問屋、仲買、製造販売元などの宣伝のために作られた広告チラシ。広告の歴史資料としてだけでなく、独特的な色合いと大胆な図柄から美術品としての価値もある印刷物として蒐集の対象ともなり、各地の博物館に所蔵されるほか、展覧会も開かれている。

※PPP (Public Private Partnership:パブリック・プライベート・パートナーシップ: 公民連携)

公民が連携して公共サービスの提供を行う手法の総称であり、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれる。

※ファシリテーター

集会・会議などで、テーマ・議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏らないよう、順調に進行するように口添える役。議長と違い、決定権を持たない。

※MICE (Meeting、Incentive tour、Convention、Exhibition)

Meeting (会議・研修・セミナー)、Incentive tour (報奨・招待旅行)、Convention または Conference (大会・学会・国際会議)、Exhibition (展示会) の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態。参加者が多いだけでなく、一般的の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。

※埋蔵文化財包蔵地

住居跡などの「遺構」、土器や石器などの「遺物」といった文化財が埋もれている土地（遺跡）のことを指す。

※前田正甫公

前田正甫公は、富山藩の第二代の藩主であり、壳菴業の生みの親ともいわれ、藩政の充実に力を注ぎ、藩の財政の立直しのため、富山壳菓業の形成など領内産業の振興を図った。

※マルシェ型販売

マルシェはフランス語で「市場」という意味の言葉であるが、本事業でのマルシェ型販売は富山の食材やくすりをテーマとした食の販売や、富山ならではの物産の販売を屋台形式で行うことを指す。

※V I (Visual Identity)

施設のイメージや伝えたいことを言葉だけでなく、アイコン（記号）として組織の内外に共有化されるもの。

(ex. ロゴやシンボルマーク) または、それらを活用する際の約束事・ルールを含む。(ex. ブランドガイドライン)

※未病

「未病」とは、発病には至らないものの軽い症状がある状態。

2019年3月発行

発 行 富山市 商工労働部 薬業物産課

<http://www.city.toyama.toyama.jp/>

支 援 乃村工藝社・オリエンタルコンサルタンツ
基本構想等策定共同企業体